

・景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北海道)	良く なっている	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・4月の年間受注状況が前年比で3%良化している。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・4月の利用人数は、26日現在で前年比128.2%と前年から大きく上向いている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・観光シーズンがようやくスタートしたことに加えて、大規模な公共工事が始まったことで、旅客、車両ともに輸送量が大きく増加している。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・株高や金利低下、公共工事増で客の気持ちが上向いている。
やや良く なっている		商店街（代表者）	単価の動き	・高額品の動きが以前より良くなっている。ただし、来客数や販売量、客単価については、明るいムードは感じるものの、実態はまだまだ厳しい。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・景気回復の実感はまだない。ただ、客の気分が高揚している様子がうかがえ、期待感は十分にある。北海道における外国人観光客は順調に推移しており、中国本土からの観光客はまだまだ低調だが、前年のタイ直行便の就航により、南アジアからの観光客が増えており、中国本土の落ち込み分を徐々にばん回している。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・4月の全店の売上は、7日、14日と荒天で苦戦したものの、前年並みで推移している。買上客数も前年を上回っている。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・景気回復の報道が連日なされていることで、市内の消費に対する気運もかなり高まってきている。特に、特選ブランドと呼ばれる海外有名ブランドの売上が好調で、全体の数字の押し上げに寄与している。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・気温低下という天候要因がありながら、売上はほぼ前年並みで推移している。特に月末にかけては、最高気温の前年差がマイナス10度以上と寒い日が続いているものの、消費マインドは悪くない。
		スーパー（店長）	単価の動き	・プチぜいたく的に自家需要での高単価品の動きが前月と同様に活発である。衣食住すべてにおいて同様の動きとなっている。ブランド品、フォーマル、和牛、まぐろ、輸入果実、化粧品などが挙げられる。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数はそれほど増えていないが、高い商品から売れ始めている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・4月に入ってから、アルコールの売上が持ち直してきており、家庭内消費の持ち直しがうかがえる。
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・春物衣料に対して客の購買意欲が動いている。一方で、円安の影響も出てきている。また、電力料金の値上げや消費税増税を控えて、家計に圧迫感が感じられる。
		自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・商品の買上点数が増えている。特に洗車用品が前年の1.3倍と伸びており、車にお金をかける流れが出てきている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・観光シーズンに入り、年配の夫婦や家族連れの観光客が目立っている。昼夜とも満席の日もあり、来客数は前年比で2けたの増加となった。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・4月に入り、温暖な気候となったことで来客数が伸びている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・各週末の個人予約が好調に推移している。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・消費税増税前に住宅を購入しようという動きがみられる。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・販売量は堅調に推移している。現在、分譲マンション市場全体の在庫はとも少なく、売り出すとすぐに完売してしまうような状況である。客がマンションの購入を競っているような状態である。
変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・肌寒い日が続く、アパレル関連の動きが鈍化気味となっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	それ以外	・トレンドがはっきりしていることで商品がそろっているものの、天候の変化に左右されており、全店的に動きが安定していない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・新政権の経済対策により景気が良くなるという雰囲気はあるのだが、客からは今一つという声が聞こえる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・様々なメディア等で景気がわずかながら上向きと発表されているが、当地域では停滞ムードが漂っている。一部の大企業では給料のベースアップの発表があったが、当地域では農業を基幹とする中小企業がメインであるため、政策効果の見えづらい状態が続いている。その反面、円安の影響として、燃料代等のアップにより生活費が圧迫されることで、さらに低価格のものを買い求める傾向とともに極力買物を控えようとする動きが目立つ。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	単価の動き	・寒さが続いていることで、春の訪れを迎える気にならないためか、観光客の出足は鈍い。また、石油等の値上がりや電力料金値上げのニュース等の影響で上向くはずの消費も冷えようとしている。ただ、当社の売上は、東日本大震災の影響でこの2年で相当落ちたが、今年は震災前の96%程度までは戻ってきている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・販売量はそこそこで推移しているが、より商品単価の低い商品に移行しようとする動きがみられる。例えば、焼酎であれば大容量の4リットルが売れたり、お茶は2リットルのペットボトルの動きが良いなど、得意先もそういうことを気にかけているようで、なかなか売上が伸びづらくなっている。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・2～3月はラグジュアリーブランドの値上げが集中したことで駆け込み的に前倒し購入があった。その後は回復傾向にあるものの、冬型気候の継続などで季節が変わりきれていないため、4月のボリュームゾーンの購買動向が遅れている。
		百貨店（役員）	販売量の動き	・今月のホームセンター部門はここ数か月で一番悪かった。天候不順が最大の要因とは思いますが、新政権の経済対策の効果が末端消費につながっていないことを痛切に感じる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・販売量の動きをみると、1～3月までは前年割れではあったものの、右肩上がりで推移していた。しかし、今月は日曜日が1日少ないこともあり、足踏み状態である。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・新政権の経済対策の影響もあり、消費環境のムードは明るくなってきているが、日々の競合店との価格競争は激しさを増している。また、来客数も相変わらず伸び悩んでおり、足元の景況感是不透明感をぬぐえない状況である。
		スーパー（役員）	来客数の動き	・4月は前年よりも日曜日が1日少ないことに加えて、初旬に台風並みの低気圧が発生したことで、来客数が前年比で約3%低下した。他業種では、良い業種、業態が増加している状況も聞かれるが、当社はまだ上昇傾向には至っていない。一方、客単価については前年比で1%低下しているが、前月と比べてそう変化はみられない。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・年金支給日や月末の給料日の後など、お金のある時にまとめ買いをする傾向が継続している。景気が回復するようには感じられない。
		衣料品専門店（店長）	それ以外	・商店街関係の集まりで話を聞いても、客からの話でも、あまり芳しい話は聞いていない。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・景気が回復しているとマスコミ等で報道されているが、給与面等は変わらないため、実際には変化がみられない。株高等で収入が増えている人もいるが一部である。
		家電量販店（店員）	単価の動き	・独り立ち用の家電需要について、前年と比較すると客単価が落ち込んでいる。内容も必要最低限のものにとどまっている。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・新政権の経済対策の効果がいまだに家電需要に反映されていない。特にテレビについては、回復がほとんど見込めないほど、落ち込みが大きい。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・2～4月にかけて販売量は安定しており、大体同じ程度で推移しているが、そこまで景気が上向きになったとは正直思えない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
		乗用車販売店 (営業担当)	競争相手の様子	・テレビや新聞で取り上げられているような景気上向きの報道とは異なり、当地区では同業他社をみても、受注量は上向きになっていない。		
		その他専門店 〔医薬品〕(経営者)	お客様の様子	・買い控えに加えて、悪天候の影響がみられる。特に高齢者が中心の店舗であるため、少しでも寒かったり、雨模様だったりすると如実に影響する。購買意欲も減退しているようだ。		
		その他専門店 〔ガソリンスタンド〕(経営者)	販売量の動き	・車のハイブリッド化により燃費が向上しており、販売量が減少している。		
		高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・ゴールデンウィーク前後は毎年良くないが、今年も昼夜とも例年並みであった。ただし、数字には出てきていないが、女性客の服装が明るくなっていることや、男性客の明るい話題が増えていることなどから、景況感は上向いているようだ。夕食が低単価の飲食店では早い時間のにぎわいが戻りつつある。		
		スナック(経営者)	来客数の動き	・特別、前年と変わらないが、街中に客が少しずつ多くなった印象がある。		
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・引き続き集客に弱さがあり、3か月前と比較して景気が上向いている実感はない。		
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・前々年の11月より良い状況が続いている。		
		タクシー運転手	来客数の動き	・4月になって暖かくなり、タクシーの利用客が3月までの雪のある時に比べて極端に減っている。4月のタクシーの売上は前年と比べてもほぼ同じである。		
		タクシー運転手	販売量の動き	・周囲の状況からは上向き感が感じられるが、事業そのものについては具体的に持ち直しの兆候はまだみられず、需要の安定しない状況が続いている。		
		タクシー運転手	来客数の動き	・観光関係も含めて、注文数、問い合わせ件数ともほぼ前年並みである。		
		通信会社(企画担当)	お客様の様子	・大幅な割引を行っても、前年同時期ほどの反応が客からみられない。		
		やや悪くなっている		百貨店(売場主任)	お客様の様子	・春物については、コート関連やジャケット関連の動きはあるものの、単品での動きにとどまっている。一方、婦人関連では、トレンドであるパンツが好調に動いている。高額な宝飾品、絵画等には動きがみられない。
				コンビニ(エリア担当)	販売量の動き	・当地の主要産業である水産加工において、ロシアとの問題が絡んできており、今後出漁できるか分からないため、来客数が減少してきている。
				旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・新政権の経済対策の効果に期待していたが、1次産業、特に農業への依存度が高い当地ではTPP問題が大きく影響しており、政治不安をとまなう先行きへの不安感がまん延している。航空機も低価格運賃中心の販売となってきており、客単価の低下がみられる。
タクシー運転手	販売量の動き			・タクシーの売上は天候に左右されるため、雪の影響が大きかった3か月前と比較して売上が落ち込むのが普通だが、今年は15.4%もの落ち込みがあることから、やや悪くなっている。		
美容室(経営者)	来客数の動き			・低温や多くの残雪、そして晴れの日が少ないといった悪い気象状況が続いたため、来客数が極端に少ない状況になっている。		
悪くなっている	タクシー運転手			販売量の動き	・冬季の売上の増加は大雪という季節要因によるもので、景気の押し上げによるものではなかった。春を迎えると同時に、前年を下回る状態となった。	
企業動向関連 (北海道)	良く なっている	通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・平成24年度第4四半期後半より、販売量、引き合い件数が増加傾向を示している。また、それらの規模も大きくなっている。		
		食料品製造業(経営者)	それ以外	・実体経済はまだまだデフレ不況から脱していないが、新政権の経済対策の効果で何となく世の中が浮わっている。		
		建設業(従業員)	受注価格や販売価格の動き	・円安や電気料金値上げの動きにともない、建設資材の値上げの動きがみられる。また、労務者不足から労務単価も上がっており、総じて建設工事費は上昇傾向にある。		
		輸送業(支店長)	受注量や販売量の動き	・景況感については北上するまでのタイムラグがあるが、関東圏向け建築物の輸送が動いている。また、北上便の輸送比率が高まりつつあり、引き合いも出だしている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・購買力は上がってきているが、慎重なのは変わらない。価格競争をさせ、少しでも価格を落とす努力を怠らない。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・商品の販売量が徐々に増えてきている。また、補助金絡みの設備関連の案件が活発化している。
		食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・公共事業関連では活況がみられるものの、食品製造業では円安の影響により原料価格や資材価格が上昇している。一方で、末端販売店、スーパー、コンビニ等での価格競争の強まりもあり、中小製造業では販売価格への転嫁は困難な状況である。
		食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・身の回りの景気は、3か月前と比べてやや悪い状況のまま変わらず推移している。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・円安株高により景気は回復基調にある。しかし、材料費や光熱費などコストアップが先行しており、家具インテリア市場はまだまだ活性化しているとは言い難い。
		金融業（企画担当）	それ以外	・設備投資は医療福祉施設の新増設やメガソーラーの建設で底堅い。観光関連はLCCの就航が追い風となっている。しかし、円安による原材料価格や燃料費の上昇が企業収益を圧迫している。また、人手不足で建設工期の遅れもみられる。
		司法書士	取引先の様子	・土地や建物の売買等の取引において、現時点では大きな変動がなく、今後の建物の建築に期待しているところである。
		司法書士	取引先の様子	・雪解けとともに土地の取引情報が増えたが、まだまだ打診の域を超えない状況である。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・年度が替わっても、今のところ特に仕事が増えている感じはない。今年度は設備投資を増やすという話も全く聞こえてこない。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・地方都市では円安のマイナス部分のみが反映されている。最も深刻なのは燃料費の高騰で円安のプラス部分を補っていないことである。
		やや悪くなっている	司法書士	取引先の様子
悪くなっている	-	-	-	
雇用関連（北海道）	良くなっている	○	○	○
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・正社員の新規求人が2割ほど増えている。パート求人については横ばいで推移しており、正社員求人の増加が際立っている。最近の景気回復をみて、守りから攻めの経営に変化しようとしているようにも見える。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・3か月前と比べると求人広告件数が1割以上増加している。特にサービス業、建設関連産業の伸びが目立っている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・景気が良くなっている実感はないが、求人数は着実に増えており、前年比で1～2割の伸びとなっている。求人数の増加にともない、応募数が少なくなっており、企業活動の足かせとなる懸念がある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	・求人件数はゆっくりと伸び続けている。3～4月は人材の入替わり時期であるが、それだけではなく、増員募集をする企業が多くみられた。なかでも正社員求人が増えたことは、景気の先行きが向上と読んでいるためとみられる。業種では、建設業や運輸業、金融・保険業、介護福祉などが堅調で、個人消費関連も順調に推移している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・北海道新幹線開業を控えて、ホテルの改修や新設の計画が進んでおり、観光産業からの求人が増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は5.1%増加し、38か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も9.6%増加し、38か月連続で前年を上回った。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・建設業では技術者や営業、作業員の小口の求人が積み重なることで、求人件数が増加傾向にあり、景気回復の兆しとも取れる動きがみられる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・年度の替わるタイミングで一時的に求人は増えたが、退職者も増えているため、全体ではプラスマイナスゼロである。 ・3月の新規求人数は前年を1.8%上回った。新規求職者件数は前年を10.9%下回った。月間有効求人倍率は0.77倍となり、前年の0.68倍を0.09ポイント上回った。しかし、新規求人数のうち、正社員求人の占める割合は42.6%であり、求人者と求職者の間における職種や労働条件のミスマッチも少なくない。
		職業安定所(職員)	雇用形態の様子	
	やや悪くなっている	—	—	—
	悪くなっている	—	—	—

2. 東北(地域別調査機関:公益財団法人東北活性化研究センター)

(-:回答が存在しない、○:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (東北)	良くなっている	タクシー運転手	お客様の様子	・人が外に出ている。博物館の展覧会にも人が多く集まっており、繁華街にもぎわっている。
	やや良くなっている	商店街(代表者)	販売量の動き	・円安、株高とアベノミクス効果が声高にいわれているが、商店街個店ではあまり感じられないという声が多い。また、デスティネーションキャンペーンも、効果を期待できる関連店が少ないこともあり、限定的に見られるだけで全体までは波及していない。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・消費者の購買動向から3か月前より良くなっている。ただし、電気料金やガソリン、灯油等の値上げ先行で、総体的には一服状態に近い雰囲気でもある。
		一般小売店〔医薬品〕(経営者)	販売量の動き	・1人当たり2.4個程度であった販売量が2.8個と微量ながら増えている。必要なものその他ちょっと欲しいものを買っている様子が見られるため、景気は良い方向に流れているようである。
		一般小売店〔寝具〕(経営者)	お客様の様子	・2次製品の動きは相変わらず鈍いが、布団の仕立ては注文がある。暖かさとともに押入れの整理をする客が増えているようである。
		百貨店(総務担当)	お客様の様子	・数か月前に比べて、海外ブランドのブティック関連の商材が動き出している。また、高額品、特に高級時計なども実際に購買までは至らなくとも下見の客が増えているなど、客の消費行動は少しずつ変化してきているようである。
		百貨店(企画担当)	販売量の動き	・輸入品を始めとした高額商品の一部値上げがあり、駆け込み需要など活発な動きが見られ、値上げ後も堅調に推移している。衣料品については低気温が続き低調な動きのため、一部春物のセールを実施し、来店客の買上比率を高めている。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・一時期季節外れの降雪があったものの、全体的に気候も落ち着いてきており、売れるべきものが売れる時期にしっかりと売れてきている。顕著な動きとしては、宝飾品やブランド品といった高額品の売上が前年を大きく上回っている。またここ数回不振であった物産展も徐々に好調である。
		スーパー(店長)	単価の動き	・現状では円安で値上げの商品もあるが、消費全体では単価がアップしているため、買上単価が上がっている。
		コンビニ(経営者)	販売量の動き	・来客数が前年比3%増加に対して、買上点数は7%増と好調である。個人の購買意欲がおう盛になってきている。また、野菜の高値が続くなか、野菜を安定した値段で販売していることが主婦層の来店に繋がっているようである。
		コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・前半は来客数前年比も回復している。
		コンビニ(店長)	来客数の動き	・雪が解け、異動や転勤も終わり、本格的に人が動き始めてきている。気温上昇とともに来客数も段々と増えてきている。複数店舗を営んでいるが全店で来客数が増加している。
	衣料品専門店(経営者)	単価の動き	・フリー客の購買に関しては、量、単価共に2、3か月前と比べ大きな変化はない。しかし、VIP顧客の買上単価が上がっているため、売上は3か月前よりやや増加している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (総務担当)	単価の動き	・寒暖の差が大きく売上自体は悪いが、単価の高いものが売れるようになってきている。
		家電量販店 (店長)	お客様の様子	・電気料金の値上がりを中心にらんだ省エネタイプのエアコン及び冷蔵庫の動きが活発になってきている。
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・新型車、ハイブリッド車に引張られ、徐々に前年超えの販売状況である。しかしながら、店頭で客が戻りつつあるものの、受注面では前年割れの状況が続いている。
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・新型車が出ることもあり、代替を我慢していた客が新車に乗り換える動きが活発になってきている。
		その他専門店 [白衣・ユニフォーム] (営業担当)	販売量の動き	・ようやく新年度で人の出入りがあり、制服の受注にこぎ着けている。しかし、以前に比べれば新入社員の減少等により確保が難しくなっている。
		その他専門店 [ガソリンスタンド] (営業担当)	販売量の動き	・軽油を中心に、土木建築及び当県特有の除染活動のため消費が伸びてきている。他の地区からの作業員の入込も多く、例年官公庁の年度替りに伴う予算の端境期に落ち込むはずの消費が堅調を保っている。
		その他小売 [ショッピングセンター] (統括)	販売量の動き	・売上高の前年比が3か月前よりも上昇傾向にある。
		高級レストラン (経営者)	お客様の様子	・株価も上がっており、客の表情も良くなってきている。
		高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・北東北は春の訪れが感じられるようになり、旅行や外食等に積極性が出ている。テレビや雑誌などの情報に敏感に反応し、グループなどで行動を起こしている様子が見られる。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・レストランはまだまだ出足は悪いが、1、2月のようなひどさではなくなっている。暇なときは相変わらず暇だが、以前に比べて忙しい日が時々あるといった点で、数か月前よりは少し展望が良くなってきている。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・今までは花見のシーズンでも客が来ることはなかったが、今年は花見をして、その後に飲んだり食べたりしたいという客が増えている。過去10年においてこういう現象は初めてである。
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・今月は年度初めだが、会社関係の団体は少なく、例年の学校関係のオリエンテーションが主要である。ほとんどが小団体、個人客で入込数も伸びない。また、ゴールデンウィークの前半も観光客は少なく、個人客でかろうじて満館となっている。
		観光型ホテル (スタッフ)	お客様の様子	・デスティネーションキャンペーンも始まり、ほぼ予想通りの入込である。また、新年度に入り法人からの研修と企画の問い合わせが増えてきている現状があり、少し入込が増える予定である。
		観光型旅館 (スタッフ)	単価の動き	・平常と比べれば高額となるゴールデンウィーク期間の5月3日と4日は販売単価を下げることなく満室となっている。ただ、宿泊希望日が集中しており、その他のゴールデンウィーク期間やゴールデンウィーク明けの予約については低単価志向が続いている。まずは5月3日、4日の高額商品でも客が買いたければ売れるということがわかっただけでもよしとしたい。
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・前年は除染のためにクローズしていた桜の名所が今年はオープンしている。その影響でランチタイムは入客が大幅に増えている。宴会は前年以上に送別会を受注でき、二次会の利用も増加している。
		旅行代理店 (店長)	お客様の様子	・販売成績が良くなっている。旅行価格に対する要求が薄く、内容重視の傾向が強い。
		旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・ゴールデンウィークや夏休みの申込が伸びてきている。
		通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・各社の給与水準が上向き改善方向にあり、景気にも反映してきている。
		通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・引越しや転勤者の動きが活発で4月上旬から加入者が増えている。特に県外からの転入者が増え、テレビ、インターネット共に新規加入の増加に結び付いている。
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・利用客数が明らかに増加傾向にあり、売上、単価共に3か月前より向上している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光名所（職員）	単価の動き	・来客数は減っているが、客の購買意欲はあるようで、単価自体は上がっている。あとは営業次第で来客数が増えれば、売上も伸びてくるかというところである。個人個人の購買意欲は上がっているようである。
		美容室（経営者）	単価の動き	・単価的に大きな動きはないが、3か月前との比較で総額はわずかながら上回っている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・今月は入学式などで着付けを注文する客が多くなっている。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	来客数の動き	・直前期、前年、前々年のいずれとの比較でも、明らかに来客動向が好転している。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・大型店舗の進出や新エネルギー用等の用地確保依頼に伴い、建築工事も順次受注予定にある。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	単価の動き	・受付件数は伸びていないが、供給高は伸びている。単価の高い契約を結ぶことができている。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・来客を見ても、景気が良い人と悪い人が混沌としている状態である。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・客の様子は前年末から楽観ムードが続いており悪くはないが、数字はひとところよりは多少落ち着いてきている。客の気持ちも様子見にシフトしつつあるのではないかというのが今月の印象である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・当市においてはアベノミクスの影響もさほどない。良い影響が出るにしてもかなり遅れて出てくるのではないか。
		一般小売店〔スポーツ用品〕（経営者）	来客数の動き	・店頭販売が伸びない。通常であれば春休みの繁忙期であるが、伸びていない。
		一般小売店〔カメラ〕（店長）	販売量の動き	・高額商品及び低価格商品の販売量は横ばいで推移しているものの、来客数は減少傾向である。
		百貨店（買付担当）	販売量の動き	・3月の前倒し分の影響が見られる。また、商圏内ではリニューアルオープンを含めて新規出店があり、その影響も受けている。
		百貨店（経営者）	来客数の動き	・3月後半はかなり盛り返したが、4月に入り気温が上がらず季節商材が苦戦している。特にアパレル関係の動きが厳しい状況である。食品は逆に健闘している。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・来店客は安定しているが、単価を上げられず利益は微減である。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・今月の1品単価は前年割れしている。前半は曜日の関係や週末の天候不順もあり来客数が減少した。野菜の相場安もあったが、一部加工食品や公共料金の値上げもあり、消費心理に影響したのか売上の伸びは良くない状況となっている。輸入品や油類、小麦なども円安の影響で仕入れ値を圧迫したが、それ以上に低迷する売上対策を続けて強めに打ち出し、何とか前年をクリアしている。ただ収益的には厳しい状況である。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・円安の影響で食品並びに諸物価の値上がりが始まっているが、そのことは一般消費者にはあまり関係はないようである。食品のデフレが更に進行し、競合が厳しくなっている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・世の中の景気全体は良くなっていると言われてはいるが、現状では個人の暮らし向きや収入が変わったとはいえず、個人消費は増えていない。スーパーマーケットの消費者の購買動向は価格やポイントなどの付加価値に左右されるところが大きく、言われているような好景気の影響はないようである。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数、販売量共に変わらない状況が続いている。
		スーパー（物流担当）	単価の動き	・前年に比べ買上率は上がっているものの、1点単価、客単価の下落傾向が続いている。1点単価の下げは競合状況に対応した特売が主な要因である。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が前年比で2～3%落ちており、その状況は3か月前と変わっていない。
		コンビニ（エリア担当）	競争相手の様子	・競争店の出店も現在一段落しており、既存店の売上は変化が無い。来客数及び客単価も特段の変化は無い。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・どの業界も異業種の参入が激化し、価格競争に一段と拍車がかかってきている現状がある。また、卸売業と小売業の境界が崩れてきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・寒さが続き、なかなか暖かにならないため、陽気に誘われて来店するような日が少ない。
		衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・寒暖の差が激しい3月のような天候が4月まで続き、消費者の購買意欲も上がったり下がったりしている。また、来客数や買上商品内容も不安定な状態が続いている。
		家電量販店(店 長)	販売量の動き	・旧材の処分セールを前年より前出しすることにより、売上は改善している。
		家電量販店(店 長)	販売量の動き	・少し良い商品や、やや高い商品の販売も見受けられ、単価が持ち直している。白物家電といわれている冷蔵庫や洗濯機、エアコンは好調である。しかし、テレビの不調が響いており、厳しい状態である。
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・懸念されたエコカー補助金の反動減を新型車効果で埋めている状況である。
		自動車備品販売 店(経営者)	お客様の様子	・繁忙期はずなのに仕事量が少ない。仕事量は年々減少している。
		住関連専門店 (経営者)	単価の動き	・客は安い商品を求めているようで、高額の商品がなかなか販売に結び付いていない。景気が上向きとは言い難い。
		その他専門店 [パソコン] (経営者)	来客数の動き	・少量だが見積依頼や問い合わせ件数が増えてきている。しかしながら、スムーズには契約や販売に至っていないのが現状である。
		その他専門店 [酒](経営 者)	販売量の動き	・4月は少し動きが出て良くなるのでは期待をしたが、予想以上に静かである。4月に入っても天候が不安定だったこともあり、人の動きが良くない。それに比例するように販売量も伸び悩んでいる。その月その月で良い要因があれば、悪い要因も出てくる。その繰り返しで結局横ばいの状態が続いている。景気が良いという実感は全くない。
		その他専門店 [酒](営業担 当)	来客数の動き	・新年度が始まったばかりのところが多いが、飲食店は停滞したままの状況が続いている。店頭での売れ筋の傾向ははっきりしているが、やや動きが悪い。
		高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・収入は増えていない。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・特に変わったことはない。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・3か月前と比べて事前の予約は少なかったが、当日の予約が結構あり、結果的には3か月前よりやや良くなっている。
		観光型旅館(経 営者)	来客数の動き	・中小旅館では客の旅行動向に特に変化は見られない。4月に限って言えば、前半は非常に悪く、後半に持ち直したが、流れといえるほどにはなっていない。
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・レストラン関係及びデパート地下のデリカ各店については、利用人員が増加し、さらに価格の下落に対して下げ止まり感が出てきている。また、高単価商品やコース料理が売れるようになってきている。
		都市型ホテル (スタッフ)	競争相手の様子	・今月、200室規模の駅直結ハイグレードホテルが新規参入している。通常でも供給過多気味の既存ホテルには脅威となり、ますます苦戦が予想される。一般宴会は年度初めということもあり、ほぼ予算通りを見込める。
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・被災地特需で宿泊、宴会共に過去まれに見る販売数が2年ほど続いていたが、今月は来客数、売上共に前年を下回っている。来月以降3か月先までの予約状況も前年を下回っている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・低料金の車を探して乗る客が増えている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・公共交通機関が動いている間はまずまずだが、終了すると客足はばたっとなくなる。
		通信会社(営業 担当)	お客様の様子	・ニュース等では景気が上向きとの情報が流れるが、スーパー等の物価が上昇している。また、中小企業の給与等は下向き傾向にあり、節約生活が続いている。
		通信会社(営業 担当)	来客数の動き	・来客数は前月に比べて大分減ってはいるものの、落ち幅は前年と比べて少ない。
		通信会社(営業 担当)	お客様の様子	・法人企業を回って様子を聞くが、景気上昇の話はほとんど聞かえない。
		通信会社(営業 担当)	お客様の様子	・客の設備投資意欲に関しては、特に悪化も好転もしていない。
		通信会社(営業 担当)	お客様の様子	・報道で見聞きするような好感感はない。設備投資面でも積極投資の話は聞かない。円安効果も身近にはない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
やや悪く なっている		観光名所（職員）	来客数の動き	・大きなイベント等がないと来客数が少ないという状況が継続中である。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・仕事の量、忙しさは変わらない状況が続いている。内容は住宅がほとんどである。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・暇な日が多くなっている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・落ち込みの大きかった2月に比べるとやや持ち直してきている。しかし、前年秋から今年1月まで続いた業績改善の水準には戻っていない。前年同月比ではほぼ同水準であり、結局震災後のすう勢は、方向性なく一進一退というところである。客単価はあまり変化が無く、来客数により業績が左右されている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・気温が低く春の兆しが遅いなか、消費マインドは低下している。来客数、客単価が前年を下回り、必要なものだけ購入する傾向がより一層顕著となっている。
		百貨店（経営者）	お客様の様子	・ここ数か月前年を上回るなど景気が上向きとなっていたが、季節外れの降雪により今月は一気に景気が下向きになっている。一部で上質な商品を求める傾向はあるものの、絶対数の多い中間層の来客数減が全体を補えなくなっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・商圏内でチェーン店の新店舗がオープンしたことで、オープン協賛企画チラシ、また競合店の対抗チラシ合戦があり、来客数や買上点数が減少しているため、業績に影響が出ている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年よりも低温、悪天候である影響もあるが、週末の人の動きが少ない。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・景気が良くなっているというニュースも聞かれるが、市内のビジネスマンの様子を見ても全く実感がなく、良いという話だけが聞こえてくるためあせりのようなものが見られる。客の機嫌が良くないというか、いらいらしている様子が見受けられる。また、価格にかなり敏感になっており、デフレ感が出てきているようである。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・今までは震災特需でスーツや礼服が非常に売れていたが、さすがに一巡、二巡してくると、買換え需要は行き届いたということか、スーツやフォーマルの買換えや購入は少し落ちている。また、今月は気温がなかなか上がらず、春物に移行するタイミングがずれ苦戦している。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・天候不順により、春物の売上が伸びない。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・前月に比べ、今月の客はあまり急いでいない。また、車種が絞りきれない傾向がみられ、商談に時間が掛かり過ぎている。3月までと同じ売り方では通用しない例が多々ある。
		乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・販売数は前年比80%前後を推移している。良い期末を迎えられた一部の業種で代替や増車があるものの、低下している新車需要を若干底上げしただけにとどまる。アベノミクス効果もまだ現実味がない。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・来客数の前年比での減少が続いている。新聞などで報道されているような高額品を含んだ売上増加などは地方ではみられない。
		住関連専門店（経営者）	単価の動き	・年明け後、消費者の消費行動は大分持ち直してきたようだが、2月以降は前年の半分以下の販売量で落ち着いている。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	販売量の動き	・中旬までは気温が例年より高く推移し、春物商材やスニーカーが好調だったが、後半は雨で低温の日が多く、ゴールデンウィークに向けての販促効果が出ていない。
	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・中央の人は景気が上向きになっているようだが、地元では大きな会社でもまだ動きは大きく変わらないようで、来店しても景気が良いという話は聞けない。中央と地方の格差が大きく開き過ぎている。	
	都市型ホテル（スタッフ）	それ以外	・忘年会や新年会の受注は大きく増加し良い流れであったが、2、3月の大雪がすべて台無しにしてゼロ以下に戻ってしまっている。客はまずは身の回りの雪を片づけなければならず外を出歩けない。観光客もまだあのような状況かと当地を敬遠するという一方で、悪循環に陥っている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・円安が急激に進み、海外旅行の収益性がかなり悪くなってきている。また、3か月前と比べ、販売量が落ち込んできている。	
		遊園地（経営者）	来客数の動き	・日曜日が前年より1回少ないうえに、3回のうち2回が雪や雨となり、来客数が前年を約20%下回っている。月末のゴールデンウィークに期待しているが、前年も良かったので、ばん回には至らない。	
	悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・アベノミクスとは無縁で、お金が回っていない。	
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・4月は新入社員の歓迎会などで人の集まりが多い月のはずだが、毎週金曜日と土曜日を除いて、繁華街はひっそりとしている。久しぶりに来店した客も驚くほどの静けさである。	
		百貨店（売場担当）	来客数の動き	・当地の気温は4月に入ってから非常に寒く、例年より5～10度は低い日が後半まで続き、来客数に大きく影響している。ゴールデンウィークに入っても、前年は20度を超える気温であったことに対し、最高気温が15度前後の日が続き初夏物の動きが鈍化している。売れ筋はコートで前年比150%を超える週が3週間続くなどしていたが、本来この時期に売れるセーターやカットソーといった洋品が前年の70%といったように大苦戦している。客の来店も落ちているうえ、来店した客が買っていないというデータも出ており、この気温により、初夏物に目が行かない様子がうかがえる。	
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・今月は地元から出て行く人がかなり多かったようで、かなり悪くなっている。	
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・競合店出店による来客数の減少で、売上が前年比約20%落ちている。	
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・光熱費の値上げ、消費税率の増税等を控え、先行きの不安が買物を慎重にさせている。			
企業動向関連 (東北)	良くなっている	—	—	—	
	やや良くなっている	農林水産業（従業者）	それ以外	・前年の果物による収入は風評被害により震災前の7割程度であったが、賠償請求をしているので、前倒しをして農機具などを買換える農家も散見される。	
		繊維工業（経営者）	それ以外	・円安株高等の効果が大手企業などでは出ており、何となく景気が良くなっているような雰囲気がある。	
		木材木製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・住宅部材の需要と供給が安定し、収益的にも改善されている。	
		建設業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・官庁工事の出件数が増え、土木工事の受注量が増加している。	
		金融業（広報担当）	取引先の様子	・売上高が増加している。	
		広告業協会（役員）	それ以外	・ゴールデンウィークを前に住宅展示場が一斉にリニューアルオープンする。住宅メーカーは震災復興はこれからと見ており、各社が積極的に展示場をリニューアルし活用しようとしている。	
		広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・ネット選挙解禁により、その関連の仕事の相談が増え始めている。スマートフォンを含めたWebの制作物の仕事は堅調である。	
		経営コンサルタント	取引先の様子	・駅で土産物を販売している会社では、単価上昇の割合が増えている。	
		司法書士	取引先の様子	・分譲地の売買が好調であり、登記所の申請件数も増加している。	
		その他非製造業〔飲食品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量共に前年比で約7%伸びている。非常に良い傾向である。	
		変わらない	食食品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・特に理由は無いがこしばらく売上が前年比110%となっている。前年も立派な実績であったなかでの数字なので、景気そのものは順調に良い方向に向かっている。
			食食品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月からデスティネーションキャンペーンがスタートしている。出だしはあまり良くなかったが2週目より動きが良くなってきている。
			食食品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・日銀の対策で景気向上の兆しはみられるが、最終消費者までは届いていないようである。受注量は前年同期と比べて増加していない。
食食品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き		・生産量、販売額のデータはほぼ横ばいである。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		出版・印刷・同 関連産業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・今年に入ってから、売上が前年と比べ若干減ってきている。
		出版・印刷・同 関連産業（経理 担当）	受注量や販売量 の動き	・ここ3か月間の売上は前年比横ばいとなっている。
		土石製品製造販 売（従業員）	競争相手の様子	・同業者との会合において、前年度からの予算と実績からも、低予算の復興事業の工事がほとんどであるとのこと。しばらくは復興計画で利益を伴う発注はなさそうである。
		一般機械器具製 造業（経営者）	受注量や販売量 の動き	・自動車部品については、海外現地法人向けの輸出を除いて大きな変化は無い。
		電気機械器具製 造業（営業担 当）	取引先の様子	・前回から見て悪い状態のままで特に変化していない。
		建設業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・マスコミ等が景気は良くなりつつあると报じているが、地方では実感がない。ただ、地方公共団体の工事は増えている。
		建設業（従業 員）	受注量や販売量 の動き	・年度初めであるため、中央企業向けの大規模公共工事の発注はまだ本格化していない状況である。
		輸送業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・環境に大きな変化は無い。
		通信業（営業担 当）	受注量や販売量 の動き	・大型案件が明らかに減少しており、前年度を下回っている状況にある。
		通信業（営業担 当）	受注価格や販売 価格の動き	・株価の上昇、円安の進行等で景況感の上向きかもしれないが、中小企業においてはまだメリットが見られない。
		通信業（営業担 当）	取引先の様子	・拡大路線に走る企業も増えておらず、円安やアベノミクスの効果は全く見られない。
		金融業（営業担 当）	取引先の様子	・介護施設の新増設の動きが目立つ。また、メガソーラー関連の需要もある。
		公認会計士	取引先の様子	・クライアントの月次、決算状況を見ると、ここ2～3か月は落ち着いている状況で、良くもなく、悪くもない状況が続いている。
		コピーサービス 業（経営者）	受注量や販売量 の動き	・大口の受注は皆無に等しく、毎日の少額の積み上げ受注で売上を形成しているような状態である。
		その他非製造業 〔飲食料品卸売 業〕（経営者）	受注量や販売量 の動き	・ゴールデンウィーク向け出荷については、前年との日程差はあるものの、継続して安定した出荷が続いている。春の歓送迎シーズンでもあり、飲食店向けが堅調に動いている。
		その他企業〔工 場施設管理〕 （従業員）	取引先の様子	・出入業者の数は変化が無い。また、取引先の小売業者の話の聞いても、受注数に変化は無いとのことである。
やや悪く なっている	農林水産業（従 業者）	それ以外	・当地の周辺では、今年度に入って農業をやめる農家が多く出始めており、農業で生計を立てていくことの難しさが改めて浮き彫りになっている。加えて、TPPが予断を許さない状況になっていることも、その傾向に拍車をかけているようである。	
悪く なっている	その他企業〔企 画業〕（経営 者）	取引先の様子	・顧客である公益事業者の原価算定基準の見直しによる大幅な予算削減の影響をもろに受けている。	
雇用 関連 (東北)	良くな っている	○	○	○
	やや良くな っている	人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・当県に拠点を持たない企業からの問い合わせが強くなってきている。新たにコールセンターなどを開設する動きもあり、求職者の減少と逆行するよう求人側の強い引き合いがある。
		人材派遣会社 （社員）	求職者数の動き	・事務、営業、販売職、コールセンターオペレーター等の求人依頼が増加している。
		アウトソーシ ング企業（社員）	それ以外	・受注件数が例年と比べて増えている。
		新聞社〔求人広 告〕（担当者）	求人数の動き	・新規求人数は微増だが増えつつある。ただ、被災地雇用が主流のため、短期が多く、正社員は少なくなっている。
		新聞社〔求人広 告〕（担当者）	雇用形態の様子	・募集広告の申込件数が増えてきている。今まで建設業や介護関連に集中していた業種も、多業種へ広がりを見せている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・ここ数年は設備投資や従業員の増員を控えてきたが、円安とデフレ脱却への期待感により受注の拡大が見込まれるため、設備投資と採用計画を行っていききたいという工作機械部品製造業の話があった。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	それ以外	・新卒採用企業の内定出しの辞退者が増加していることから、複数内定をもらっている学生が増加している。企業の採用の意欲は向上していると推測される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・年度末は一時的な期末予算消化景気もあったが、現在は経済が本当に良い方向へ向かっているのか様子を見ているようであり、広告出稿などは鈍い。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人数及び有効求人倍率は、前年同月より増加したものの、前月よりは減少している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月より減少しているものの、依然として高水準で推移している。また、新規求職者の減少傾向も続いており、ここ数か月と状況は変わらない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年比で増加を続けていた新規求人が、建設業、製造業、医療福祉、サービス業を含め減少に転じ、有効求人倍率が低下している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数はここ数か月、約3000～3500で推移している。また、有効求人数はここ数か月、9000～9500で推移しているため、3か月前と比べて大きな変化はない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年同月と比較すると、新規求職者数は1けたの減少だが、新規求人数は2けたの減少となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人倍率は引き続き改善されているが、景気の好調さを実感する感覚はない。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・年度末を控えて需要増加があったものの、求職者である新規登録者は前年比で2割近い減少が続いているため、成約率も減少している。3か月前と比べてやや悪くなっている。
	悪くなっている	—	—	—

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北関東)	良くなっている	○	○	○
	やや良くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・当店は学校関係の商品を多く扱っている。新学期に入ると、親は子どもたちの物をいろいろ新しくしたくなるものだが、今年は予想以上に親が子どものためにはお金を使っており、景気が悪い悪いと言っている割には販売は順調である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・前半は寒い日が多かったため、来客数が例年より少なかったが、後半、特にゴールデンウィークで回復してきている。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・絵画や美術品など、高額品の売上が良くなっている。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・高額品の好調な動きに加えて、今月はボリュームアイテムも前年以上に動きが出てきている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・4月中旬ごろから、大きな与件の変化がない店舗でも売上が微増している。特にサラリーマン家庭の多い地区で売上が良くなっている。客からは、確かに給料が上がったという話を聞くようになっている。
		スーパー（経営企画担当）	来客数の動き	・昨年はなかった大型セールを実施したため、100%には若干足りなかったものの、3か月前に比べて来客数、売上共に前年比で増加した。
		スーパー（統括）	販売量の動き	・今までは、高付加価値商品、高単価商品といった上好品等の一部が前年同期比で伸びており、消費マインドの好転は感じられるが、全体では前年同期並みであった。しかし、4月に入りようやく全体が押し上げられ、既存店ベースで前年同期比103%まで上がってきている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・売上が前年比105%、来客数が同104%、1人当たりの買上点数や単価も上がってきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		家電量販店（店長）	単価の動き	・4月の引越し等移動に伴う需要に関しては、新入学関連が年々減少傾向だが、新社会人や住宅着工で単価の高い商品が動いている。また、花粉対策に空気清浄機を購入する客の傾向として、価格ではなく機能を重視しており、数量も前年の3倍強の動きがある。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・就職、進学、また乗換え時期が重なったのかもしれないが、3月末から4月の半ばにかけて、国産車、輸入車の新車がほぼほどに売れている。また、中古車の売行きは好調のまま推移している。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・商品の動向が消耗品以外にも広がりつつある。また、消耗品の動向についても1人当たりの買上点数が、前年同月比で向上してきている。
		住関連専門店（店長）	単価の動き	・リフォーム工事、物置等の受注件数が増えている。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・まだ会社関係での宴会はゼロに等しいが、個人、家族での客は多少増えている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・観光シーズンになり市外からの客が増えたことと、新学期になり各種会合が増えてきたため、やや良くなっている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・全体的に客が明るくなってきており、よく飲むようになってきた。良くなっていきそうな感じがあることが、本当に有難い。
		観光型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・観光シーズンを迎えたことで来客数が増加しており、前年同月と比較してもおおむね好調な入込である。
		都市型ホテル（営業担当）	単価の動き	・ホテルの稼働はおおむね安定して良くなってきており、景気は多少良くなっている。
		旅行代理店（経営者）	来客数の動き	・気候が良くなってきて、客の気持ちも徐々に明るくなってきている。アベノミクスも効いているようである。
		旅行代理店（所長）	来客数の動き	・円安基調のため、ゴールデンウィークの動きが良い。また、今のところインバウンドの動きも右肩上がりとなっている。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・新規加入は増加しつつあるが、解約や休止も増えている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・アベノミクスの影響により、円安、株価等の変化もあり、景気回復に対する期待感から消費も上向き傾向にある。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・例年よりも早くから暖かくなったことや、開園記念イベントなどの開催で来客が多くなっている。
		ゴルフ練習場（経営者）	来客数の動き	・東日本大震災から2年が過ぎ、おおむね家の修理や建て替えが決まり、一般の消費に目が向いてきたように思う。
		ゴルフ場（業務担当）	単価の動き	・このところゴルフ用品関係の販売も順調に推移している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・春先から来客数が2割程度増えてきている。複合の美容施術も客が受け入れており、売上も増えてきた。マイナス要因は、固定経費である材料費、電気料金、水道代等の値上げが少しずつ重しになってきていることである。
		設計事務所（所長）	来客数の動き	・前年度は過去最低の業績に終わってしまったが、ここにきて案件の依頼があった。消費税増税前にとの駆け込み需要のようである。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・今月の中旬以降、別荘案内のための来客数が、目に見えて増加している。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・消費税増税の条件が景気に左右されるなか、円安、株価上昇と条件がそろってきている。不動産も住宅ローン金利に上昇傾向がみられ、潜在していた顧客が動きだしたようにみえる。
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・ここ数か月と同様、アパート、店舗建築は好調に推移している。戸建住宅も堅調で、大手自動車メーカーや保険会社等の金融関係の客が増え、底堅い需要を感じる。全事業の受注に安心感がある。		
変わらない	商店街（代表者）	それ以外	・最近、閉店続きの商店街だったが、新規オープンのお店が24時まで営業しているため、商店街が明るくなり、にぎわってきている。	
	商店街（代表者）	販売量の動き	・学校関係のかばんや用具を年下に譲る人が多くなり、入学児童が減少しているうえに、更に売上対象者が減り続けている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	来客数の動き	・世間の景気回復ムードとは反対に、中心街から娯楽の象徴だった映画館がなくなってしまった。また、閉店する店もあり、相変わらず人通りは寂しいままである。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・今月は桜も開花して街中にもぎわう予定だったが、寒暖があり祝日に花がないという有様で、客も戸惑い、動きの悪い月であった。良くなる見込みはない。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・太陽光発電、リフォーム等は計画どおり受注が入るが、一般商品は今一つ伸びがない。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数が伸び悩んでおり、総菜やフードコートなどの消費の伸びが弱い。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・宝飾品等、一部高額品に動きがみられたが、全体での底上げには至っていない。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・主力の衣料品、食品の動きが鈍く、3か月前と比べてもあまり変わらない。
		百貨店（店長）	お客様の様子	・一部の高額品に動きはあるが、ファッション用品、身の回り品全体では前年を下回っている。特定商材のパソコン用メガネ、花粉症対策メガネの売行きは良い。
		スーパー（経営者）	競争相手の様子	・競合店の新規出店で更に競争は激化する。
		スーパー（店長）	単価の動き	・数か月間、単価の変化はない。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・来客数は前年同時期より減少している。減少率は低下しているが好転する気配はない。
		スーパー（商品部担当）	単価の動き	・客単価は前月並みの数値が出ているが、来客数の落ち込みは変わらず、景気上昇の動きはみられない。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・景気自体はそれほど落ち込んでいる感じはしないが、競合店の出店により影響を受けたことが大きい。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・当店では先々月から来客数の減少が続いており、特に夕方から夜にかけての来客数が大分減っている。買上点数や客単価にあまり変化はないが、来客数の減少が影響して大分落ち込んでいる。
		衣料品専門店（販売担当）	お客様の様子	・円安が進み、全体的に景気が良くなったという話は聞くが、客の様子から判断すると、家計を預かっている人がほとんどであるため、やはり身近なところでの値上げが食卓を直撃しており、どうしても自分の洋服までお金が回らないというのが実情のようである。なかなか難しい状態である。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・エコカー補助金があった前年と比較しても、販売量は遜色ない。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・アベノミクス効果で円安となりガソリンが値上がりしたため、コンパクトカー、軽自動車に販売が集中しており、利益としては低い水準である。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・当地区は大手自動車メーカーの企業城下町である。主に輸出用の自動車の生産が好調で、全般的に活況を呈している。ただし、内容を見るとコスト削減などの締め付けにより、第2次以下の下請業者の経営は楽ではないようである。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・当店の客には、金属加工などの製造業に勤める人が多くいるが、リーマンショック以後の受注量の落ち込みからあまり回復しておらず、アベノミクスによる円安の効果はまだ現れていない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前月からの受注残との合計で販売台数は増加しているが、コンパクトカーの増加により収益面では横ばいである。
		乗用車販売店（管理担当）	販売量の動き	・アベノミクスの効果による円安により為替差益が大幅に企業収益を改善させたが、一方でサラリーマンの給与にはまだ効果が出ていない。消費者の財布のひもはまだ固い。
		住関連専門店（仕入担当）	販売量の動き	・来客数は前年並みで推移しているが、買上点数が下降気味、平均単価もほとんど変化がなく、売上微減傾向は変わっていない。週末ごとの悪天候も拍車をかけている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・ランチの来客数は変わらないが単価が安く、ディナーは集客が非常に悪い。そのため、売上が非常に伸び悩んでいる。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・景気回復は、地方の一般商店、中小企業までは全くと言っていいほど感じない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スナック（経営者）	来客数の動き	・競合店も多く、客の動きにもアベノミクスの影響が感じられない。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・旅行業界は、1、2月より4、5月のほうが通常来客数が増えるため、変わらないということは実質減少となる。
		都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・一部の客、また、景気の良い企業等の動きは出てきたが、全体的にはまだまだであり、来客数、宿泊数共に大きくは伸びていない。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・円安で景気は大分良くなるのではないと言われていたが、まだまだ当地域においてはいろいろな面で景気がどうこう言える立場ではない。
		旅行代理店（従業員）	単価の動き	・急な円安になり、対応しきれていない。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・販売量に顕著な伸びがみられない。
		旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・メディア等で報道されているような消費動向はあまり感じられない。あくまでも都心等の景気が良いだけで、地方はまだまだである。
		タクシー（経営者）	お客様の様子	・昼も夜も動きが悪く、前年同月比4%の減少である。
		通信会社（局長）	お客様の様子	・競合他社の動きも激しく、顧客獲得に躍起となり電話営業で不正な営業トークを使い始めた通信会社がある。これらの動きに顧客も不安になり、不信感が広がっている。当社に加入中の顧客がだまされやしないか心配である。
		ゴルフ場（支配人）	それ以外	・来場者は多くなったが、雪が降るほど寒かったり、暑かったりと寒暖の差が非常に激しく、天候に振り回された。プレーヤーも年配者が多いためキャンセルが発生し、雪によるクローズもあった。
		競輪場（職員）	お客様の様子	・入場者数、購買単価共、それほど変化がみられない。
		その他レジャー施設 [アミューズメント]（職員）	販売量の動き	・3か月前と比べて来客数、単価共にさほどの変化はみられない。基本的に合計金額が売上になるため、売上は相変わらず低迷した状態である。
		その他サービス [立体駐車場]（従業員）	来客数の動き	・来客数は2、3か月前と比べて、変わらない。前年比でもほぼ同じ数字である。また、単価についてもほぼ横ばいである。さらに、競合他社である近隣の大規模な駐車場についても、台数を当社で計数したところ、大体同数のようである。そのため、変わらない。
		その他サービス [イベント企画]（職員）	お客様の様子	・街中の人の流れをみても、状況が変わっていない。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・株価は大分良くなっているようだが、不動産業界、特に地方はまだ全く良くなっていない。ただし、下げ止まり感がやや出てきた感じはする。また、安い物件等については問い合わせが増えてきている。
	やや悪くなっている	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数の減少が気になる。販売高も前月比、前年比共に下回っている。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・今月は昨年より気温の低い日が多く、ダイレクトメールのセールを行ったが、春物商材の動きが悪かった。
		タクシー運転手	競争相手の様子	・他地域から同業他社が進出してきたため、やや悪くなっている。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・円安により輸入関連品の価格が上がっており、かえって財布のひもが固くなっている感がある。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・先月の決算で予算を達成したため、今月は客の出入りが少ない。3か月前と比べると低迷している。
	悪くなっている	一般小売店 [衣料]（経営者）	販売量の動き	・いろいろな場所で観光客、外国人客が増えているという話を聞いている。当店の隣の喫茶店にも外国人客が来たそうである。しかし、それが売上につながり様々なことが良い方向に向かっているという情報は入っていない。なかなか難しいようである。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・3か月前と比較すると、販売台数が半減している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・3月は送別会等でいつもよりは動いたが、4月の前半は全く動きがなかった。半ば過ぎから歓迎会等で少しは動きがあったが、終わる時間等が早く、深夜の客がない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・メディアではアベノミクスにより、景気回復、景気上昇と並べられているが、それは都内中央のことである。一地方都市は相変わらずの景気低迷の真っ只中である。本来ならゴールデンウィークを前に、見積り受注が上がる時期だが皆無である。かなり厳しい。
企業 動向 関連 (北関東)	良く なっている	出版・印刷・同 関連産業（営業 担当）	受注量や販売量 の動き	・受注量に2割増し程度の動きがあった。
		一般機械器具製 造業（経営者）	受注量や販売量 の動き	・今まで止まっていた油圧建機向けの仕事が徐々に動き出しているとともに、自動車関連において新規開発案件が増えてきている。しかし、ベースとなる仕事が大幅に回復してきているわけではなく、売上の伸びは緩やかな状況である。
		その他製造業 〔環境機器〕 （経営者）	受注量や販売量 の動き	・自社製品のレンタルリース契約が10月までの1年間で、営業見込み先の9割超で契約となるためである。
	やや良く なっている	食料品製造業 （営業統括）	競争相手の様子	・マイカーによる体験型の工場見学への来場者が多くなっており、各メーカーとも前年を大きく上回ってきている。
		輸送用機械器具 製造業（経営 者）	受注価格や販売 価格の動き	・10数社ある得意先のうち、相変わらずの会社も数社あるが、ほとんどは良くなっている。
		輸送用機械器具 製造業（総務担 当）	受注量や販売量 の動き	・大手自動車メーカーからの受注量は、3か月前の見通しと比べてやや上振れしている。5、6月分をある程度4月に前倒しにすることから量が増えてきている。しかも、前年と比べても高水準であり、非常に好調に推移し始めている。
		金融業（調査担 当）	取引先の様子	・アベノミクスへの期待からマインド面に改善がみられる。しかし、実需については乏しく、実態が伴った景気の下げ止まりには更に時間がかかる。
		広告代理店（営 業担当）	受注量や販売量 の動き	・販促用の折込チラシの発注数が前年比2割増しである。また、営業、販売用パンフレットなどの新規作成やホームページの大幅リニューアルなど、予算を使う動きがあらゆる業界で見られる。
		その他サービス 業〔情報サービ ス〕（経営者）	受注量や販売量 の動き	・引き合い、受注量共に増えつつある。設備投資が上向いてきているようである。しかし、まだまだ様子見の状況から抜け出しておらず、しばらくはこの状況が続く。
	変わらない	食料品製造業 （製造担当）	受注量や販売量 の動き	・量販店の販売数量は毎月落ちてきている。
		化学工業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・建築、鉄骨加工、金属加工等の分野では新しい話もなく、低調に推移している。そのため、工業用ガスの出荷は落ち込んでいる。
		窯業・土石製品 製造業（経営 者）	取引先の様子	・相変わらずの低迷した動向である。
		窯業・土石製品 製造業（総務担 当）	受注量や販売量 の動き	・円や株価に変動はあるが、当業界に動きはない。
金属製品製造業 （経営者）		受注価格や販売 価格の動き	・入札をしているが、価格の面で注文が取れない。どうしても入札となると価格が安いほうにいつてしまい、とても難しい。	
一般機械器具製 造業（経理担 当）		受注量や販売量 の動き	・親会社からの注文数は、まだそれほど増えていない。	
電気機械器具製 造業（経営者）		受注量や販売量 の動き	・今月は客先の新機種生産がまだ始まっていないため、現状維持の状況である。	
電気機械器具製 造業（経営者）		受注量や販売量 の動き	・当社は少量、多種の仕事を抱い、何とか維持しているが、安定した大量の仕事はない。周りの金属加工関係で仕事が半分減った所もある。	
その他製造業 〔宝石・貴金 属〕（経営者）		受注量や販売量 の動き	・展示会で高額品が売れるようになってきた。しかし、中級品、低価格品は相変わらず販売不振であり、さらに、急激な円安により金、ダイヤ等の材料が高騰し、販売価格に影響が出始めている。プラス、マイナスの両面があり、決して明るい見通しはない。	
建設業（総務担 当）		取引先の様子	・補正予算への期待感はあるが、業界全体にあるものの、まだその効果を実感するには至っていないのが現状である。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・各取引先の荷主からの輸送依頼量は、家電量販店は多少落ち込んでいるが、インターネット通販系の物量が増えているため、前年並みの物量を確保している。しかし、円安による燃料価格の高止まりで利益が薄くなっている。
		金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・製造業では自動車部品製造、有機化学製品製造に売上の増加がみられる一方で、そのほかの製造業では売上の増加はみられない。サービス業では、高速道路のトンネル崩落事故で減少した観光客が、トンネル開通により増加に転じ、売上が増加しているが、小売業では目立った売上増加の動きはみられない。また、建設業においても受注は改善していない。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・今月中旬までのチラシ出稿量は前年比102%と好調に推移してきたが、月末になり98%と落ち込んでしまった。ゴールデンウィークが前半と後半に分かれ、月末が前半の最終日となったことも影響していると思うが、量販店の店長などは、報道ほど景気が上向いているとは思わないと話している。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・景気の浮揚感より、代わり映えない足元の業績と、続く資金繰りの困難さが、いまだに経営の大きな関心事となっている。経営革新への取組みも補助金狙いのものがありそうである。
		社会保険労務士	取引先の様子	・輸出に関係している事業所は多少良くなってきているが、内需関係の事業所はあまり変化がない。
	やや悪くなっている	不動産業（経営者）	それ以外	・空室が多いにもかかわらず新築物件が増えており、また、それに伴い、管理の行き届かない物件も目立つようになっている。複雑な状況である。
		不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・定期的に行っていた作業を他社に一括で取られてしまったものがいくつかあり、新規の獲得もできなかったため、受注量が減少している。
	悪くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が少なくなったため、パート従業員は3時以上上がってもらい、社員もできるだけ有給消化という形で休みを取っている。ここ数年、このような状況はなかった。とにかく非常に仕事がなくて困っている。
		建設業（開発担当）	受注量や販売量の動き	・受注額は3月決算で前年比10%減になってしまったが、利益に関しては人員の自然減に対して補充をしないのでいいため、赤字決算にはならないようである。来期は新政権の掲げる公共事業拡大に期待している。
	雇用関連 (北関東)	良く なっている	—	—
やや良くなっている		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・春物衣料が若干伸びてきたようである。食料品関係でもパン粉が上がってくるため、買い急ぎがあったのかもしれないが、いくら伸びている。スーパーでの把握でしかないが、鮮魚関係はやや伸び悩んでいる状態である。一般住宅関係の増改築、改修関係が幾分動きが出始めたようである。
		人材派遣会社（営業担当）	それ以外	・歓送迎会、花見などが活況を呈している。
変わらない		求人情報誌製作会社（経営者）	周辺企業の様子	・周辺は中小零細企業が多い。アベノミクスは大企業には恩恵があるものの、中小零細企業には逆効果で、まだまだ景気は回復しておらず、上向き感もない。求人募集も依然変わりなく低迷している。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・以前はあった工業団地の企業からの求人募集は出ないと聞いている。また、事業主団体の会員企業でも、積極的な設備投資の話は聞かないとのことである。
		学校〔専門学校〕（副校長）	求人数の動き	・求人数は増えてきているが、次年度の新規採用となると慎重であったり、計画中であったりと、厳しかったここ数年とほぼ状況は変わっていない。
やや悪くなっている		人材派遣会社（管理担当）	求職者数の動き	・派遣契約の終了により求職者数が増えている。派遣社員が退職しても補充は必要ないと言われるケースが増えている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・管内主要企業及びその関連企業で、早期退職を募り12～3月にかけて実施しており、県北地区で530名程度となる見込みである。更に追加で4～6月にかけて120名程度の実施を予定しており、そのため、今後も求職者の増加が見込まれる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪く なっている	—	—	—

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (南関東)	良く なっている	商店街（代表者）	それ以外	・3月の半ばに私鉄の相互直通運転が開始されてから、隣県から当地域に人が大勢来ている。併せてアベノミクスによる株高を受けて富裕層の消費動向が非常に良く、クレジットカードの取扱高に顕著に反映されており、前年比約15%増となっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・今の景気はアベノミクスの影響が非常に良く出ている。総体的に来客数が多くなっていることは事実である。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・3か月前の1月は大変寒く、飲食業は暇な時期である。その1月と比べれば、今は大分良くなっている。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・国内団体旅行の見積が増えてきている。以前よりも料金交渉が減ってきており、ある程度、旅行費用が高くて受注できるようになってきた。
やや良く なっている		商店街（代表者）	単価の動き	・昨今、多少動きがあるように感じるが、通常の価格で売っているとなかなか伸びてこない。何でも安く提供している店、ディスカウント店は多少伸びているようだが、まだ一般的に景気が良くなってきていない。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	お客様の様子	・株高など世の中の雰囲気は良くなっており、最近の客の様子は、良い方向へ向かっている。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	販売量の動き	・今月は新学期のため、2、3月より成績が上がっている。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	来客数の動き	・小売では客単価が若干下がっているが、来客数が上がっているため少しプラスに転じているのではないかと。外商は額面的には少額ながらも数はそこそこあり、ある程度良くなっている。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・間違いなく売上高、車での来客数も増えており、前年比2～3%の売上高の伸びが確実に上がっている。
		百貨店（広報担当）	お客様の様子	・しばらくは円安、株高が継続すると考えられ、百貨店顧客の購買心理も上向いている。また、来年の消費税増税に備えての駆け込み需要もすでに始まっており、特に高額品について著しい売上の伸びがみられるなど、短期的には明らかに景気は上向いている。
		百貨店（営業担当）	それ以外	・日経平均株価上昇による含み資産が増えてきており、来年の消費税増税前の駆け込み需要なのか、数十万円の輸入時計等がよく売れている。
		百貨店（営業企画担当）	単価の動き	・特選衣料雑貨、宝飾品など高額品の動きは引き続き堅調である。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・円安、株高の影響か高額品の動きが良い。衣料品、雑貨類も堅調に推移している。
		百貨店（販売管理担当）	お客様の様子	・ここ数か月は、主に一部の高額所得者向け商品の動きに回復がみられていたが、ここに来て今まで動きが鈍かったファッション関連の商材にも回復の兆しが顕著になってきている。
		百貨店（計画管理担当）	お客様の様子	・具体的に売上が上がったとか高額品が売れているという情報があるわけではないが、マインドとして上向きになっていると感じることが多い。
		百貨店（経営企画担当）	単価の動き	・宝飾品など的高額品の動きがある。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・食料品の売上の動きはあまり変化がみられないが、大物家具を扱っている住居関連品、特に寝具や家具等の動きがあり、非常に好調になってきている。今年に入って少しずつそのようなぜいたく品の売上が上向ってきており、良くなってきている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・目玉品の販売構成比が以前より減少してきている。買上点数と単価は前年並みのため、定番商品の販売が増ってきており、以前のような低価格化への強い意識はかなり収まってきている。
		スーパー（営業担当）	単価の動き	・円安、株高の影響が周りに浸透し始めて、相当明るい雰囲気になってきている。
コンビニ（経営者）	お客様の様子	・高付加価値商品であるプレミアム商品の売上の好調が続いている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・近隣のスーパーが閉店したため、年配客が増加している。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・近隣の祭りで企画を練って実行したら、売上と来客数が大変良かった。
		コンビニ（商品開発担当）	販売量の動き	・現在セールを行っているが、以前と比べて明らかに販売量が増加している。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・ダイレクトメールの売上、回収率共に前年同月を上回っている。好景気の期待からか、買物が楽しそうである。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・天候が安定し、世の中も少し明るいムードになってきたため、年配客から旅行の服装について相談を受けることが多くなってきた。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・目的外の商品を提案して購入に至るケースが増えており、単価、点数増につながっている。
		家電量販店（営業統括）	販売量の動き	・円安の追い風もあって、外国人観光客の来店が多くなり、免税販売が過去最高を記録している。国内消費に目を向けると、大型家電の動きは今一歩遅い感じがするが、腕時計や一眼レフデジタルカメラ、タブレット端末など好調に販売実績を伸ばしている品目も多くなっている。消費者の意識も変化している兆しを感じる。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・自動車の整備と販売をしている。整備は順調に入っているが、販売は足踏み状態で、大変良かった先月より2割減となっている。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・最近は新規客の来店が増えてきており、成約率が増えている。
		乗用車販売店（渉外担当）	お客様の様子	・低燃費で環境にも考慮した小型ハイブリッド車が相変わらず好調である。また、高額なハイブリッド車の契約も増えている。
		乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・政府の政策が良いのか、客の動きが激しくなったように感じる。
		乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・前月末のバックオーダーを多く持って入ったものの、純受注はわずかに前年割れと予想外に伸び悩み、売上台数は前年を大きく超えたが、店舗計画は未達成となっている店が多い。
		その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	来客数の動き	・3月下旬以降、来客数が前年より増加傾向にある。
		高級レストラン（店長）	来客数の動き	・宴会利用等ではなく、レストランの利用数の伸びが顕著である。
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・今年に入り、受注件数は確実に増加している。特に、接待など法人の夜の利用割合が増えてきた。ただし、客単価は横ばいのため、思うほど売上は伸びていない。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・前年比でみて、3か月前の1月は1～25日の売上が92.9%、客数は93.0%であったが、今月は1～25日までで売上96.1%、客数97.2%という結果になっている。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・ランチメニューの変更に伴い、単価設定を他店より高くしたが来客数に変化はなく、むしろ微増している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・多少、暖かくなったが、以前が悪過ぎたため、まだまだ変わらない状態である。しかし、3か月前と比べると良い。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・3か月前と比べると来客数は伸びてきており、それに伴い売上も増えてきているため、少しではあるが景気が上昇傾向にあると感じる。ただし、単価の動きは相変わらず停滞しているため、大幅な改善には至っていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・レストラン、宿泊共に来客数が前年比で落ちていない。来客数が前年比で微増しており、客単価も微増している。期間限定で、現状価格の下限を下回らない料金でお得感のあるメニューをレストランで提供したり、客室は閑散日と予約の込み合う日のメリハリを以前にも増して付け、閑散日の集客に努めた結果である。宴会に関しては、集客に努めたが、前年に受注できた宴席と同じだけ受注できなかった。しかし、中止になったり、規模が縮小しているわけではなく、50名前後の定例宴席は前年と同様に受注できているため、他社との競争で負けた大口宴席だけが受注できなかったととらえている。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・アベノミクスの影響がここへきてやっと客にも届き始めている。ゴールデンウィークに向けて、海外より国内で少し遠出をしてみようという客が増えている。被災地を訪れてみようという人も増えているため、大分景気が回復してきている。
		旅行代理店(支店長)	お客様の様子	・新年度に入り、第3週ごろからようやく今年度における旅行の動きや問い合わせが増えている。特に、周年記念の旅行やスカイツリーの1周年を記念した見学ツアーなどの問い合わせが多くなっており、客の動きを感じている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・ゴールデンウィーク前の月にしては客の動きは良い。週末は昼夜共に動きが良く、深夜は長距離の客も増えている。景気が少しずつ回復しているのか、営業回数、距離、売上共に増えている。アベノミクスおそれである。
		タクシー(団体役員)	お客様の様子	・今月は、週末の繁華街の人出が、2か月前と比較しても多少ある。しかし、契約企業からの無線注文は、相変わらず減少している。
		通信会社(経営者)	販売量の動き	・スマートテレビ向けのセットトップボックスの売行きが良く、テレビ、インターネット、電話それぞれが販売計画を順調にクリアしている。また、獲得増分を翌月に繰り越せるほど余裕が出てきている。
		通信会社(経営者)	単価の動き	・今年度から高額なコースの目標を高くしているが、今月はその目標を達成できそうである。
		通信会社(営業担当)	単価の動き	・新サービスの商品は、単価が旧サービスより月額料金が高くなるにもかかわらず商品性が受け、旧サービスからの切替え契約が好調である。
		通信会社(総務担当)	単価の動き	・最近、日常の買物時の商品価格が少し上がっている。デフレからの脱却の傾向が出てきたと感じる。
		観光名所(職員)	来客数の動き	・3か月前、観光地は閑散期であった。今月は春の新緑等で若干来客数が良くなっている。
		ゴルフ場(支配人)	来客数の動き	・今月の来場数は、会員、ビジター共に順調に推移している。
		その他レジャー施設[アミューズメント](店長)	単価の動き	・来客数は伸びていないが、より多く消費する客層が増えてきている。
		その他サービス[福祉輸送](経営者)	販売量の動き	・客の話を聞いていると、まだら模様というか良い産業と悪い産業がはっきりしているような気がする。
		設計事務所(経営者)	販売量の動き	・新年度に入り、各市町村からの指名がかなり入ってきている。仕事を選べるということは、多少なりとも景気が良い感じがする。民間の仕事についても、様々な問い合わせが多くなっている。何とか仕事に結び付けようと頑張っており、やや上向きである。
		設計事務所(経営者)	お客様の様子	・顧客から仕事の問い合わせが増えてきている。
		設計事務所(所長)	お客様の様子	・数年前から計画をしていた民間の物件に年度内完成の動きがやっと出てきた。
		住宅販売会社(従業員)	競争相手の様子	・年明けから景気は良くなってきているが、4月に入って若干緩やかな上昇になっている気がする。当社だけでなく競合他社も良いため、なかなか好調を維持していくのは難しい。
		住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・例年4月は契約が落ち込むが、今月は平年より成績が良い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・今月の販売量は目標数字を100%達成し、景気は良くなっている。3か月前に比べても景気はやや良くなっている。消費税増税前の駆け込み需要で客に動きが出ている。
	変わらない	商店街(代表者)	販売量の動き	・マスコミではアベノミクス、株高と連呼しているが、実際、地元の商店街では景気の良さ、勢いを全く実感できていない。以前のように、忙しいと駆け回るほどの商環境を今一度復活することは、社会システムを退化させない限り起きないように思う。つまり、現状のコンビニやファーストフード店、量販店などを経験してしまった客が以前の不便さを我慢できるかであり、それ以上の快適性を見出さねば商店街に未来はないと危惧している。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・最近天気の良い日が続かない。寒かったり暑かったりで、客の出が一段と悪くなる。今の状態が続くようだと良くなってこない。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・最近店舗の前を歩いている人が少し増えているように思うが、店内に入って来る客は若干減少している。また、入ってきた客も下見の感じで、なかなか物を買うところまでは行き着かない。
		一般小売店〔和菓子〕(経営者)	それ以外	・来客数などは少しずつ上向きになっているものの、まとまった注文が減少しているため、売上につながっていない。
		一般小売店〔印章〕(経営者)	来客数の動き	・アベノミクスで景気が非常に良くなっているような報道がされているが、末端の小売業はまだ、あまりその影響を受けていない。
		一般小売店〔靴・履物〕(店長)	来客数の動き	・地方都市の駅から離れた商店街であるが、地方都市の商店街というのは非常に疲弊しており、駅前過疎地という感じになっているため非常に厳しい。
		一般小売店〔茶〕(営業担当)	単価の動き	・来客数、売上共に前年比では良くなっている。しかし、新茶予約による売上の見込みは前々年と比べると、来客数は戻ったが客単価が落ち、下がっている。
		百貨店(売場主任)	お客様の様子	・高額品のアクセサリや宝飾品に関しては売上がかなり回復してきたと思うが、身の回り品、衣料品に関しては変わらない。
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・一般消費者レベルの所得は変わっておらず、不動産や自動車以外の個人消費は全く上向いていない。
		百貨店(総務担当)	来客数の動き	・県内の百貨店は高額品の売行きが良いとの発表があったが、当店では特に大きなプラス要素はない。気温が高いこともあり、衣料品は定価品の動きが良く、持ち直しているところもあるが、全体的には低調である。特に来客数については前年と比較しても厳しい状況が続いている。ただし、経済的な理由だけではなく複合的な要素があり、現在客数増の取組を進めている。
		百貨店(営業担当)	お客様の様子	・店舗へのアクセスを含む店舗環境の変化により、景気判断は難しい状況である。ただし周辺店舗では、雑貨を中心に前年比2けたを伸ばす商材群もあり、来街者も多くなっているようである。一部の高所得者の購買により全体の底上げにはなっているが、食料品の伸びがそれに比例しておらず、まだまだ一般消費者の財布のひもは堅いようである。
		百貨店(営業担当)	単価の動き	・株価も上がり、百貨店に晴天の兆しなどとの文句をよく耳にするが、婦人服、特にカジュアルの比較的安い物については動きが鈍く、また全体でも大幅な単価上昇や来客数の大幅増などはまだ先であると感じる。
		百貨店(営業担当)	来客数の動き	・宝飾、時計、美術品等の高額品は好調を維持している。
		百貨店(販売促進担当)	お客様の様子	・報道にあるように、宝飾品等の高額品に関して一部動きが出始めているものの、日々の買物についてはまだまだ慎重な姿勢がうかがえる。
	百貨店(副店長)	販売量の動き	・集客策である大型催事を展開するも、売上は前年を割っている。大型セールを打っても客が落ち着いており、興奮状態にならない。今買わなければならないという購買動機に結び付いていない。ただし、外商だけは前年を超えている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・衣料品は気温の関係で3月に若干良くなったが前倒しで売れた分、4月は前年割れになっている。食品を中心とした頻度性の高い商品については、客の買い方が変わっておらず、点数、単価、買上金額共に前年を下回っている。来客数も前年比で5%ほど減少している。
		スーパー（仕入担当）	単価の動き	・円安、株価上昇で輸出産業は好景気感はあるが、一般消費者の日々の財布のひもはまだ緩んでいないため、客単価は上がってきていない。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・単価は少し上がったが、来客数98%と厳しい状況は変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は前年比で変化がない。
		コンビニ（商品開発担当）	来客数の動き	・市場の景気は回復傾向にあるものの、来客数、販売単価は依然として厳しい状況が続いている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・今月は寒暖差が激しく、また雨も多くて来客数が大幅に減少している。特に週末の天候が悪いため商店街にも客が少なく、売上減に大きく影響している。来店した客も天候により商品が絞り込めず購入に結び付かない。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・4月に入って気温が高めに推移してきたが、温度差が激しく、春物は止まった状態が続いている。来客数も伸びず、売上は3か月前と変わらない。前年比でも数パーセント落ちている。
		家電量販店（一括）	来客数の動き	・来客数が、前年比で非常に厳しい状態がいまだに続いている。客単価により売上は増加傾向である。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・3月から客の来店が少なく、決算時期を過ぎた4月としても少ない。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・アベノミクスで相当期待できると思っていたが、やはり一服感が出ており、3月は相当数字が上がったが、4月になって販売台数は落ち込んでいる。まだまだ良いとはいえない。
		乗用車販売店（販売担当）	来客数の動き	・法人に関しては景気動向は良いと思うが、一般消費者の動きは3月と比べると極端に落ち込んでいる。1月と比べるとあまり変わらない。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	販売量の動き	・前年に比べて暖かいため、夏関連商材の動きが早いように感じる。
		その他小売 [ショッピングセンター]（一括）	販売量の動き	・3月は物販店がそれなりに回復したが、4月はそれが少しくなり、肌寒い日が続くためか、婦人服が不調になっている。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・4月は特に月中が非常に悪く、このまま落ちていくような感じだったが、月末になって客単価が若干上がってきている。ただし、来客数はそれほど動きがなく鈍いため、全体的には横ばいである。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・前年に比べ良くなっている実感がない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・数年前から、夜10時以降に繁華街を歩いている人がめっきり減っている。また、道路の渋滞もほとんどなく、あるとすれば工事渋滞ぐらいである。客に質問すると、ほとんどの客が以前よりも残業時間が減った、同じ会社の人とお酒を飲む機会が減ったと答えている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・新入社員等、企業の人事異動の時期にしては、思ったほどの動きはなかった。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月は、あまり変わらない。金曜日はやや良くなっている気もするが、天候が不順であるなど、世間で騒がれているほど良くなっているとは思わない。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・見込み案件が多くなってきているが、受注に至るまでに時間がかかり、受注金額も相変わらず低い。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・この2～3か月の加入は好調だったが、4月に入り伸びていない。ニュース等ではゴールデンウィークに向け景気好調と報じられており、上向き傾向かとも思うが、4月の実績が思わしくなく、また、5月も特段の回復要素がないため変わらない。
		通信会社（局長）	販売量の動き	・ニュースなどではアベノミクスが話題となっているが、当社ケーブルテレビ事業の契約数は特段好影響が出ているようには思えない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・景気が良くなっているニュースは聞くが、まだ消費者は低価格商品を購入しており、給与も変わらないという声が多いため、景気が良くなっている実感が無い。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・顧客の加入状況は相変わらずサービス内容の充実より料金重視であり、少しでも無駄な出費を減らそうとする意識は変わっていない。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・4月のゴルフ場収入は前年度を下回っている。天候不良、特に強風による利用者数の減少が原因であるが、天候不良は一時的なものでなく、以前より常態化している。したがって景気にも影響すると考える。
		ゴルフ場（支配人）	単価の動き	・曜日、時間帯によってプレイ単価を設定しながら何とか集客をしており、来客数としては目標に対し8～9割を確保している。しかし、東日本大震災前の単価にはまだ回復していない。
		パチンコ店（経営者）	来客数の動き	・以前は夜のピークの時間は7～8時だったが、今は8時半くらいと少し遅くなっている。夜の遅い時間は客が入っても引きが早く、客の様子は今までとあまり変わらない。
		その他サービス [保険代理店] (経営者)	販売量の動き	・前年同月と比較して微増はしたが、3か月前との比較では変わらない。
		設計事務所（所長）	それ以外	・分譲用の土地の情報は、あってもほとんど商売につながらないものばかりで、地価も高い。また、一般建築情報はほとんどない。
		設計事務所（職員）	それ以外	・設計業界では、全体をみると特に変化は感じられない。
		住宅販売会社 (経営者)	単価の動き	・当社は住宅を扱う不動産開発業と総合建設業だが、不動産価格は値下がりが続いており、最低価格のままである。多少インフレ気味に進行しないと良くならないと思う。工事の請負では、東日本大震災の復興関係の影響で工事原価が高騰しているにもかかわらず、公共工事を含めて請負価格が低いままであるため、赤字になってしまうこともある。このままの状態では景気は良くならない。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要で工事請負契約締結の動きがみられると聞くが、まだ実績には結び付いていない。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・受注は上向きになってきており、前年比115%である。まだ売上には結び付いていないが、傾向的には確実に上向いている。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	お客様の様子	・客から景気が上がってくることを期待する声を聞くが、今のところ具体的な案件はあまりない。逆に資材が高騰してくる話があるため、どちらともいえない状況である。
	やや悪くなっている	一般小売店 〔茶〕（営業担当）	単価の動き	・粉末茶の販売要素である自動給茶機の売上が、ここ数か月上がってこない。企業が社員のために福利厚生費で飲み物を無料で提供する時代ではなくなってきていることを実感する数か月である。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・1点単価は変わらないが、来客数、買上点数共に減少しており、非常に良くない。天候の影響もあると感じているが、悪い状態である。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・暖かくなってくれば客数も増えるはずなのだが、天候が不順であるため、やや落ち込んでいる。これからの暑さに期待している。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数はほぼ前年並みに戻っている。しかし、単価が約20円、5%ほど下がり、その分がマイナスになっている。
		衣料品専門店 (営業担当)	販売量の動き	・今月半ばまでは前年比100%で、1日の売上が今年の最高額の日もあり良い動きに見えたが、後半は寒さが戻り、動きが鈍くなった。ゴールデンウィークに入っても客足は鈍り、前年比93.3%となっている。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・家電量販店における景気は厳しい状況であり、買い増し、買換え需要のピークがみられない。
		住関連専門店 (統括)	販売量の動き	・来客数の伸びがそれほどなく、そのため販売実績が伸びずに減少している。
		一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・中小企業の客が多い店は悪くなっているが、大企業の客が多い店は良くなっている。全店を平均するとどちらともいえない。大企業はアベノミクスで少し良くなってきたと思う。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・前年同時期に比べて、申込が落ち込んでいる。
		タクシー運転手	お客様の様子	・4月に入ってタクシー利用客が少なく感じる。ゴールデンウィークを控えて、交通費を節約しているのだろうか。まだまだアベノミクス効果はタクシーには届かないのかもしれない。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・全体的に買い控えの傾向がみられ、高額なサービスの新規契約は伸び悩んでいる。
		通信会社（管理担当）	販売量の動き	・例年、春は販売量が増加傾向となるが、今年は微増止まりである。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・天候が不安定のため、やや悪い。早く安定して欲しい。
	悪くなっている	一般小売店〔家電〕（経理担当）	販売量の動き	・主力商品がない。LED照明や録画付きインターホンなどの商品を少しずつ販売している状況である。
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	来客数の動き	・新年度を迎えて、来客数がぼったりとなっている。
		一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	来客数の動き	・昨年オープンした競合店の影響が大きく続いている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・先月、近隣に競合店が出店した影響で、来客数が前年比77%程度で推移している。客数が大幅に減ってしまった分、売上増にはつなげていない。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・同じチェーン店が、当店の最寄駅から一番近い場所にできてしまい、それによって朝の売上、来客数が激減している。
その他小売〔ゲーム〕（開発戦略担当）		販売量の動き	・前年比、前月比共に大きく減少している。目立ったタイトルの発売がなかったこともあるが、全体的に動きが鈍い印象である。	
その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）		単価の動き	・円安の影響で、あらゆる商品の値上げが続いている。しかし、食料品は生活費のなかでも一番削られてしまう部分であるため、利益を見込んだ値上げは不可能である。	
遊園地（職員）		お客様の様子	・客の消費の様子に変化がみられない。	
企業動向関連 (南関東)	良くなっている	金融業（役員）	取引先の様子	・具体的にどこがどう良くなったとは回答しにくい。が、何となく景気は良くなったように感じる。為替や株価がすぐに生活に影響するとは思わないが、消費マインドは確実に上がってきている。
		金融業（支店長）	取引先の様子	・個人、法人共に投資に関して前向きな発言が出始めている。アベノミクス効果により明らかに景気は上向いている。
		税理士	取引先の様子	・高額商品が売れるようになり、景気の上向きを実感する。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	それ以外	・街や店に活気が戻ってきている。
やや良くなっている		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・印鑑、印刷の仕事をしている。通常、15万円前後である最も主要な問屋への支払が、4月は約29万円であった。神社関係であるため、景気が悪い裏返しかもしれないと思うが、かなりの数が出ている。また、薬屋関係で新会社の設立も多い。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き合いが多少上向いており、成約率が1割ぐらい伸びていることから、今後、良くなるのではないかと。
		建設業（経営者）	取引先の様子	・動いている企業と全く動いていない企業と、はっきりと区別できるようになっている。車関係は好調のようだが電化関係の企業は不調のようだ。
		建設業（経営者）	取引先の様子	・協力業者の皆が忙しく、職人がなかなか見つからない。
		建設業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・少しずつではあるが、為替や株価上昇の影響により、特に自動車メーカーなどからの仕事の依頼が多くなってきている。
		建設業（経理担当）	それ以外	・少し前と比べると具体化した見積案件が増えてきている。ただし、そのほとんどが補助金がついた物件ばかりで、自己資金100%の事業投資の話ではない。設備投資の話等が出てこないと本当に景気が良くなったとはなかなかいえない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
変わらない		不動産業（総務担当）	取引先の様子	・懸案の賃貸オフィススペースの空室率は、フリーレント期間長期化の容認により、かなり改善が進んでいる一方で、フリーレントの影響で、賃料水準の改善は進んでいない。もう少し時間がかかりそうである。	
		経営コンサルタント	取引先の様子	・小売店舗における来客数等が増加している。	
		税理士	それ以外	・顧客の業績は、建設業などはまだ悪いままである。また、駅前に行くまでの商店街の飲食店をのぞいてみても、客の入り具合が随分悪い。しかし、アベノミクスで円安となり、勢いが出てきて、それが中小企業等にもこれから浸透してくる。	
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年並みの売上を維持できる程度に回復してきている。	
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・年度末のスポット作業が多かったためである。	
			食料品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・来客数は増えてきているが、客単価が下がってきている。
			食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・アルコール飲料業界は平均して悪いため、変わらないということは何となく良いような気もする。
			繊維工業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・アベノミクス効果で円安、株高が進んでおり、景気が改善しているとの報道が盛んだが、国内の中小製造業の景況感はその逆で、輸入に頼る原材料が高騰して入手が困難なうえ、納入価格は現状維持であり、注文量も減少傾向にある。
			出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注に関しては増加と減少の相殺で、やや良い傾向にある。新規の設備投資を行っており、その効果がやや見られるかもしれない。
			出版・印刷・同関連産業（営業担当）	それ以外	・当社が発注する封筒専門業者の営業の話では、例年受注量の多い3～4月が、今年は前年比で確実に減ったということである。
			プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・総体的に受注量は増加傾向にあるが、仕入れが値上げ傾向にあり、利益率に大きな変化はみられない。
			金属製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・今年に入り、今まで以上に下請に対してのコストダウン要請が強い。コストダウンしても、量が増えるわけではなく現状維持の数量のため、実質の売上金額は数量が減ったことと同じである。
			金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・客先では仕事が多くなったが、2社から購買するようになり、仕事が振り分けられて受注量が減り、値下げの話も出てきている。
			一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上が少なくなってきているため、何とかばん回できれば良いと思っている。努力もして頑張っていきたい。
			一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・最近、新規の物が少ない。
			電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年、年度替わり後の受注量は低調であり、今年も変わらない。
			精密機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・一部では多少動きがあると言われているが、製造業は依然として動きが悪い。取引先上場メーカーで一時帰休を来月より実施する会社が出ている。
			輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・アベノミクスもまだ当社には届かない。マネーゲームの場合は株が上がった、円が安くなったとすぐ答えが出てくるが、ものづくりは時間がかかる。メーカーが減産体制を少し増産体制にするということでも、半年～1年たって、やっと忙しくなってきたというようなものである。あのとときの景気は2年続いたとか3年続いたと後で言われるが、我々には実際ピンとこない。気持ちの上で少し明るくなったので頑張ろうと思っている。
			その他製造業〔靴〕（経営者）	取引先の様子	・得意先の状況だが、特に良くなったということが具体的にはないが、景気が悪いという言葉は聞こえなくなったため、それだけでも違うのではないかと。
			建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・商品が売れない。
輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年度末で売上増となった3月の反動か、4月は取扱量が低迷し、燃料価格の高止まり等で経費負担は重く、新年度の始まりは、暗いムードとなっている。			

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・荷主は円安のため輸出用の製品の増産を開始し、物流センターへの製品の移動は増加している。しかし、国内向けは依然として計画を下回っている。
		輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・価格競争が厳しく、特にチャーター部門の受注が減少している。
		金融業（統括）	取引先の様子	・円安、株高という良い材料はあるが、実態としては受注関係等はまだまだ低迷しており、資金ニーズが特に出ていない。
		金融業（支店長）	受注量や販売量の動き	・今まで不動産業は好調だったが、アベノミクスで景気が良くなるのではないかとということで、地主等が土地を売るのを少し待とうという傾向があるため、物件が入りにくくなっている。また、製造業はまだ売上の増加見込みがなく、今の景気が続くのではないかと。
		不動産業（経営者）	競争相手の様子	・4月完成の駅から徒歩4分、重量鉄骨造り3階建て1LDK8戸のうち半分はまだ契約されていない。駅徒歩7分、軽量鉄骨造り2階建て1LDKで5月入居可の物件6戸、駅徒歩3分、重量鉄骨造り3階建て1LDK2月入居可6戸の半分も未契約であり、新築物件も大変な時期が続いている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・このところ売上が上がったという商店街や店の報道が続いているが、それはごく一部の街、一部の業種に過ぎない。我々の街では、ほとんど変化がないと客の多くが言っている。客自体、収入が増えたという実感がないため、金の使い方も変わっていない。
		社会保険労務士	取引先の様子	・資金繰りの厳しい会社が多くみられる。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・アベノミクスの効果は、实体经济にはまだ出ておらず、中小企業は相変わらずの環境にある。自動車の輸出環境が良くなったとはいえ、ほとんど主要なものは海外で生産する体制ができており、為替が変動しても日本国内の生産が急増することはなく、自動車関連の製造業に良い風が吹いているわけではない。
		その他サービス業 [映像制作] (経営者)	受注量や販売量の動き	・新年度を迎えたが新規の受注が特になく、また図書館等の新しい予算での受注もいまだにないため、景気が上向きだという実感はない。
		その他サービス業 [警備] (経営者)	取引先の様子	・公共事業も一段落して、道路工事関係の警備が激減している。
		その他サービス業 [ビルメンテナンス] (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・年度末に解約物件が出る一方、新規受注もあったが契約金額は厳しい。円安、株高になり、アベノミクス効果があるように言われているが、ビルメンテナンス業界にはタイムラグがあり、景気が良くなっている実感はない。
やや悪くなっている		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年度末関連の仕事も終了に近づき、新規の仕事の動きは今のところまだ低調であるため、先行きに不安がある。また、紙の値上がりの話も出てきたため、製品に加算できるかが心配である。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	それ以外	・ゴールデンウィーク前の繁忙期も前年より減少傾向であり、全体の数字が常にマイナスの状況となっている。印刷広告業界は世間で騒がれているような上昇傾向をまだ感じることができない。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・新年度に入ってから急に受注が減り始めている。また、変動も激しく、忙しい日があつてこのままいってくれるかと思うと、翌日からぱたっと止まってしまう。荷主に聞いても今はそういう結果しか出せないということである。
		通信業（広報担当）	受注量や販売量の動き	・2月を底に緩やかに回復している。
		広告代理店（経営者）	取引先の様子	・新年度に入り、照会止まりであろう引き合いもあったが、その引き合いの進行が遅くなっている感がある。発注案件自体の動きの鈍さが増すと、当然実入りも傾くため、世間で言われている好景気感はない。
悪くなっている		○	○	○
雇用関連 (南関東)	良くなっている	人材派遣会社 (社員)	周辺企業の様子	・業種によりばらつきはあるものの、顧客の人材需要は総じておう盛である。
	やや良くなっている	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・4月になり、年度末の3月ほどの求人依頼数ではないが、物流企業の一部からは、新規事業や倉庫の拡大などで求人依頼数が増えてきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社 (営業担当)	雇用形態の様子	・求人数が若干増加している。採用形態も期間限定の短期派遣というよりは長期、もしくは紹介予定派遣が多くなってきている。
		人材派遣会社 (支店長)	それ以外	・人材紹介の依頼が前年と比べても増えてきており、今後も増加基調の見通しである。
		人材派遣会社 (支店長)	求人数の動き	・派遣求人数が増加している。
		人材派遣会社 (営業担当)	採用者数の動き	・事業の見通しがやや順調であり、採用にアクセルを踏み始めている。
		求人情報誌製作 会社(営業担 当)	周辺企業の様子	・医療関連や介護、保育、理美容など有資格者の求人は相変わらず堅調である。また、アルバイト、パートが主だが、このところ製造業や飲食業、事務系の求人が増え始めている。
		求人情報誌製作 会社(営業担 当)	求人数の動き	・新規の取引が若干増えてきている。
		求人情報誌製作 会社(広報担 当)	採用者数の動き	・取引先の今年度の新卒採用が、わずかではあるが例年より増え、さらに中途採用をするという話をいくつか聞いた。わずかではあるが、景気への期待感から雇用に結び付いているのではないかと。
		新聞社[求人広 告](担当者)	求人数の動き	・今月は倒産が2社、廃業が1社、それに比べ新規19社、うち大口が2社あったため、これが相当大きく影響しており、予算が出なくなった企業も2社あるが、数字的にはかなり伸びている。
		民間職業紹介機 関(経営者)	採用者数の動き	・メーカーのクライアントでは、すでに海外進出済みの企業が多いが、経理、人事、海外営業、購買、技術系など広い範囲で適任者がいれば紹介して欲しいという要望が増えている。
		民間職業紹介機 関(職員)	求人数の動き	・まだ大きな変化ではないが、求人数が徐々に増え始めている。
		学校[専修学 校](就職担 当)	求人数の動き	・求人獲得件数が前年同月比で約20%伸びており、特に中小企業の求人の増加が目立っている。
変わらない		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人は4月のため増えないが、企業によって同じ業種でも、業績の良し悪しの差が、かなりはっきり出てきているようである。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	採用者数の動き	・新卒採用に関しては、中堅企業の採用意欲が多少強くなっている。5月以降に説明会を継続する会社が多い。ただし、予算を増やすわけではなく、自社での開催回数が増えている。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・正社員の求人数は横ばいだが、パートの求人が若干増加してきている。
		職業安定所(職 員)	求職者数の動き	・景気が上向きとなると転職の動きが活発になる傾向にあるが、新規求職者は減少傾向にあり、転職に向けた積極的な動きがみられない。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・求人数全体では増加傾向にあるものの、フルタイムの求人数は2か月連続で前年同月を下回っている。産業別でみると、生活関連サービス業、娯楽業、小売業のパート求人が増加する一方、情報通信業のフルタイム、パートタイム求人が減少している。
		民間職業紹介機 関(職員)	求人数の動き	・顧客の求人数にそれほど大きな変化はない。ただし、新年度が始まったり、新卒採用に手が取られているタイミングのため、動くとしたらこれからになると思う。
		やや悪く なっている	—	—
悪く なっている	—	—	—	

5. 東海(地域別調査機関:三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株))

(—:回答が存在しない、○:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東海)	良くなっている	一般小売店[土 産](経営者)	来客数の動き	・今秋の遷宮を控え、観光客は前年同月比で10%以上増加し、4月も15%近くの増加が見込まれる。3連休の2日目は交通渋滞がひどく、ゴールデンウィークの後半は、大混雑となりそうである。
		一般小売店[土 産](経営者)	販売量の動き	・今年は遷宮の年であり、既に多くの参拝客が当地を訪れ、連日にぎわっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・客単価が高額品だけでなくファッションやリビング用品部門でも上がっており、客の購買意欲の高まりが数字にも表れている。
		百貨店（販売担当）	販売量の動き	・数か月前から高額品の動きが顕著に良い。富裕層の購買は特に安定しているが、ここ最近、中間層でも高額品を購入する動きが少しずつ出てきている。
		住関連専門店（営業担当）	販売量の動き	・分譲住宅、分譲マンションや戸建住宅の売行きが良くなっている。また、大規模改修やリフォーム工事も多くなっている。消費税増税前の駆け込みムードが盛り上がっている。
		旅行代理店（経営者）	来客数の動き	・従来好調であった近隣アジアが低迷するなかでも、売れ筋の旅行先（欧州）については大変好調であり、今後、夏休みにかけては期待ができる。団塊世代やファミリー3世代層の需要が見込める。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子からは購買意欲がうかがえ、来客数は一時より若干良くなっている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・止まっていたホテルの工事の工作在、再開し始めている。
		一般小売店〔薬局〕（経営者）	来客数の動き	・インフルエンザ、花粉症の時期もほぼ終わり、現在の客は小康状態である。インフルエンザ、花粉症ともに爆発的な流行はないが、今年は、そこそこ忙しい。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数は、先月よりも少し増えている。昼間はウォーキングシューズ等を購入する年配夫婦の来店が多い。夕方には、新社会人が財布や小物・靴を購入し、売上が増加している。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・食品フロアの改装効果により引き続き好調である。少々ぜいたくしても良いという感覚が、出始めている。
		百貨店（経理担当）	お客様の様子	・購買客数は、前年を大きく上回っており、景気の上向き感がうかがえる。その証左として、ついで買いや衝動買いとの関連性が高い現金支払の購買客数が増えている。
		百貨店（経理担当）	お客様の様子	・衣料品等の売上は依然として厳しいが、宝石・時計等の高額品の動きが少しずつ出始めている。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・店舗改装工事の効果が当初の見込みより大きく好調に推移している。来客数は前年同月並みでも売上は増加しており、消費者の購買意欲の上昇を感じる。
		百貨店（経営企画担当）	お客様の様子	・衣料品全般については天候要素や前月の反動があったものの、宝飾時計や海外ブランドにおける高額品需要は引き続き高い。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・上場会社の多くでは、円安効果で3月決算は利益が大幅に増加している。量販店、コンビニエンスストアでは粗利額が大きなプライベートブランド品目が増え、利益を押し上げている。ゴールデンウィークに、ドライブ、観光、カラオケ、潮干狩り、食事、買物など身近な場所へ出掛けているのは良い事である。景気は徐々に良くなりつつある。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・缶詰やティッシュなどの値上げ報道もあり、値上がり前に買い置きする動きがある。来客数も、このところは前年同期並みとなっており、店の雰囲気も良い。
		スーパー（店長）	単価の動き	・1人当たり買上点数は前年同月比を下回っているが、1品当たり単価は前年同月を上回っている。
		スーパー（店員）	来客数の動き	・年明けに比べて、客の志向は、値段の安い品物を探す志向から平均的な値段の物を選択する傾向へと、変化が見られる。値下げする商品の種類も減少している。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・客1人当たりの買上単価と1人当たりの買上金額が、ともに若干上がっている。
		スーパー（営業担当）	単価の動き	・客単価が少し上昇してきている。
		スーパー（商品開発担当）	販売量の動き	・前年同月比では微減であるが、GMS（総合スーパー）は前年の水準を回復している。一方、SM（スーパーマーケット）は、苦戦の状況で推移している。GMSが好調である要因は、ハレの日消費等が上向いているためであり、少しずつではあるが回復している。
		スーパー（販売担当）	販売量の動き	・競合店が多いため単価を安くしているため、販売量が増加している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（営業企画）	お客様の様子	・小売業のなかでは百貨店が良好であり、当社でも、アップグレード業態は、数字が比較的良好である。
		スーパー（支店長）	来客数の動き	・季節も良くなり来客数が増えてきている。アベノミクス効果が、徐々に表れているのであろうか。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・売上は前年同月比100%をクリアしていないが、徐々に回復傾向にある。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・新年度を迎えて新しい客が増えつつあるため、販売量が伸びている。
		乗用車販売店（従業員）	それ以外	・注文も問い合わせも多く、確実に良い状況である。前年同月はこのような状況ではなく、自動車業界は少し動き出している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ハイブリッド車を中心に受注が伸びている。来客数もまずまずであり、市場が動きつつあると感じている。ただし、客の選択は、ますます厳しさを増している。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・受注量が想定よりも少し良い。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（営業担当）	お客様の様子	・自動車関連企業の客が多い立地であるため、業界が活気付いて土曜日操業があると売上が落ち込む。しかし、その一方で給料は増加するため、今後の購買が期待される。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・アベノミクスの効果で株価も上がり、消費マインドは上向いているが、給与にはまだ反映されない。現実的には厳しいが、以前より人は増えている。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	販売量の動き	・気分的なことであろうが、雰囲気は良くなっているなど、なんとなくではあるが、良い傾向にある。
		観光型ホテル（販売担当）	来客数の動き	・宿泊者数確保のためにインバウンドに力を入れている。従来の台湾や韓国だけではなく、タイやベトナムから多数に受け入れることができている。単価については、国内の利用者でアップを図り売上増加につなげている。宴会については、目を見張るほどの伸びはないが、新年度が始まる4月であり前年同月はクリアをする。
		都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・客単価は下げ止まっている。値引きやその他の要求が減ってきている。
		都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・出張による宿泊需要は大幅に増加しているが、宴会の法人需要の増加には、まだ至っていない。
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・来店する客の様子が、少し明るくなってきている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・4月前半は歓送迎会があり、金曜は深夜まで乗客があった。月末の金曜日は、連休前ということもあって、かなり遅くまでたくさんの客でにぎわっていた。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・キャンペーンの最終月ということもあり、新規加入数が若干戻ってきている。客の反応が良くなってきている。
		通信会社（サービス担当）	販売量の動き	・進学、就職、転職、人事異動や引越しが多いシーズンに伴い、新規申込や光回線へ乗換えが増えており、3か月前より良くなっている。
		ゴルフ場（企画担当）	来客数の動き	・今月の来場数は、予算・前年同月比とも上回っている。来場数は、ここ数か月少し良くなってきている。売上は、前年同月よりは良くなっているが、予算的には今一歩というところである。良くなっているが、本当に良くなったとは言いきれない。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・客との会話のなかでは、ゴールデンウィークの後にレジャーで外出する人が多い。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・1月のことを思うと少しは良くなっている。3月は売上が良かったが、4月にはまた寒くなり、客の出足も悪くなっている。
住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・円安、株価上昇や製造業が元気になってきたことを背景に、来場者数からは、製造業の多い当地に活気が戻ってきている様子を感じる。消費税増税も後押しとなり、今後も継続して来場が増えると期待できる。		
住宅販売会社（従業員）	それ以外	・下請業者の仕事量が、他社も含めて多くなってきている。		
変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・客単価はやや上昇したものの、来客数・購買点数は減少しているため、前年同月比の販売量は、全く変わらない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	販売量の動き	・単価が低い商品は依然として横ばいで、高単価商品の売行きも伸びてこない。来客数も横ばいである。ただし、ばら売り商品だけは伸びてきている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・客単価が低く、販売量や売上高の増加につながっていない。
		一般小売店〔高級精肉〕（企画担当）	販売量の動き	・アベノミクスの効果がなかなか末端まで伝わらない。食品業界は、景気の波が最後に伝わってくるので、中元シーズンには期待している。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	来客数の動き	・前月と同様に飲食店への来客数が、安定している。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	単価の動き	・売上は横ばいである。単価も今のところ伸びていない。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・客単価が低い。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	販売量の動き	・心証としては少し良くなっている。女性客が少し良くなっており、105円の本でも10冊まとめ買いする方が増えている。一方で、40歳以上の男性客の動向が非常に悪い。使えるお金を持っていないのか、2～3時間立ち読みをして、購入するのは105円の本を1冊のみである。
		一般小売店〔自然食品〕（経営者）	お客様の様子	・客単価の上昇はみられない。購買意欲はまだ前年と変わらない。今までと同様、セールでは来客数、売上ともまとまってあるが、その他の日には様子見の客がほとんどである。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	お客様の様子	・国の経済対策に対する客の期待感がよく見える。現実には、客の期待する収入とはほど遠いため、買得商品を必要量だけ買い求める現状である。景気は、横ばいであり上向いてはいない。
		百貨店（販売担当）	お客様の様子	・季節の変わり目に必要な目的買いは増えてきているが、購入層は普段と変わらない。高額品については、富裕層の購入がまだまだ多く、変化は感じられない。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客単価は前年同月比97%前後であり、低迷が続いている。節約意識は変わらず続いており、景気回復はまだ見られない。
		スーパー（店長）	単価の動き	・買上点数が若干伸びてきているが、商品単価の低下は続いており、客単価は大きく伸びていない。
		スーパー（店員）	販売量の動き	・販売量は、ここ数か月横ばいである。数量を増やすために、価格を下げていく状況となっており、売上にはなかなか貢献できない。
		スーパー（販売促進担当）	販売量の動き	・今月の売上も、前年同月比95%で前年を下回っている。良い品質の商品、新製品を求める声があるなど良い兆しも見えてきている。他店との競合が一段落しないと、数字は改善しそうにない。
		コンビニ（企画担当）	来客数の動き	・株式の資産価値上昇に伴って、いち早く株の保有者や年金世代が商品購入や旅行で消費行動を起こしている。比較的高額な商品や行楽、旅行の動きは良いが、生活日用品関連はまだ悪い。資産を保有している人以外は、賃金上昇を待つ以外はないので、まだ時間がかかるのではないかと。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は少し増加している。その一方で単価が低下しているため、売上は変わらない、若しくは減少している。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・金曜日を除いて深夜0～2時以降の客の動きは、前年とほとんど変わっていない。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・暖かい日はオープンドアにするため入店しやすく、一見客が多くなっている。しかしプライスゾーンとのギャップが大きく購買には至らない。景気が良くなっている実感はない。
		衣料品専門店（販売企画担当）	お客様の様子	・アベノミクスの効果は、圧倒的に多数を占める中小零細企業への波及がまだであり、実感がないという方がほとんどである。相変わらず安価な商品の動きが良く、国産品は動きが鈍い。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・テレビは新商品が出て売れない。タブレットコンピュータやスマートフォンは人気があり、全体としては前年並みである。
		家電量販店（店員）	単価の動き	・円安でも輸出型企業の受注が増加しているかはわからず、利益の還元はない。気候の良さや株価上昇の効果で明るさは出ているが、実体はない。消費者の財布のひもは固い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・アベノミクスの好影響は一部の業界や企業にとどまり、全体的には影響を与えていない。		
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・政権が交代してから、売上が良好な状態が続いている。		
		その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	販売量の動き	・販売量の動きに最も注目し、合わせて来客数等にも注目し判断している。販売量は増加であるが、来客数は減少しているため、変わらないと判断する。		
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・4月に入って客単価は前年同月を上回っているが、来客数が減少しており、売上高は前年同月並みにとどまっている。		
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・宿泊者の数は前年同月並みで、会食数は95%くらいである。もう少しであると感じるが、なかなか良くならないという状態が続いている。		
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・客の低単価志向が、ますます進んでいる。一方で、LCC（格安航空会社）等の利用が進み、単価の低い旅行手段が増加していく。		
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・販売は、前年度末から4月中旬まで伸び悩んだが、4月下旬になって、見積依頼や販売量が増加してきている。まだ、安心できる予定売上には達していないが、アベノミクスは言葉や雰囲気だけでなく、これから起爆剤的な政策があるのではないかと考えるため、横ばいとみている。		
		旅行代理店（従業員）	それ以外	・近隣アジア諸国での鳥インフルエンザの発生や、軍事的な緊張、円安等の不安要素により、近隣アジア諸国への旅行者が確実に減っている。特に隣接国への旅行者数の減少は、今後、旅行業界へも大きなマイナス要因となる。		
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・国内旅行は順調であるが、円高やゴールデンウィークの日並びの影響か、海外旅行が伸び悩んでいる。		
		タクシー運転手	来客数の動き	・前年同月より良くなったという声も聞くが、変わらないという声も半分以上ある。夜の繁華街も人が少ない。にぎわいや景気の良さといった実感は、まだ身近では感じられない。		
		通信会社（営業担当）	それ以外	・マスコミではアベノミクスと騒いでいるが、国民の生活状況は、ほとんど変わっていない。株価と生活レベルとは別の世界である。		
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・来場者の動向は変わらないが、台湾からの入込客が好調になってきている。		
		美顔美容室（経営者）	来客数の動き	・キープキャンペーンが始まり、客からの新規客の紹介により来客数が増えている。		
		美容室（経営者）	お客様の様子	・やはり景気はまだまだ良くなっていない。		
		設計事務所（職員）	お客様の様子	・客の様子を見ると、自宅を建てる時の支出が節約傾向にある。不景気が長いため、節約に慣れてきた感もある。上向きといっても、土台がしっかりしていなければ崩れてしまう。		
		住宅販売会社（経営者）	競争相手の様子	・消費税率が上がる前に購入しようとしているため、売行きが良い。		
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・上向きになりつつあるが、現在はまだ変化がみられない。		
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（経営者）	お客様の様子	・客及び同業者からの問い合わせは多くなっている。それが、一時的なものか継続されるのかによって見方が分かれるが、やっと上向きになってきているという判断になる。		
		やや悪くなっている		一般小売店〔結納品〕（経営者）	販売量の動き	・人の動きが、物を買う感じになってきている。
				一般小売店〔贈答品〕（経営者）	お客様の様子	・贈答品店では例年4月は数字が少し上向くが、客の財布のひもの固さは変わらない。企業収益が増えても、個人所得が上がらないため、贈答品の販売量、来客数、金額等のすべてが減少している。
百貨店（販売担当）	お客様の様子			・先月は購買意欲のある客が多く、景気の回復を感じたが、4月に入り揺り戻しを感じる。様々な施策を打っても手ごたえを感じない。他社でも同様との事である。		
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き			・売上、来客数が前年同月比でマイナス1%悪化傾向である。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・4月は気温が低かったためか、飲料水など水物の売上が減少し、売上全体に対しても悪い影響を及ぼしている。	
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・前年比では景気が良くなってきている感じがしているが、状況は引き続きあまり良くない。アベノミクスの効果が表れるのは、下期以降の可能性はある。製造業が良くなり、サービス業へ効果が表れ始めるまで時間がかかるような気がする。来客数は、前年を下回る日々が続いている。	
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・4月に入ってから販売台数は大幅に減少しており、前年の6割程度で推移している。会社の目標も、大幅に下回っている。	
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・今月に入って、異常なくらい来客数が減っている。前年同月並みと予想したが、達成率は前年同月比80%ほどで終わっている。本来落ち込む時期ではあるが、前月までにかかなり前倒しをしたせいもあり、反動減といったところである。	
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・注文はあるが在庫台数がなく、登録台数に結びついていない。	
		その他専門店〔貴金属〕（店長）	お客様の様子	・円安や株高で世の中のムードは良く、消費マインドは上がっているものの、売上はほとんど変わらず苦戦をしている。特に変化は感じられない。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・ゴールデンウィークを控えているためか、昼間の客がかなり減少している。	
		タクシー運転手	お客様の様子	・前年同月も同様であったが、歓送迎会の時期であるのに良くない。	
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・ISP（インターネット接続業者）関連の販売が減少し、販売に対しての工事が減少している。	
		テーマパーク（職員）	お客様の様子	・まだまだ外国人も少なく、地方までは景気は良くなっていない。	
		理美容室（経営者）	来客数の動き	・だんだん暖かくなり来客数は増えるはずであるが、増加していない。	
		悪くなっている	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・来客数、商談数、成約数のいずれも、かなり落ち込んでいる。
			パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・来客数の動きが良くない。
			理容室（経営者）	お客様の様子	・世間では景気の良い話が聞かれるが、私の周りでは景気の良い話は聞かない。
企業動向関連 (東海)	良くなっている	電気機械器具製造業（企画担当）	それ以外	・株価の上昇により消費マインドが好転している。資産家による高額商品の購入だけでなく、飲食店の来客数の増加など、幅広く消費が広がっている。	
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・貨物の輸出、輸入ともに、前年同月比15%ほど増加している。	
	やや良くなっている	食料品製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・新商品の発注数量等が順調に増えている。景気が良くなっているためか、トライアル需要もおう盛になってきている。	
		紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）	取引先の様子	・販売単価の低下がかなり進み、これ以上の安値はない水準にまで来ている。競争相手も受注競争による安値販売は限界まできており、今後は上昇するしかない。	
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客からの問い合わせが増えている。	
		化学工業（人事担当）	それ以外	・当地は自動車産業が多く、円安の効果で業績が大きく改善している。それに伴い給与アップが見込まれ、心理的にも安心感が広がり購買意欲が高まっている。	
		化学工業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・海外輸出比率の上昇、為替レートの変動、株価上昇により収益部分で好影響が出始めている。また、3か月の売上予測でも、ほぼ予算達成が見込まれている。	
		一般機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・円高時に値下げした商品がこの円安で更に値引きされた状態になっている。そのため、普段は予算が折り合わずに購入を控えていた南米等の新興国の電子部品メーカーや、北米の比較的小規模な請負生産ユーザーが、次々に購入を決めている。	
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・円安基調で販売量が増加傾向にある。	
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・円安の効果で完成車メーカーからの発注量が増加している。また、スクラップの価格が高めで推移している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・不動産開発業では、マンション・戸建住宅ともに販売は堅調に推移している。また、モデルルームへの来場者も増加傾向である。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・輸入の減少はあるものの、それを上回る輸出の引き合いが増えている。国内小売業における販売物量も増えてきている。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・例年、年度末や年度初めは荷動きが活発になるが、今年は例年よりもやや荷動きが活発である。また、引越件数も個人・法人ともに増えており、人の動きも活発になっている。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・荷物の到着量が、随分多くなってきている。
		通信会社（法人営業担当）	取引先の様子	・アベノミクスの効果なのか2～4月の人の移動に絡むものかはわからないが、工事がいつもより3割増しとなっている。
		金融業（法人営業担当）	取引先の様子	・取引先の自動車部品メーカーは、既に受注量が増加し好調な企業と、まだ動きなく原材料値上がりのデメリットを訴える企業とに二分されている。
		金融業（企画担当）	取引先の様子	・株高、円安により個人投資家の資産が増えてきており、それに伴い投資意欲や消費意欲がおう盛になってきている。
		不動産業（開発担当）	受注量や販売量の動き	・資材や労務費を含む建設コストが急激に上昇しており、不動産業界にとっては、大きな懸念要素である。
		行政書士	受注量や販売量の動き	・貨物の動きが良い。
		公認会計士	それ以外	・会計事務所の客である経営者の気持ちが、前向きになってきている。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・円安、株高傾向は、中小企業にとっても経営にプラス要素が大きく、商取引が活発化している。また、自費関係の消費税増税が影響しているためか、歯科医院のようなサービス業においても来客数は増えている。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	取引先の様子	・4月から予定していた案件が、顧客の体制変更等により立ち上がり不明確になってきている。また、内容が縮小されたり、急に依頼が発生したりしている。
		変わらない		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）
金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き			・前年に比べても良くない。
金属製品製造業（従業員）	取引先の様子			・先のプロジェクトはあるものの、足元の仕事確保に不安であるという声を聞く。
電気機械器具製造業	競争相手の様子			・判断としては変わらないというよりも、客先の設備投資が計画段階から実行に進むという上向きな面と、競合他社では厳しい業界環境から廃業も出てきているという下向きな面との両方の傾向がある。また、当社はメーカーであるが、分野によっては製造よりも輸入が多いため、最近の円安では、厳しい環境になってきている。
輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	取引先の様子			・受注量の微増がずっと続いている。
輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き			・前年の売上高は前年比1.6%増加で、今年は同1.7%の増加となり、前年との比較では+0.1%と、ほとんど変わらない。
輸送業（エリア担当）	それ以外			・頻りに訪問する飲食店の店主との会話では、来客数や客単価は増加も上昇もしていない。社会の裾野部分での景気は、全く動いていない。
不動産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き			・消費税の増税に絡む問い合わせはあるものの、実際には横ばい程度である。
不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き			・世間で景気が良いと言われているほど、オフィスの需要は動いていない。心理的な面と実際の状態には、まだまだかい離がある。
広告代理店（制作担当）	取引先の様子			・これといった新しい動きはほとんどない。客先である企業側も落ちついている感があり、特に、紙媒体の受注量は伸びていない。
会計事務所（社会保険労務士）	取引先の様子			・売上、利益ともに変化のない顧問先がほとんどである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他非製造業 [ソフト開発] (経営者)	取引先の様子	・景気的好転を見越して、全体として気持ちに明るさが見える。外注先も、繁忙とはいかないが、まずまず生産活動を行っており、一時のような厳しい表情は見られない。
	やや悪くなっている	窯業・土石製品 製造業 (社員)	受注量や販売量の動き	・年間売上の25%を占めていた製品に問題が生じたため、計画の4分の1の受注量になっている。問題を解決するまで、受注は回復しない。
		金融業 (従業員)	取引先の様子	・取引先の業界では、例年に比べて生産性を上げてきており、忙しくなっている。
	悪くなっている	鉄鋼業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・大手企業では決算見込みが上がっているが、中小零細企業への実需にはつながっていない。見積、受注、販売とも、すべて前月同月より10%ほど低下しており、どの業種の客をみても、受・発注量ともに減っている。
		電気機械器具製造業 (経営者)	取引先の様子	・取引先の設備投資が行われないため、当社の売上が減少している。
雇用 関連	良くなっている	—	—	—
(東海)	やや良くなっている	人材派遣会社 (経営企画)	周辺企業の様子	・関東の自動車関連の技術系人材需要には若干の陰りが見える。その反面、東海の需要は概ね良好である。客の決算状況も良く、開発の活性化に期待する。
		人材派遣会社 (社員)	雇用形態の様子	・労働者派遣法の改正に伴い、業種全般で非正規社員を正社員採用に切替える企業が増えている。
		アウトソーシング 企業 (エリア 担当)	周辺企業の様子	・国内の自動車生産台数は上方に修正されて、雇用者数の増加につながっている。
		新聞社 [求人 広告] (営業 担当)	採用者数の動き	・新聞の求人件数が増加傾向にある。
		職業安定所 (職 員)	求職者数の動き	・一般求職者、新規学卒求職者とも減少傾向が続いており、求人は増加傾向が続いている。
		職業安定所 (職 員)	求人数の動き	・求人は増えつつあるが、主要産業の製造業では前年同月比で半年連続減少している。
	変わらない	人材派遣会社 (経営者)	求人数の動き	・3か月前と比べて求人は出ている。しかし求職者とのタイミングが合わないため派遣には結びつかず、売上の増加にはつながっていない。
		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・例年と比べても歓送迎会が好調である。
		人材派遣会社 (営業担当)	周辺企業の様子	・決算を終え、新たな期においては、各社で開発の様子見している。安全のため景気に影響を及ぼす参議院選挙の結果待ちと思わせる動きである。
		人材派遣会社 (支店長)	求人数の動き	・求人数は3か月前の70%強に落ち込んでいるものの、前年同月比では105%となっており、ほぼ横ばいの状況が続いている。
		人材派遣会社 (営業担当)	それ以外	・株高や円安が印象的ではあるが、果たしてこのまま景気回復につながるかは疑問がある。
		職業安定所 (職 員)	雇用形態の様子	・新規常用求職者数は、季節要因があり前年同月比では減少となるものの3か月前より増加している。また、新規常用求人数は、3か月前、前年同月比ともに増加している。しかし、求人の中身を見ると、正社員求人の割合は増えていない。
		民間職業紹介機 関 (営業担当)	雇用形態の様子	・当地では、求人に大きな変化は見られず、中小企業の待遇に関しても良くなっているとは感じられない。また、新規採用に関しても介護業界以外は、慎重な動きである。
		民間職業紹介機 関 (営業担当)	求人数の動き	・企業の業績改善の兆候は出ているが、それが新たな人材の募集という動きにはつながっていない。求人数の動きを見てもそれほど変化はない。
やや悪くなっている	—	—	—	
悪くなっている	—	—	—	

6. 北陸 (地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所)

(—：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向	良くなっている	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・受注状況は毎月堅調に推移し、前年同月比で平均して3割増の大幅な伸びで推移している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
関連 (北陸)	やや良くなっている	一般小売店〔精肉〕(店長)	単価の動き	・高額な商品が良く売れている。
		一般小売店〔鮮魚〕(従業員)	お客様の様子	・料理飲食店で、やや客の入りが良くなってきたとの声をしばしば聞くようになった。また、あまりお金は落とさないが円安などにより、外国人観光客が目に見えて増えてきており、震災前を上回っているように思われる。
		百貨店(売場主任)	単価の動き	・気温の上昇とともに、春物、初夏物の定価品が活発になってきている。一時の単価だけにこだわりを持つ客から、ライフスタイル重視に変わりつつある。
		百貨店(営業担当)	単価の動き	・例年より寒かったため、婦人服の動きが悪かった。高級バッグの売上が前年同月の150%の伸びで、フロアの予算は達成することができた。
		百貨店(一般顧客訪問担当)	単価の動き	・高額品の動きが良くなっている。
		スーパー(店長)	お客様の様子	・競合店の状況を確認すると、自店の売上が増加してきていると実感した。
		スーパー(店舗管理)	来客数の動き	・リーマンショック以降、ようやく既存店ベースでの下げ止まり基調がみえてきたように思える。
		コンビニ(店舗管理)	来客数の動き	・今年に入り来客数の前年同月比が、月を追うごとに良い数値となっている。天候要因が大きな原因というだけではなさそうである。
		家電量販店(店長)	お客様の様子	・高付加価値商品を買って求める来客数が増えてきている。
		乗用車販売店(経理担当)	販売量の動き	・4月の車の販売台数は前年同月比102%、一方、今年1月の車の販売台数は同79%であるため、回復基調にある。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕(経営者)	お客様の様子	・全体の様子をみると、安い物ばかり買っていたのが、少し高い物も客が買うようになった。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(統括)	来客数の動き	・前年12月以降、4か月連続で来客数が前年同月比を上回っている。客単価の上昇にはまだつながらないが、結果として集客の増加が売上を増加させている。
		観光型旅館(スタッフ)	来客数の動き	・総売上は前年同月比99%、宿泊人数は同97%、宿泊単価は同102%となった。個人客の割合は56%であり、企画募集の客が前年並みを確保でき、宿泊単価がアップとなった。
		都市型ホテル(スタッフ)	販売量の動き	・レストランや宴会部門はやや苦戦し、全体としては微減であるものの、宿泊部門はインバウンドの好調により順調に推移している。
		都市型ホテル(スタッフ)	来客数の動き	・宿泊客数が増えている。レストランの来客数も持ち直している。
		旅行代理店(従業員)	単価の動き	・個人客は相変わらず価格にはシビアであるが、団体客については多少価格帯が上の商品も受入れるようになってきている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・週末を中心とした桜の花見や、会社においても新入社員、人事異動や歓迎会などが多かったため、良かった。
		通信会社(職員)	お客様の様子	・解約やキャンセルなどの事案が減少しつつある。
		その他レジャー施設(職員)	お客様の様子	・大人では入会と退会がほぼ同数であったが、子供カルチャー系の入会が出てきている。
		住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・前年は分譲住宅の売出しを行っても、来場者数は1日2~3組あれば良かったが、今月は2日で10組を超える来場者があったこともある。消費税率引上げ前に決めようと動く人が顕在化し確実に増えてきた。
	住宅販売会社(従業員)	来客数の動き	・土地売買の件数も増加している。3月ごろからは問い合わせも増えている。	
	住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・今年の9月末日までの住宅工事請負契約であれば消費税率が5%ということであり、客に動きが出ている。	
	変わらない	商店街(代表者)	お客様の様子	・不安定な気候もあるのか、春物への購買意欲はまだ低い。
商店街(代表者)		お客様の様子	・天気の良い日はそれなりの人が戻ってきたが、天気の悪い日は閑散とした雰囲気が流れている。足元の悪いなか、無理してまでも買物をしようという雰囲気ではまだないようだ。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔事務用品〕（役員）	販売量の動き	・4月は何か目標の金額や売上額は達成したため、前年同月と同様、年度末の需要があったと思われる。しかし、内容をみると利益などは無く、厳しい状況が続いている。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・数か月前の上り調子から横ばいになってきている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・特徴的なのは、従来あまり動きのなかった10万円前後の寝具関係の機能性のマットレスといった物の動きが非常にいいが、客の様子をみると、まだ価格から入る買い方が大半であるという気がしている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・春物の動き、婦人服であればパンツ、コート、スーツなどの動きは、前年同月比で100%を超えているのだが、全館的にみると前年同月の6割程度である。客の動向をみても、買い控えをしている客がまだみられる。何か欲しいが、何を買ってよいか分からない客がいる。インナーコーナーでもゴールデンウィーク前は旅行用の衣料が動くが、これも前年同月比7割程度である。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・前月と比べると、今月の消費は買上の点数や単価があまり好転していないのが実情である。実質的には収入が増えなければ、最終的に買物の際に今までとはあまり変わらず、食品への購買も変化はあまり無いように思う。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・4月の気温が低く天候も不安定であったため、衣料品では半袖商品の売行きが悪い。また、ホームセンター部門では園芸関係の商品の動きが遅れている。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・天候不順により、竹の子が不作であったが、それ以外は平年並みである。ただし、酒や菓子といった好品は、買上率及び点数ともに前年同月割れが続いており、生活必需品は特に顕著である。なお、前月同様に、売上や販売量は前年同月並みで推移している。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・新しいカテゴリーとして店での引当工事などが始まったが、それにより来客数の微増はあるものの、客単価の下落が止まっていない。トータルすると、変わらないというのが現状である。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・例年より気温の変化が激しく特に突然の冷え込みが多かったことにより、多少飲料の売上が伸び悩み、予想ほど売上が良くはならなかったという感じである。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・天候による変化は顕著にみられる。雨だと売上、来客数ともに減少し、晴れると増加する。ただ世間で言われているような景気の回復は全く実感できない。最近では天候の良い日が少なく、月間売上が前年同月割れになっている。前年同月は雨でもそれほど来客数が悪くならなかったように感じるため、むしろ下向いていると思えるくらいである。ただ、快晴時の一日の売上高は前年同月を上回っているため、天候次第だと考えたい。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・一部の客の購買意欲は若干上がってきているように感じられるが、全体的にはまだまだ慎重である。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客からは給料が上がっているなどの話を聞くことなどは無く、言われているような景気の良い話はまだ聞こえてこない。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・株高、円安で景気が上向いているという実感はまだ無い。4月上旬にイベントを行ったが、期待したほど来客数は増えず、さらに、終わった後も目立った動きは無い。ゴールデンウィークはまだ始まったばかりであるが、前年同月の実績を維持できれば、良いと考えている。
		家電量販店（管理本部）	お客様の様子	・今までに無かった商品については売上好調であるが、既存商品への興味や引き合いが弱い。
		乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・受注はそれなりに取れているが、安い軽自動車为中心であり、景気が良くなったとは受け取れない。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・県下の新車登録も2割増しで推移し、また、社内の受注も計画比2割増しで進行している。新型車の影響も大きいと思うが、円安や株高などアベノミクスといわれる先行きの景況感が期待されているので、引き続き消費にもより良く影響しているものと思っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
		自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・春需要が前月に前倒しとなりタイヤ購入客が減少したが、全体の来客数は前年同月から大きく減少しており、まだまだ厳しい市場環境である。		
		住関連専門店（店長）	来客数の動き	・消費税率引上げでの新築の客は確かに増えているが、金額的な予算が無い方が多いようである。「家は無理して建てたが、中の物まではまだ買えない」という方が多い。かなり無理をして新築をしているようである。それが景気回復とは思えない。		
		その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・アベノミクスの影響で円安や株高になっており、ニュースでは景気が良くなったとされているが、円安により輸入物が高くなっていることなどにより、当地や当業種が良くなってくるのは1年は掛かるだろうと思っている。		
		その他専門店〔医薬品〕（総務担当）	来客数の動き	・気温が低いため、制汗剤などの夏物商材の動きが鈍いが、カイロの需要が多い。また、健康食品、ダイエット関連食品の落ち込みが大きい。花粉症関連のマスクの動きはいい。		
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・例年よりも桜の開花が早く、散るのも早かったことに加え、週末は雨により稼ぎ時を逃したが、年明けからの個人利用は好調を継続している。ただし、法人利用の低下は一向に変わらない。		
		スナック（経営者）	来客数の動き	・客同士の会話では、「株で儲けた」や「実態は変わらないが世間の空気が良い雰囲気になってきている」と耳にするが、ブティックや美容院経営者は当店ともども決して良くはないと語っている。		
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・インターネットを中心に個人の予約は入るが、休前日や特定の日に集中しており、延べ人数では前年並みか前年を下回っている。		
		タクシー運転手	販売量の動き	・寒い日が続く、花見を始めいろいろなイベントに人があまり出なかった。		
		通信会社（役員）	販売量の動き	・4月は入学や異動などによる転居の多い月であり、それに伴うインターネットの新規契約獲得の伸びる月であるが、増加率はほぼ前年同月並みであり、大きな変化は無い。		
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・円安の影響が分からないが、海外からのインバウンドの客は前年同月比で2倍以上の伸びを示している。一方、国内の一般団体や個人客の動きは前年同月の80%ぐらいで、トータルとしては前年同月よりややいい状況にはあるが、状況としてはどちらともいえない状況である。		
		やや悪くなっている		スーパー（統括）	お客様の様子	・ここ最近、異業種との客の争奪戦になっているという状況にある。ここに来て、大手のドラッグストアが日配品以外の食品も扱うようになってきたなかで、ちょっとした買物については、客がドラッグストアもしくはコンビニエンスストアに簡単に買いに行けることより、スーパーとしては来客数的には厳しい状況となっている。
				衣料品専門店（総括）	お客様の様子	・景気の影響だけではないかもしれないが、来客数が圧倒的に少ない。
競輪場（職員）	販売量の動き			・3か月前と比較し、1日当たりの売上平均が15%落ちている。		
美容室（経営者）	来客数の動き			・今月は半年ぶりに、売上、来客数ともに前年を大きく割り込んでいる。消費者の来店サイクルの変化によるものかどうかまだ分からない。		
悪くなっている		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・来客数は多いが、販売につながらない。原因としては、例年の新商品発表時期が近づいているための買い控え、また3月末までに、学生向け割引と併用してその家族も安くなるキャンペーンを実施しており、既に購入している客が多いと思われる。		
企業動向関連 (北陸)	良く なっている やや良く なっている	—	—	—		
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全般的には円安によるコストアップに加え、受注面では期待感はあるものの今のところ力強さがみえない。しかし、輸出関連では引き合いも増え、一部受注増にもつながっている。		
		繊維工業（経営者）	それ以外	・特に大きな動きは無いが、輸出価格の見積の引き合いが増えている。		
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が増えてきている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・為替相場が円高基調から円安基調にやや回復し、日経平均も上昇基調にある。こういった景況感から景気についてはやや良くなっていると感じている。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者の皆さんの情報を聞くと、少しずつ動きが出てきている。
		税理士（所長）	取引先の様子	・客の方で、小売業関係が日々であるが来客数が増え続けており、割と価格の高い様々な電化製品関係や車関係も動きが活発になってきているようであり、消費の方が徐々に回復していることが実感できる。また、建設業関係は工事が結構入っており、製造業関係も輸出産業を中心とした下請業者の方がかなり業績が伸びてきている感じを客の様子をみていると分かる。
	変わらない	食料品製造業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・平均販売単価は前年同月比若干下がっているが、販売量が上向いており、全体的には前年同月水準で変化は無いという状況である。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・周りの客の声からすると、少し物が動き出したという声は聞かれるが、当社の受注量がほとんど変わらない状況が続いている。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・国内、海外も受注額が前年同月比で同じ状況である。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・国内は比較的好調であるが、海外販売は円安の効果は具体的になるにはまだ時間が掛かることと、海外市況の厳しい状況は変わらずということより、全体では同じような状況がまだ続いている。
		建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・見積入札価格は適正価格の業者が増えているが、一部に依然として低価格で見積入札する業者があり、厳しい価格競争が続いている。
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・景気が上向きといわれているが、物流としての一般消費の製品については動きは良くなっているとは思えず、物量も顕著に増加しているとは思えない。
		輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・現在のところ、以前と比較しても特に変わりがない。
通信業（営業担当）		受注量や販売量の動き	・光回線は他社からの巻き返しにより純減と影響が大きいですが、通信に掛ける設備投資などはやや微増となっている。	
金融業（融資担当）		取引先の様子	・地場生産業者の生産状況については、特に残業するほどの受注量が無い模様であるが、リーマンショックのような頃のひどく落ち込んだ状態でもなく、まずオープンベースといったところである。一方個人消費は、アベノミクスで株価が高くなったとか様々な心情的なプラス要因はあるが、特に耐久消費財についてはまだ上ぶれ材料が見当たらず、衣食住の基本消費財についても同様なことがいえ、まだプラスに判断するには時期尚早と考えられる。	
司法書士	取引先の様子	・個人住宅の新築、マンションの購入は堅調ではあるが、幾分落ち着いた感があり、その他の登記案件が非常に少なかった。		
やや悪くなっている	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・1～3月期は年度末工期の工事の完成に向けて休日出勤で対応した。4月はアベノミクスの財政出動に期待したが、実際の発注量は年度始めということもあり、前年同月と変わらず低調であり、前倒しで3月に発注され受注した工事も設計が確定しておらず着工できず、結局のところ暇な4月であった。	
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・消費力が落ちているためか、あらゆる業種の広告チラシが出稿を抑えている感がある。チラシサイズのダウンが目立ち始めてきて、4月の売上は前年同月比5%以上減収した。	
悪くなっている	—	—	—	
雇用関連	良く なっている	—	—	—
(北陸)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・前月と変わらずIT系の求人の引き合いは増え続けているが、人材不足のためマッチング率が低い。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・1回の発行につき、前年同月と比較して平均で100件程度掲載件数が多い。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人者数は思ったよりも伸びていない感じがあるが、3か月前に比べるとやや増えているという印象がある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・世の中、円安や株価上昇での景気回復の兆しはみられるが、北陸地域ではもう少し掛かりそうある。人材不足ということが身に浸みて感じてこない。状況は従前と変わらない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は宿泊や飲食サービス業、サービス業で増加したものの、製造業や卸小売業では減少しており、全体では前年同月比2.1%の増加となった。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・一部の産業において求人数は増加しているが、製造業では減少しているなど、バラつきがある。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・受注は上向きだが、集まりにくい職種や業務へ、更に細かな採用条件付き即戦力を希望する案件が多い。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人件数は前年同月比で特に変化がみられない。
	やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・4月の求人広告売上は、前年同月比9割前後である。
	悪くなっている	—	—	—

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (近畿)	良くなっている	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・円安に伴う値上がり前の輸入ブランドの駆け込み需要が大きく、春物衣料も好調に推移している。
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	お客様の様子	・富裕層といえるような客や、特に株を持っているような客が、株価上昇益や配当を元に、時計や貴金属を買い求めに来る動きが大幅に増えている。
		観光型旅館（団体役員）	来客数の動き	・昨年10月以降、宿泊人数は増加基調にあるが、消費単価が低迷している。一昨年水準に到達していない。
		都市型ホテル（客室担当）	来客数の動き	・春の行楽シーズンに加え、海外旅行のインターネット予約も増え、予約状況は前年比で105%となっている。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・円安の影響もあるかもしれないが、国内旅行が好調に推移している。特に長距離方面の人气が高い。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・大企業は為替などで良い決算を発表しているところもあるが、個人経営の企業にはまだまだ良い影響が出ていない。ただし、先日催しを開いた際の参加者の様子からは、徐々に上向くのではないかと感触をつかんでいる。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・4月は売上が前年比で2けた増となっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・ここへきて消費のムードが良くなってきている。ただし、商品のチェックは厳しく、良い物をより安く、更に自分に合っている物を探す。自分に合った商品があれば、以前は買上が1点であったが、今は3～4点と買上点数が増加している。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	単価の動き	・客への単価アップの提案がしやすくなっている。全体的に良くなったわけではないが、ゴールデンウィーク前の需要が高まっている。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	それ以外	・少し暖かくなって外出する機会が多くなっており、前年に比べて売上も5%増えている。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	お客様の様子	・客に商品を買う意欲が出てきている。
		一般小売店〔花〕（店長）	来客数の動き	・前年と比べると、来客数が5%ほど伸びている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・株価上昇に伴う資産効果などにより、売上は3か月連続で前年を上回っている。特に、特選衣料雑貨と宝飾品が2けた以上伸びている。
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・今月は天候が不安定で、衣料品が苦戦しており、売上目標は未達成となりそうである。ただし、特選紳士服、紳士用品のなかには動きの良いブランドもあり、高額品を中心に明るい兆しがある。一部ではあるが、客は消費に対し、買い控えから積極的な動きをみせている。		
百貨店（企画担当）	単価の動き	・2月までと比べて、時計、宝飾品、特選ブランドの動きが良くなってきている。またマイナス傾向であった免税売上も、3月は前年比で40%増、4月に入っても2けた増と、増加傾向を続けている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（企画担当）	単価の動き	・先月に続き、特に宝飾、時計、特選ブランド関係といった高額品の売上が好調である。
		百貨店（外商担当）	販売量の動き	・企業の決算発表では業績が上向いているため、消費者の購買意欲が出ているように見受けられる。
		百貨店（店長）	来客数の動き	・客の購買額や店舗の入店客数も増加傾向にあり、売上なども前年を上回っている。
		百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・今月は、婦人特選洋品や宝飾、美術工芸品が好調に推移しているが、大阪駅周辺の大型商業施設のオープンにより、来客数が減少している。
		百貨店（売場マネージャー）	単価の動き	・高額品の動きが大いに出ており、更に二極化の動きもみられる。
		百貨店（売場マネージャー）	単価の動き	・先月に続き、特選関係の価格改定の影響もあり、高額品が動いている。株高の直接的な影響というよりも、富裕層の気持ちの変化が購買意欲を高めている。
		百貨店（服飾品担当）	お客様の様子	・春物商品の動きがやや良くなっている。客の買い方は、じっくりと吟味して買うスタイルではあるが、価値に納得する物は少々高くても購入する人が多くなってきている。
		百貨店（外商担当）	販売量の動き	・今まで好調に推移していた海外ブランド品が、円安により軒並み値上げとなったため、販売の増加に一服感が出ている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・昨年との気温差で衣料品が苦戦しているが、住居関連は好調で、食品も健闘している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・本部から伝えられた買い得品を店内にポップ広告などで表示し、看板も店外に出してアピールをしたところ、来客数が前年比で3%伸びている。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・ファストフードの売行きが相変わらず好調である上に、プレミアム系商品の売上も増えてきており、客単価が上昇傾向となっている。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・昨年の売上とほぼ同じぐらいなので、景気は非常に悪いわけではない。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	単価の動き	・少しではあるが、高額スーツの注文がある。
		家電量販店（経営者）	お客様の様子	・5月からの電気料金値上げを控え、節電型で高付加価値の白物家電の動きが良い。
		家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・最近では来客数が多くなり、特に生活家電品の購入が増えてきている。
		乗用車販売店（販売担当）	来客数の動き	・来場者数は比較的多いものの、日によって波がある。商談数もまずまずであるが、契約には至らない。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・オフィス街では新規客が増え、繁華街ではシーズンに入り観光客が増えているなど、来客数が増加している。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・3、4月と、直近の来客数が前年を上回っており、客単価も2%程度伸びている。
		一般レストラン（経理担当）	来客数の動き	・新政権による経済対策の効果が少しずつ出てきている。車にはタクシーなどの事業者ナンバーが目立つようになってきているほか、人が飲食街に少しずつ出てくるようになっており、客が増えている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・新規の客がいるわけではないが、少し常連客が戻ってきて、2～3か月前よりは安定している。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・4月に入って、3月ほどの勢いはないものの、個人客の動きは引き続き好調である。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・予約が好調である。料理の追加注文も入るようになってきている。
		都市型ホテル（支配人）	お客様の様子	・アベノミクスの影響か、確かに購買意欲は町全体に広がっているように見受けられる。会議のみの利用から、今月は宴会の予約も入るようになり、景気が上向きになっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・各部門（宿泊、宴会、食堂）共に、微増ではあるが前年を上回っている。単価はまだまだ上がりきっていないが、人が動いている実感がある。特に、春休みの観光客による宿泊（個人）は、高単価の客室でも需要が伸びている。
		都市型ホテル（総務担当）	来客数の動き	・宴会の開催件数やレストランの来客数が前年を上回っている。ただし、宴会の1件当たりの単価、レストランの客1人当たりの単価は、依然として回復していない。
		旅行代理店（従業員）	単価の動き	・街角景気の改善が、円安、株高の勢いに乗って实体经济に反映されている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		タクシー運転手	お客様の様子	・大手企業のハイヤー予約が増加傾向にあるほか、一般客の乗車機会の増加により、日々のノルマを今までのように苦勞することなく達成できるようになっている。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・円安効果、株価上昇などで、心理的に良くなっている感がある。
		通信会社（企画担当）	それ以外	・来客数や売上の増加にはつながっていないが、株価上昇などによる経済への好影響を肌で感じる。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・新発売した商品は、高付加価値で少々割高な価格設定であるが、思いのほか売れている。
		競艇場（職員）	単価の動き	・3か月前と比べて、購買単価が若干上昇している。
		住宅販売会社（経営者）	競争相手の様子	・当社では実感はないが、同業他社との情報交換では、売買の成立件数や単価が上がっているとの報告をよく耳にする。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・消費税の増税前の駆け込み需要が始まりつつある。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	来客数の動き	・住宅展示場への来場者数が増加し、早い時期での建築希望も増えている。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	お客様の様子	・新築マンションの販売現場では、来場者数が増加傾向にあり、販売のスピードも上がっている。計画よりも早く売れる現場が増加している。
		変わらない	一般小売店〔時計〕（経営者）	販売量の動き
	一般小売店〔事務用品〕（経営者）		販売量の動き	・春の商戦では、商品の動きは悪くない。
	一般小売店〔精肉〕（管理担当）		販売量の動き	・株価の高騰などで雰囲気は確かに良くなっていると感じるが、具体的に身近で動きが良くなっている物は見当たらない。テレビや新聞で百貨店の高級商材が例年より動いていると報じているが、高級牛肉は動いていない。逆に円安による悪影響などが懸念される。
	一般小売店〔衣服〕（経営者）		販売量の動き	・販売量は以前と変わらないが、次につながる買客客が増えてきているような気がする。
	一般小売店〔野菜〕（店長）		競争相手の様子	・近くのスーパーが閉店するなど、アベノミクスの恩恵はまだ出てきていない。
	百貨店（売場主任）		来客数の動き	・3月はまずまずの入店で、ほぼ前年を超えていたが、4月はマイナス2%と厳しい。大阪の梅田地区が活況を呈しているため、影響を受けている。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・まだまだ国内の需要は安定していない。円安の進行などで先行きにも不安がある。
百貨店（売場主任）		販売量の動き	・桜が例年よりも早く咲いたことで、3月は来客数が増えて売上も伸びたが、4月に入り不安定な気温や大きな地震、強烈な風雨の影響で売上が安定していない。アベノミクス効果で消費者マインドが上がってくると期待していたが、今月は足踏み状態である。	
百貨店（営業担当）		競争相手の様子	・梅田地区が目ざされ、マスコミにも取り上げられた今月中旬以降、富裕層の買上も含め、店頭売上が減少している。一方、優良固定客に対する店外催しは好調である。	
百貨店（営業担当）		販売量の動き	・天候が不安定で衣料品の動きが悪く、郊外店では高額品の動きも活発ではない。一方、来客数は前年を上回ってきている。	
百貨店（販促担当）		単価の動き	・先月は来客数、購買客数共に増加基調であったが、今月に入って客単価が低下している。衣料品では繊維物の動きが鈍く、単価に影響が出ている。高額品の商談は多くなっているものの、足元の消費については慎重な購買行動が続いている。	
百貨店（商品担当）		販売量の動き	・高額品やファッション関連商品の好調が伝えられているが、他の商品群がすべて好調というわけではなく、店全体や市場全体が活況とはいえない。	
	スーパー（経営者）	単価の動き	・今月も最初の1週間ぐらいはそこそこの単価で動いていたが、10日過ぎぐらいから客単価が2割近く下がっている。雨が多かったこともあり、非常に単価が低い。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	単価の動き	・依然として販売価格に対する客の見方は、非常にシビアで細かい。高単価商材が好調なのは百貨店や専門店の一部で、円安、株高の実態がみえない以上、我々の業態では景気が良くなるとは思えない。梅田地区や神戸でオープンした大型商業施設も相当の人出ではあるが、飲食のプチゼいたく関連のほか、低価格業態の物販以外は厳しい売行きとなっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・4月は早い時期に気温が上がったが、衣料品が動きそうところで気温が下がり、天候も不安定になったため、思うように販売ができていない。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・前月までは好調であった衣料品がここへきて足踏み状態で、現状維持となっている。食料品や消耗品でも、単価は維持できているものの、販売量が伸びてこないのが現状である。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・気温の動向が不安定で、花見が早まったり、春夏物の衣料品が売れないなど、本来売れるべき時に売れないケースがみられる。このため、売上の伸び悩み感がある。
		スーパー（広報担当）	販売量の動き	・今月に入ると気温があまり上がらず、季節品の動きが鈍くなっている。一方で、円安などの影響で値上げ報道が続いた油や小麦粉、トイレットペーパーなどでは、値上がり前に買い置きをする動きがみられるなど、生活防衛意識は強い。
		スーパー（管理担当）	販売量の動き	・購買点数の伸びが一向にみられない。
		スーパー（企画）	単価の動き	・来客数は回復しているものの、客単価の下落傾向は続いている。
		スーパー（販売担当）	単価の動き	・競合相手との価格競争などで、基本的な商品やナショナルブランドなどが価格を競う状況にある。単価自体が下がっていて、客のトータルでの販売量は昨年を上回っているが、合計の売上金額は昨年の水準に達していない。
		スーパー（社員）	来客数の動き	・商品価格の低下は一段落しており、客の低価格志向も昨年に比べて小さくなっている。味が良くて価値のある商品の売上は好調である。ただし、天候の良くない日や、イベントの少ない日を中心に、客の来店はやや少ないと感じられる。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・近隣への競合店の出店以来、売上は減少傾向にあり、非常に苦しい状態である。
		コンビニ（広告担当）	来客数の動き	・まだアベノミクスの影響は末端の消費者まで出ていない。下半期ぐらいから出てくることを期待しているが、逆に公共料金などの値上げが悪い影響となる。
		衣料品専門店（販売担当）	お客様の様子	・客の様子では、買い控えが少なくなっている。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・外車販売業界では、平均して来客数が増えているため、良くなっている。
		乗用車販売店（営業企画）	単価の動き	・1～3月は利益率が高水準であったが、4月に入って下がってきている。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・円安ドル高や株価の上昇により、客の反応は非常に良いが、販売量はまだまだ変化しておらず、今からが正念場である。
		住関連専門店（店長）	販売量の動き	・昨年に比べると、客には更に1点の追加購入をしてもらえるようになったが、まとめ買いには至らないのは、数か月前と変わらない。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・寒暖の差が大きく、安定しない日が多かったせいか、先月と比べて買上点数が1点程度増え、売上増につながっている。特に、風邪薬や花粉症関連の販売が増えている。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	販売量の動き	・販売量は前年と変わらない。
		その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	販売量の動き	・消費材の価格が徐々に値上がりつつあるなか、給与アップの話は進んでいない。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	単価の動き	・高価格帯の商品の動きが、低価格帯よりも少ない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他小売〔インターネット通販〕(企画担当)	お客様の様子	・売れ筋商品は限られ、売上点数の増加にはなかなか結びつかない。
		高級レストラン(店長)	お客様の様子	・アベノミクスといっても、この辺りでは変わらない。反対に悪くなっている気がする。
		高級レストラン(スタッフ)	来客数の動き	・ここ数か月は良い水準を保っているという意味では、変わらない。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・桜の咲いている時期は来客数も増えたが、桜が散ってからは近くの商店街も人通りが少なくなり、4月の売上としては今までで一番悪い。値上げなどにより消費者の財布のひもは固く、客層はますます二極化が進んでいる。
		一般レストラン(店員)	来客数の動き	・先月とほぼ状況は変わらず、新規アイテムが少ない。
		その他飲食〔コーヒーショップ〕(店長)	来客数の動き	・新聞紙面などでは収益改善の記事をよくみるが、単価の低い喫茶にもかかわらず、来客数の伸びは全くみられない。一般消費者に恩恵が出てくるのはまだ先と感じる。
		観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・桜の開花が例年より1週間早く、行楽や花見客も3月末に多くみられた。その分4月前半は来客数が低迷したが、ゴールデンウィーク前半の3日間は前年並みの利用があった。来客数は落ちているが、客単価は数か月前から横ばいとなっている。
		都市型ホテル(マネージャー)	来客数の動き	・客室部門は、海外からの観光客などがここ数か月は堅調に推移しており、前年の稼働率も上回っている。食堂部門も、おおむね前年を上回っており好調であるが、宴会部門が前年を割り込むなど苦戦が続いており、全体ではほぼ前年並みであるため、景気が良くっていると判断できない。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・急激な円安による割高感や北朝鮮関連での緊張の高まりで、回復しかけていた韓国向けの予約がストップしている。中国向けもビジネス客以外はほぼゼロであり、他方面は伸びているが、海外旅行は全体でほぼ前年並みである。国内旅行は前年を若干上回っているが、力強さはない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・週の前半は人通りが少ないが、後半になれば人出が増えるようで、特に金曜日は今までよりも人出がみられる。
		タクシー運転手	お客様の様子	・世間では景気が良くなっていると聞かすが、京都では極端な変化はない。
		タクシー運転手	競争相手の様子	・企業によるタクシーの需要が少ない。
		通信会社(社員)	販売量の動き	・通信会社からの新製品の発表はまだであるにもかかわらず、春夏モデルの買い控えも始まり、集客が伸びず販売も落ちている。
		通信会社(企画担当)	お客様の様子	・好転する顕著な動きはみられない。
		パチンコ店(店員)	お客様の様子	・滞在時間が短い客が多い。
		その他レジャー施設〔イベントホール〕(職員)	お客様の様子	・イベント数はほぼ変わらず、レストラン、売店などの売上もほぼ前年並みの売上で推移している。全体的には変化がないといってもよい。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕(企画担当)	来客数の動き	・季節要因や天候要因を除いても、インバウンド客を中心に集客が戻りつつある。アウトドアのレジャーに対する緩やかな需要の回帰も感じられる。
		美容室(店長)	来客数の動き	・新しい客がなかなか増えず、スタッフを募集しても集まらないなど、厳しい状況が続いている。
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕(エリア担当)	販売量の動き	・全国平均ではレンタル、書籍販売などが前年を上回る勢いであるが、関西地区では、特にレンタルで低価格競争による苦戦がまだまだ続いている。
		住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・新政権発足後、円安、株高傾向が継続しているものの、各企業が積極的な経済活動を行うようになっていくわけでもなく、特段の変化はない。
		住宅販売会社(総務担当)	販売量の動き	・当社の中部以東では契約が前年比で増えているが、関西においては数字には顕著に表れていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	それ以外	・不動産市場の動きはあまり変わらない。
	やや悪くなっている	一般小売店〔珈琲〕（経営者）	それ以外	・仕入単価の上昇、原料の海外相場の高止まりや、円安が打撃となっている。
		一般小売店〔菓子〕（経営企画担当）	販売量の動き	・本年4月現在と1月の売上前年比を、各地区別に上位5店舗の平均でみると、関西は4月が84.1%で、1月が94.4%、関東は4月が85.3%で、1月が101.0%、中部は4月が72.3%で、1月が95.9%、中国は4月が86.1%で、1月が106.8%となり、各地区合計は4月が81.8%で、1月が97.7%である。今年に入っても低迷が続いているが、4月は特に全国的に悪く、依然として悪い状態が続いている。今後回復傾向に転じることはもちろん、前年並みに回復することさえ難しいように思われる。
		一般小売店〔食料品〕（管理担当）	販売量の動き	・注文が入って忙しいが、薄利多売で利益が出ない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・特に食料品の苦戦傾向が続いている。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・来客数が既存店ベースで前年比96%の推移であり、下げ止まり感がない。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・気温の寒暖の差が激しく、日によって売れる商品が一変するために、仕入れが読みにくいほか、一気に気温が下がると客の動きも悪くなる。
		旅行代理店（広報担当）	お客様の様子	・ゴールデンウィークの旅行の申込に関して、通常であれば3月よりも間際になって伸びてくるが、今年は日並びの影響もあり、悪くなってきている。客も、今年は平日を3日間含んでいるので、夏に旅行する機会をねらっていることもあり、現状は伸びていない。
	悪くなっている	競輪場（職員）	単価の動き	・今月の客単価は9,150円と、3か月前の10,282円から下がっている。
企業動向関連	良く なっている	金属製品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・自動車関連の発注の内示では、4月以降は2割ほど落ち込むとの話であったが、実際の出荷は非常に順調である。
(近畿)	やや良くなっている	食料品製造業（営業担当）	取引先の様子	・得意先からの受注量が3か月前と比べて増えている。小売での平均客単価が少し高くなったと聞いている。
		出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	受注量や販売量の動き	・住宅業界は長い低迷から脱しつつある。マンション部門も注文住宅部門も、販促活動が活発になって販促物の導入に力を入れているが、消費税増税による一時的な傾向でないことを願っている。また、高齢化社会に対応し、企業内でも社員に対する資格取得のための通信教育が導入され、そのための資料作成が増えている。
		化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・先月に続き、注文は順調に入っているなど、ここへきて売上の前年比がようやく良くなっている。
		化学工業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・海外への自動車部品向け製品の販売量が、前年比で約20%増加している。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・アベノミクスで活況のように思われる記事が多いが、実感としては家計関連では効果が早く出ているが、企業関連にはそこまで及んでいない。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・株高、低金利を背景に、戸建住宅やマンションが販売好調であるため、住宅用の受注が増えているほか、省エネ型照明器具への取替受注も好調が続いている。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	受注量や販売量の動き	・商品の荷動きがやや活発になっている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・最近、仕事の量が少し増えている。
		通信業（管理担当）	それ以外	・市場価格が少し上がっている。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先からの受注依頼が増加している。まだまだ受注単価は高くないが、増加傾向にある。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	受注価格や販売価格の動き	・個人投資家が激増している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		不動産業（営業担当）	取引先の様子	・3か月前と比べて、マンション用地や賃貸の収益物件を探しているなどの問い合わせが増えている。ただし、実際の賃料は下がっているため、実体経済が上向いているとは思えない。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・購読数は伸びていないが、折込収入が上向いている。
		広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・梅田地区や神戸で商業施設の開業が続き、飲食関連ではにぎわいが出てきている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・業種を問わず、広告掲載を検討する企業が増えてきている。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・季節変動の要因も7割ほど入っているが、アベノミクスの経済効果もあり、やや上向きとなっている。
		コピーサービス業（店長）	受注量や販売量の動き	・駅周辺の商業施設オープンに伴い、各入居テナントの利用が多くみられ、受注量などの増加が感じられる。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・今春の傾向としては、日ごとの気温差や朝晩の寒暖の差が激しいため、いまだにわずかではあるがカイロや温感ソックスなどが売れており、春物商材に加えて冬物商材の売上が若干加わる形になっている。
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	取引先の様子	・取引先のチェーンストアでも、一般的に景気回復に乗り遅れまいという雰囲気があり、商品の新規投入要請が増えている。
		その他非製造業〔民間放送〕（従業員）	取引先の様子	・株価上昇による景気浮揚感を強く感じる。
	変わらない	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・連休前で少しは荷動きがあるが、今一つといった状況である。既存品の売上が良くなく、新製品で少しカバーしている。連休に向けて出費がかさむのか、一般的な調味料は売上が伸びていない。
		食料品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィーク前でも受注量があまり伸びていない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車関係の好況は期待できるが、電気関係の低迷があるため、一増一減で現状維持である。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・アベノミクスということでムードは良くなっているが、受注量や販売量は減少気味である。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・アベノミクスにより市場は明るい方向に向かっているが、荷動きが増加するまでにはまだ時間がかかる。
		金属製品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・太陽光発電関連が好調であるが、購入時の政府からの補助金が6月までは出ない空白の時期となるので、販売量は落ちてきている。ただし、6月からはこれまで以上に販売量が増える見込みである。一方、依然として建築、土木関連は低調である。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先の投資計画が活発で、試験的な設備投資が先行しており、小規模であるが順調に受注している。
		一般機械器具製造業（設計担当）	受注量や販売量の動き	・当業種に限った動きかもしれないが、当社は受注が増加していない。
		電気機械器具製造業（経営者）	それ以外	・春の訪れや円安の影響で世間の気分は明るくなっているが、企業間の取引自体は急に変わらない。ただし、円安で見積価格を下げられるため、商談は進みやすくなっている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・売上は横ばいで、受注は少し減少している。
	輸送用機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・国内での引き合いはアベノミクスの影響で増加傾向にあるものの、受注までには至っていない。	
	その他製造業〔事務用品〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・売上に変化がない。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・太陽光発電では、固定価格買取制度の買取単価が下がったこともあり、4月に入って受注や問い合わせが一段落している。	
	建設業（経営者）	取引先の様子	・職種によっては技能労働者不足や建設資材の高騰の動きが出てきている。厳しい価格競争で板ばさみ状況である。	
	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注金額、単価共に低調なままである。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・売上が低迷したままである。
		輸送業（営業所長）	受注量や販売量の動き	・今年の4月は事務機器の搬入があるなど、3月の好調が持続している。
		その他サービス [自動車修理] (経営者)	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィーク前であるが、慌ただしき動きもなく暇である。
		その他非製造業 [機械器具卸] (経営者)	競争相手の様子	・円安と株高で景気が良くなるといわれているが、実態は全く変化がない。
	やや悪くなっている	繊維工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上は前年比で20%ダウンしている。高額商品が売れているといわれているが、元々取引量が少なく、売上を押し上げるまでには至らない。一方、買い控えが一段と厳しくなっている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・円安の影響が食品関連の業界に出てきている。価格改定交渉を始めているようで、積極的な増産傾向がみられない。輸出が多い企業は業績が良くなったようであるが、現状は荷物量の増加まではみられない場合が多い。
		電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・最近の報道にあるような好景気の雰囲気は業界にはない。
		輸送業（商品管理担当）	受注量や販売量の動き	・販売量が横ばいになってきている。母の日、父の日のイベントで良くなると期待している。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・年度始めで、広告出稿の様子をみている企業が多い。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・クライアントの食品スーパーでは、売上が若干増加し、前年を上回る状況になっている。
悪くなっている	繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・受注状況は、例年と比較しても非常に悪い。	
雇用関連 (近畿)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・4月の当初は年度末の忙しさを引きずっていたが、中旬以降は落ちてきている。これは各分野にいえることで、今の時期は円安、株高の材料も出尽くしたため、このまま推移していく。
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・3か月前と比べるとやや良くなっているが、この1か月でみると少し求人数が減っている。特に、物流業は繁忙期であるが、例年ほどではないなど、物の動きが鈍化している傾向がある。
		人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・前々月、前月に引き続き、全体の求人数は着実に増えてきており、紹介予定案件も増加傾向にある。
		人材派遣会社（営業担当）	それ以外	・株高が好感されて、個人の高額消費が好調といったニュースを聞くと、アベノミクス効果を実感する。
		新聞社 [求人広告]（担当者）	それ以外	・梅田地区での大型商業施設の開業が大きく、心理的にもプラスに働いている。
		新聞社 [求人広告]（管理担当）	求人数の動き	・引き続き求人広告は安定的に出稿があり、景気は上向いている。ただし、本格的な回復との認識はない。
		職業安定所（職員）	それ以外	・新規求人数が若干増加している。
		民間職業紹介機関（大学担当）	採用者数の動き	・14年3月卒の大学生の採用活動が始まり、内々定者が出てきている。前年よりも感触は良さそうで、景気回復の後押しを受けている。
		学校 [大学]（就職担当）	採用者数の動き	・医療系であるからかもしれないが、採用状況は上向きで推移している。求職者は就職の内定を100%獲得できている。
		学校 [大学]（就職担当）	求人数の動き	・昨年は求人社数が前年比で増加したが、今年は更に増加している。
	変わらない	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・アベノミクスも失速したのか、新年度という時期的な要因かもしれないが、大きな動きがない。
		アウトソーシング企業（社員）	雇用形態の様子	・人手不足であるにもかかわらず、求人募集を出して人手を増やそうとしない。
		求人情報誌製作会社（企画担当）	求人数の動き	・梅田地区の大型商業施設関連の採用が一段落すると、梅田地区も心斎橋地区も採用の動きは大きく動かない。商業施設での新規案件以外は低調な状態が続く。
		新聞社 [求人広告]（営業担当）	求人数の動き	・新聞の求人広告量でいえば、4月になっても明らかな上向き傾向はみられない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	周辺企業の様子	・新聞の求人広告に大きな変化はないが、市場全体の求人は梅田地区や阿倍野地区での新施設の開業などで動いている。今後は成長産業での求人にも期待している。
		職業安定所（職員）	採用者数の動き	・新規求人数は14か月連続で前年を上回ったが、その伸びは微増にとどまっている。また、運輸業、建設業、人材派遣業は増加に転じたが、製造業は減少が続いている。ただし、新規求職者数が引き続き減少傾向にあることに加え、企業の採用意欲がやや高まっているのか、採用者数、充足数共に久しぶりの増加となっており、現状の景気はやや良いという感触がある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数の動きについては、医療・福祉、建設業、宿泊・飲食サービス業からの求人は増加しているが、製造業からの求人は減少している。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・建設日雇い求人数は、この時期は年度の端境期のため判断が難しい。例年は大幅に減少するが、今年は減り方がそれほどひどくはなく、昨年ごろからの求人の増加傾向は維持している。
		学校〔大学〕（就職担当）	それ以外	・前年同時期と比較して、内々定の状況はあまり変わらない。
	やや悪くなっている	—	—	—
悪くなっている	—	—	—	

8. 中国（地域別調査機関：公益社団法人中国地方総合研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (中国)	良くなっている	乗用車販売店（店長）	競争相手の様子	・新規で商談する客のほとんどが他店を数軒回って来店している。競争が今まで以上に激しいが、商談数は増えている。
		その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（支配人）	来客数の動き	・自家用車、観光バスでの来店が、ともに増えている状況で、単価の高いメニューの注文が増えている。節約傾向は減っている。
		観光型ホテル（支配人）	販売量の動き	・3月に引き続き4月も、売上は前年比で10%以上、増加している。宿泊客の増加が主要因ではあるが、宴会の件数も増えており、景気回復の手ごたえが感じられる。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・株高等による景気回復への動きが消費者の購買意欲を高めている。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	お客様の様子	・年度初めの人事異動、就職、入学に関わる注文に加え、一般客も増加している。
		一般小売店〔紙類〕（経営者）	来客数の動き	・観光客など、若い世代の買いまわり客が増えている。
		百貨店（販売担当）	単価の動き	・貴金属を始めとした高額品の動きが非常に活発になっている。客数はほぼ前年ベースであるが、単価が若干上がった事により、売上増加に繋がった。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数は依然減少傾向であるが、1人当たりの買上点数は前年比で若干改善している。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・前年比で客数が増加しているが、衣料や住居商品は横ばいである。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・先月から客単価が上昇しており、客数も増加している。
		スーパー（販売担当）	販売量の動き	・前年同時期及び3か月前と比較して、客1人当たりの買上点数が増えている。この傾向は食料品、消耗品といった低単価のものに多く見られる。
		コンビニ（地域ブロック長）	単価の動き	・客数の動きと比較すると、客単価は回復傾向にある。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・円安の影響で輸入商品が高くなっている。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客の購買意欲が少し高まっている。		
乗用車販売店（副店長）	それ以外	・各社の2013年3月期の決算が発表され、軒並み輸出型企業は円安の恩恵を受けて収益向上となっている。		
自動車備品販売店（経営者）	お客様の様子	・売上は前年より悪いが、周囲は悲壮感のないムードなので、景気が良いのか、悪いのか判断に苦しみ。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 〔和菓子〕（経営者）	販売量の動き	・ひろしま菓子博で県外からの観光客が増加している。
		その他小売 〔ショッピングセンター〕（支配人）	来客数の動き	・物販購入での消費意欲はまだ乏しいが、一日中滞在できる時間消費型施設への高い関心は感じられる。気温上昇に伴って外出機会が増え、イベント等への反応は良い。
		その他小売 〔ショッピングセンター〕（運営担当）	来客数の動き	・平日・休日を問わず来客数が伸びており、施設全体の売上は前年を大幅に上回った。特に飲食ゾーンについては全店舗が前年同月超えとなり、ここ数か月間、景況感の回復が続いている。
		一般レストラン （経営者）	お客様の様子	・春休みくらいから客の消費意欲が出てきた。客単価は随分長く低下し続けていたが、上昇している。客数・買上率ともに少し上向きになっている。
		一般レストラン （エリア担当）	来客数の動き	・ひろしま菓子博の影響で予想以上に来客数が増えており、広島市内のにぎわいも感じる。
		一般レストラン （外食事業担当）	来客数の動き	・宴会を中心として、客数も件数も増えている。
		都市型ホテル （スタッフ）	単価の動き	・宿泊の客単価が前年と比べ230円上がっており、稼働率も好調で、当分この傾向は続く。
		都市型ホテル （企画担当）	お客様の様子	・震災の影響から回復基調にあり、海外からの宿泊者数が前年より増加している。
		タクシー運転手	販売量の動き	・客単価は安い、利用者は増加している。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・新年度になり、新サービス、商材に耳を傾ける客の割合が増えてきている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・人口減少や高齢化、地域間格差拡大等の社会経済的な環境変化、インターネットやスマートフォンの急成長を始めとするライフスタイルの変化等といったなかで新規契約は厳しい状況であるが、ここ数か月は解約件数が大幅に減少している。
		テーマパーク （業務担当）	来客数の動き	・週末に天気の悪い日もあったが、花修景及びイベント等の報道告知の効果もあり、平日の利用者が増え、前年に比べて入園者が増加した。
		ゴルフ場（営業担当）	お客様の様子	・消費の拡大とまではいかないが、レストランでの単価が少し上向きになってきた。今後プレー単価も少しずつ高くなるよう期待する。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・問い合わせ及び来場数が増えており、客の購入意欲が上がっている。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・住宅リフォームで耐震改修への意識が高まってきている。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・特に30代前半の若い夫妻から、消費税増税前に住宅を購入したいという引き合いが増えている。
		住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き	・客の動きもあり、受注量も順調に伸びてきている。
		住宅販売会社 （営業担当）	お客様の様子	・物件が動く時期ではあるが、例年に比べて客の反応が良く、問い合わせ件数も多い。
		住宅販売会社 （販売担当）	お客様の様子	・消費税増税を意識した客の声を聞くようになり、購入意欲が高まっているように感じられる。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街の環境整備が終了して通行量は増加しているが、各店舗の来客数増加には至っていない。
		商店街（理事）	お客様の様子	・景気回復の報道があるが、地方ではそうでもない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街の人通りは前よりも増えた感じがするが、来客数はあまり変わらない。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・アベノミクスが騒がれているものの、当地域ではまだ実感がない。
		一般小売店 〔靴〕（経営者）	販売量の動き	・株式投資者や不動産所有者を除くと、消費者に変化はなく、買物に対する姿勢は厳しいままである。
		一般小売店〔酒店〕 （経営者）	来客数の動き	・景気が上向いているように報道されているが、地元には景気回復ムードはない。良くもなく悪くもないといった状況で、客のマインドが上がった印象もない。得意先の飲食店の状況も前年並みである。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・4月に入り寒くなったので春物の売行きが悪く、前年同月の90%程度の売上で、2～3月の上向きの流れが止まっている。前年同月売上の100%を超えている店舗は約25%しかなく、今後が心配である。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・来客数が伸び、売上にも勢いがあるが、客は必要なものを必要な時にしか買わない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・4月に入って寒暖の差が激しく、主力のファッション部門の低迷が続く。ヤング向けの商況が厳しくなっている。先般全面開通した高速自動車道による京阪神地区へのアクセス向上と新しい商業施設の魅力が重なり、域外での購入が増加している。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・4月に入り好調に推移していた春物の動きが止まり、前年と比べて後半はUV関連の商品がやや苦戦した。高額時計など好調な商品もあるが、店全体では前年をやや下回る見込みである。
		百貨店（購買担当）	お客様の様子	・円安効果で輸入宝飾が値上がりするという情報があり、駆け込み需要で高額商品の動きが良い。衣料品関係では客が必要なものしか買わない様子に変化はなく、紳士服や婦人服の状況は厳しい。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・ここ1年、好調に推移しているが、今月は前半の低温もあってアパレル中心に苦戦を強いられた。下旬に気温が上昇して、少し持ち直し傾向にある。
		百貨店（営業推進担当）	来客数の動き	・なかなか客数が増えず、全体の売上が伸びない。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・客単価に変化はない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・客単価は3か月前より1～2%伸びているが、来客数は前年の97.5%という状況である。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・異業種間での競争が激化している。
		スーパー（業務開発担当）	単価の動き	・来客数に変化はない。食用油、小麦粉関連商品、紙製品の値上げにもかかわらず客単価は上がらない。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の下げ止まりは感じるが、増加には転じていない。
		コンビニ（副地域ブロック長）	販売量の動き	・売上及び来客数の改善がみられない。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	来客数の動き	・4月に入り来客数は横ばい状態であり、景気が上向きの感じはあるが、実際の購買に結び付いていない。
		家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・販売単価は変わらないものの、来客数が増えないため売上につながらない。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・前年はエコカー補助金があり、販売量が少し伸びたが、今年は補助金がなく、前年の約90%と厳しい状況が続いている。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・気候が良くなり、客の気持ちは明るくなって商品に対する関心が強くなっているが、財布のひもは固い。
		その他専門店〔海産物〕（経営者）	来客数の動き	・鳥取自動車道、松江自動車道が開通し、特に出雲市は観光客が増加したが、我々のところではまだ実感がない。5月の連休に期待したい。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・月半ば以降の来客数が減少している。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・人の動きに偏りがある。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・3か月前の新年会の需要があった1月と比較すると、今月のほうが悪く感じるが、例年並みである。
		都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・人の流れがやや活発になっているようで、レストランの入客数なども増加傾向にある。ただ宴会などの団体物件については動きが鈍く、好景気を反映しているとは思えない。ゴールデンウィークでの観光客に期待している。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・旅行業界において、客に好景気な様子もなく、アベミクスの効果は現れていない。
		タクシー運転手	販売量の動き	・夜の客数が増えていない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・入学、就職で人の動きはあるが、ここ数年で一番悪い。
		タクシー運転手	来客数の動き	・タクシーを利用する客の数が少しずつ減っている。
		通信会社（広報担当）	単価の動き	・少し物価は上がっているが、賃金は上がらないので、景気は上向きとは言えない。
		テーマパーク（管理担当）	来客数の動き	・前年比で来館者数に大きな変動はない。
		競艇場（職員）	販売量の動き	・売上、来場者数ともに横ばいで推移している。
		美容室（経営者）	競争相手の様子	・景気に変化はない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス 〔介護サービス〕 (介護サービス担当)	お客様の様子	・客との話のなかで、景気の変化がうかがえるような話は全く聞かれず、これまでと変わらない生活を日々送っている。
		設計事務所(経営者)	お客様の様子	・購買意欲及び消費意欲にさほど変化は見られない。
	やや悪くなっている	商店街(代表者)	単価の動き	・良いものを安くすれば売れるが、客はまだデフレ感覚を持っており、商品を選択するハードルは高い。消費税増税も視野に入っている。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・数km先に大型店舗の開店があり、客を奪われている。
		一般小売店〔茶〕(経営者)	販売量の動き	・アベノミクスで景気持ち直しのニュースが流れる割には、弊社の業績は前年を割り込んでいる。外食産業も大変苦戦していると聞く。
		一般小売店〔酒店〕(経営者)	販売量の動き	・気分的に明るい感じがあったものの、実際の販売量の動きに変化はない。ゴールデンウィーク前で客は財布のひもを締めているのか、先月の反動か、若干悪くなっている。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・気温が上がらず春物の動きが鈍く、全体的に苦戦傾向が継続している。
		百貨店(売場担当)	販売量の動き	・美術品や宝石類、ハンドバッグなどは売れているが、前年の売上には届いていない。
		スーパー(販売担当)	来客数の動き	・前年同月と比較すると来客数が減少している。
		コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・先月、先々月と、来客数は前年を4%上回ったが、今月は売上、来客数ともに前年並みに戻ってしまった。
		家電量販店(店長)	販売量の動き	・目玉商品がないため、爆発的な販売とはならない。
		家電量販店(販売担当)	お客様の様子	・新生活需要の時期も終わり、閑散期に入った。
		乗用車販売店(総務担当)	来客数の動き	・3か月前の成績が著しく好調であった反動で、今月は芳しくない。
		自動車備品販売店(経営者)	販売量の動き	・市内にある大手家電メーカーで大規模リストラがあり、個人消費の落ち込みが見える。
		その他専門店〔時計〕(経営者)	単価の動き	・都市部は株高等で景況が上向いているらしいが、当地では将来を考えてか消費が全く伸びず、前より景気が悪化している。
	その他専門店〔ファッション雑貨〕(従業員)	単価の動き	・来客数は横ばい状態で、買上点数、購入単価も低迷している。	
	テーマパーク(営業担当)	来客数の動き	・昨年の鳥取自動車道、今年の松江自動車道といった無料の高速道路開通の影響で、有料である米子自動車道を通る車が減っている。米子自動車道沿線の同業者も同じように落ち込んでいるが、松江自動車道周辺にはぎわっている。	
	その他レジャー施設(アミューズメント)	単価の動き	・春休みが終了してファミリー客の来店が落ち着き、景品ゲームへの参加が少なくなっている。客数は前年を上回り続けているが、売上が追い付いていない状況である。	
	美容室(経営者)	販売量の動き	・商品の販売量に全く動きがないほど悪かった。	
	悪くなっている	スーパー(店長)	来客数の動き	・スーパーやコンビニなどと狭い商圏で集客合戦をずするため、客数が減少している。特に一般食品、食用油、珈琲、インスタントラーメンなどの動きが非常に悪い状況である。
スーパー(財務担当)		販売量の動き	・好天の日やイベントのときは買上点数、単価ともに伸びるものの、平常時は節約により下落している。	
企業動向関連 (中国)	良くなっている	非鉄金属製造業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・現在、フル生産の状況であり、現場からは人が足りないとの声も出始めている。
		輸送用機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・新車種が立ち上がり、大変忙しい状況である。
		建設業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・引き合いがあっても年内の工事は対応できない可能性があり、辞退せざるをえない状況である。専門業者や資材の手配、コスト高が予想され、喜んでいられない状況である。
	やや良くなっている	化学工業(経営者)	取引先の様子	・取引先との受注見通しのヒアリングのなかで、自動車向けの用途がやや回復基調にある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・大型の工事案件はないが、ゴールデンウィーク対応もあって生産水準はやや高くなっている。二次加工品の受注が堅調で、この部門は多忙である。
		金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・得意先が今後の需要増加を想定し、在庫を持つため、今月は受注量が前月比で30%増える見込みである。
		電気機械器具製造業（総務担当）	それ以外	・震災復興需要を背景に鉄鋼業が堅調な反面、材料不足・材料高になり、仕入れ価格に影響してくる気配がある。引き続き商談件数は増加傾向にあり、景気上向き傾向と判断している。
		輸送業（業務担当）	受注量や販売量の動き	・アジア向けの輸出が回復しつつあり、荷動きがある。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・個人の荷物の動きは低迷しているが、会社関係の動きは活発で、特に通信販売の動きが良い。ひろしま菓子博関係の荷動きが顕著で、それに合わせて会社関係の受注が伸びている。
		通信業（営業企画担当）	取引先の様子	・製造業、流通業それぞれの取引先で今年度の情報システムや機器に関する追加設備投資の提案機会が継続している。
		金融業（自動車担当）	取引先の様子	・自動車部品メーカーの受注は、新型低燃費車の販売好調により前年を上回っている。円安による輸出採算の改善もあって増益傾向である。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・卒業入学、入社退社等の人事異動等に伴う販売促進が好調に推移した。住宅関連、旅行関連、車ディーラー等の多方面で、受注も増えている。全体的に販売促進期間に突入して上向きに展開している。
変わらない		木材木製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・前年同月比では増加しているが、前月比較では大きな変化はない。
		化学工業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・現時点では円安による原燃料高を価格に転嫁できていない。
		鉄鋼業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・年明け以降、一時的に荷動きが回復したものの、至近は鈍化している。ただし、国内自動車は当初より上方修正され、太陽光発電関連等といった堅調な分野もある。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・昨年発売された新製品の受注量が高止まりしており、全体を支えている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中小・零細企業の景気は良くない。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新年度としての売上はほぼ順調に推移しているが、通信機器関連の設備投資は優先順位が低い。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・様々な業種の企業と金融取引を行う関係で、経営者が肌で感じる景気についてヒアリングする機会があるが、当地では景気回復の印象は依然として弱い。ただし、サービス業・小売業で長い間続いていた減収傾向は、緩和されてきている印象を持っている。経営者の景気に対するマインドは、最近の円安・株高の影響もあり、すこし明るくなっているが、それが自社の受注増に結び付いておらず、景気が回復したとの実感を持つまでには至っていない。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・消費者の財布のひもは思った以上に固く、販売関係の売上は前年と変わらない。また、製造業関連も輸出が好調と言われている割には恩恵を受けるまでには至っていない。
やや悪くなっている		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注がなく、他社の新商品が出て、大手スーパーでの弊社商品の陳列も大きく変わってきている。
		食料品製造業（総務担当）	競争相手の様子	・同業種の廃業、倒産が多発している。
		輸送用機械器具製造業（財務担当）	受注量や販売量の動き	・造船不況により、2013年・2014年は造船・船用機器業界全体の仕事量が大幅に落ち込むと見込まれ、現状でもやや悪くなっている。
		不動産業（総務担当）	それ以外	・来店数、成約件数が減少している。
悪くなっている		農林水産業（従業者）	それ以外	・3か月前と比較すると、水揚げ数量1,033t、水揚げ金額1億8,323万円の減少である。3月を前年と比較すると、水揚げ数量590tの減少で前年の71%、水揚げ金額1億1,260万円の減少で前年の72.8%であった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他製造業 [スポーツ用品] (総務担当)	受注価格や販売 価格の動き	・円安により輸出企業は好調であるが、材料・部品を輸入して国内販売を行う当社のような企業は非常に厳しい状況となっている。円高のときは販売価格を抑えられ、円安の際は材料費が上がっても価格への上乗せができない。
雇用 関連	良く なっている	—	—	—
(中国)	やや良く なっている	人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・当地域の主要産業である自動車関連企業からの派遣依頼が増えてきた。6月に販売される新車の製造に関わる求人が増えつつある。自動車部品関連企業のなかでも外部人材の活用を増やす企業とそうでない企業がはっきりと分かれるが、数か月前と比べると明るい兆しに感じる。
		求人情報誌製作 会社(広告担 当)	採用者数の動き	・地場の中小企業が採用活動に、先月に比べて本腰を入れて動き始めている印象である。
		求人情報誌製作 会社(採用支援 担当)	求人数の動き	・新卒採用を行いたいという企業からの連絡が増えている。
		新聞社[求人広 告](担当者)	求人数の動き	・2月の有効求人倍率は1.11倍で、0.01ポイントダウンしたが、高水準を維持している。景気回復が地場製造業に波及すれば雇用情勢は更に改善する。
		職業安定所(産 業雇用情報担 当)	求人数の動き	・3月の新規求人数は3か月前に比べて28.1%増加しており、正社員求人も徐々に増えてきている。
		民間職業紹介機 関(人材紹介担 当)	それ以外	・アベノミクスの実質的な経済影響はまだ実感できないが、株価上昇や政策決定などから上向きに感じられる。
		その他雇用の動 向を把握できる 者[労働機関] (職員)	求人数の動き	・境港の漁獲量の増加で水産関係が好調なことから、水産食品製造業での求人が大幅な増加となったことが目立ち、製造業全体では前年同月比で3割増となった。新規求人全体でも1割増となった。
	変わらない	人材派遣会社 (営業担当)	周辺企業の様子	・求人数が増えない。
		新聞社[求人広 告](担当者)	周辺企業の様子	・大規模なイベントへの協賛金を毎年集めている団体の話では、例年通りの金額でさえ、ここ数年は断られるケースが目立っていたが、今年は春以降、極めて順調だということである。決してデフレ脱却ではないが、事業主らの気分がかなり上向いてきたと感じる。
		職業安定所(雇 用開発担当)	雇用形態の様子	・新規求人数は前年同月と比較して増加を続けているものの、正社員求人に限ってみると、大きな変化はない。
		民間職業紹介機 関(職員)	求人数の動き	・求人数は月を追うごとに増加してきているが、雇用増加という成果が出るには時間がかかるため、現状では3か月前と大きな変化はまだ見えていない。
		学校[短期大 学](学生支援 担当)	求人数の動き	・景気が良くなるという空気はあるが、具体的にまだ実感できない。
	やや悪く なっている	職業安定所(産 業雇用情報担 当)	それ以外	・新規求職者数の増加に伴い、3か月前は1倍を超えていた有効求人倍率が0.84倍に低下している。
	悪く なっている	—	—	—

9. 四国(地域別調査機関:四国経済連合会)

(-:回答が存在しない、○:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	タクシー運転手	お客様の様子	・ハウス栽培をしている農家の人が、重油価格が上昇していることを気にしていた。また、県外資本企業の歓送迎会は例年並みであったが、地元企業の歓送迎会は少なかったと感じる。
(四国)	やや良く なっている	商店街(代表 者)	来客数の動き	・春休み中はかなりの人出があり、春休み終了後も土日を中心に観光客が多いと感じる。春物の売行きも良く、気温の上昇に伴って、夏物の出足もかなり良い。
		商店街(代表 者)	お客様の様子	・株価上昇で可処分所得が増え、都会のデパートでは前年比プラスになっているが、この勢いが地方にまで波及するには時間を要する。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（事務局長）	来客数の動き	・肌寒い日が多く、衣料品の一部では動きが鈍かったが、消費マインドは上向いていると感じる。商品やサービスに対する吟味は厳しいが、きっかけづくりが上手く出来れば購入につながる手ごたえが感じられる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	単価の動き	・母の日関連の予約は平年並みに入ってきている。昨年の売れ筋商品より500～1000円上のランクに人気がある。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・今月も宝飾品・時計などの高額品や美術品の販売数量が前年比プラスで推移している。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・高額品を購入する人が増えてきたが、一方でまだ必要な物しか買わないという動きもある。景気が良くなっている感じはしているが、まだ判断しづらい。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・売上の前年との乖離幅が少しずつ縮まってきているのは、良い傾向であると感じる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・生鮮食品を中心に売上が前年を上回り始めている。
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・来客数・購入単価ともに、ほぼ前年並みに推移している。これまで続いていた購入単価の下落が止まってきた。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・競合店の出店により来客数は減っているが、客単価は上昇しており、購買意欲は上昇していると感じる。
		コンビニ（商品担当）	お客様の様子	・価格の安い商品だけでなく、同じ品目でも高価格商品に関しての問い合わせが多くなってきている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・小物も含め購入点数が増えてきている。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・大型連休前で大変盛況である。
		観光型旅館（経営者）	お客様の様子	・まだ売上増加に結びついていないわけではないが、客の動きが良くなっており、ぜいたくというほどではないが節約をしなくなってきたように感じる。
		通信会社（企画）	お客様の様子	・引き続き、高額商品の引き合いが多い。
	変わらない	一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・花見や各種会合などの需要は例年並みにあった。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・販売量が低迷したまま、上向いていない。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	それ以外	・3月末から今月にかけて古書店や老舗の飲食店が廃業し、地域全体の雰囲気から景気は悪いと感じる。店頭売上も前年割れしている。
		一般小売店〔菓子〕（総務担当）	販売量の動き	・季節的な要因もあるが、休日の販売量は上向き傾向にある。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・以前より美術品・宝石などの高額品の動きは良くなっているが、なかなか寒さが緩まず、繊維製品などの動きが悪かった。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・生活消費財に関しては、消費動向は変わっていない。節約志向は根強く、低価格商品のニーズは高い。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・天候には恵まれたが、大型ショッピングセンターの影響を受け、休日の来客数は伸びなかった。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・3月の当社の決算を終えて、販売量が落ちた。4月の販売量は3月に比べて半減しており、5月以降も不透明な状況である。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	来客数の動き	・4月前半は特に不調だった。後半に入って持ち直してきたが、波が大きい。
		スナック（経営者）	お客様の様子	・繁華街の人通りは多くみられるが、歓送迎会のシーズンなのに、客の入りは少なく、景気が回復しているとは思えない。
		都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・景気が良くなっているような雰囲気だが、それが全く実感できない。アベノミクスと言われているが、見せかけだけという気もする。
		旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・国内旅行の申込は前年を上回っているが、円安や新型インフルエンザ流行の影響で海外旅行の申込が減少している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・タクシーに乗る客が少ない。乗車があっても近距離利用が多い。お遍路さんも今年は少ない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・景気は少しずつ上向いてきているのではないと思う。しかし、来場者数や単価の推移からみると、まだ変化は見られない。
		競艇場（職員）	販売量の動き	・売上高は前月とほぼ同じであったが、3か月前比では18.3%の大幅な減少となった。ファンの高齢化が進んでおり、新しいファンの開拓を考えなければならない。
	やや悪くなっている	衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・4月中旬は気温が低下して売上が大きく落ち込んだ。月末にかけて気温が上昇したため売上は回復したが、月全体では前年比5%前後下回った。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・登録ベースの販売量では3月受注分が4月登録になるため前年を大きく下回ることはないが、4月の受注状況をみると、前年を17%程度下回る見込みである。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・受注・販売とも前年を割っている。
	悪くなっている	美容室（経営者）	お客様の様子	・来客数が減少し、客単価も下がっている。
企業動向関連	良くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・小売店からの発注が昨年に比べて大幅に増えており、アベノミクスで消費マインドが上向いているように感じる。また今年はゆるキャラブームに関連するタオルが飛ぶように売れている。
(四国)	やや良くなっている	食料品製造業（商品統括）	それ以外	・円安が有益であることが世界的に共通認識となったことによる安心感が感じられる。
		鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・受注価格は低いスポット的な受注があり、3か月前と比べると上昇傾向にある。
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・円安の影響で海外との取引が増加しつつあり、採算面も改善してきている。拡販のための環境が整いつつある。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き合い件数が非常に多くなっている。新設やメンテナンスも含めて設備案件が多い。大型の設備案件も増えてきた。
		通信業（部長）	取引先の様子	・取引先との商談において輸出産業を中心として景気回復基調にあるとの話を良く聞くようになった。
		通信業（総務担当）	競争相手の様子	・業界の総販売数は若干増えている。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・株価上昇の影響により高額商品の売上がやや増加している。
		公認会計士	取引先の様子	・今月の関与先企業の試算表等を見ると、売上が前年比で減少している企業がかなり減ってきている。景気がやや持ち直してきていると判断できる。
	変わらない	木材木製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・アベノミクス効果・消費税増税を控えた需要・復興需要により景気は上向いていると感じている。ただ、円安傾向で、輸入する原材料価格が上昇していることが気がかりである。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・円安が急激に進み、原料などが高くなっている。値上げをしなければ採算に合わなくなってくるが、販売先の圧力が強いので厳しい。
建設業（経営者）		受注量や販売量の動き	・公共工事が前年比で横ばいから微増程度で推移しており、手持ちの業務量も例年よりも多い。3か月前と比べて良くも悪くもなっていない。	
建設業（経営者）		それ以外	・ガソリン等の値上がりなど円安の悪影響ばかりが目立つ。	
輸送業（経営者）		取引先の様子	・取引先などからの要求は相変わらず厳しく儲からない。	
やや悪くなっている	電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・年度末を終えた反動で、国立病院や大学向けの売上が減少している。	
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・新年度に入って、荷主による生産調整が再スタートしたことから、輸送量が減少している。	
	悪くなっている	—	—	—
雇用関連	良くなっている	—	—	—
(四国)	やや良くなっている	求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・中途採用が少しずつ活発になっている。3月決算を踏まえて、新規や補充での人員採用を考え始める企業がやや増えている。前年同期と比べて企業の採用マインドが高くなっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・サービス業の事業拡大や新設に伴う求人増加、また、卸・小売業での新店舗オープンに伴う求人増加が目立っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・人材派遣サービスに関する職域の幅が、以前と比較して大幅な広がり認められない。
		人材派遣会社 (営業)	採用者数の動き	・アベノミクスが景気回復へと繋がると言われていたが、人材確保に向けての企業の採用はいまだ慎重で、人員補充や季節労働の求人はあるが、前向きな採用の増加は見受けられない。
		新聞社 [求人広告] (担当者)	周辺企業の様子	・企業から積極的に投資する動きは出てきておらず、広告の出稿は自動車販売店がやや前年を上回っているくらいである。ただし賃貸を含む市内の不動産は東京や大阪の企業からの問い合わせが増えているようである。
		職業安定所 (職員)	求人数の動き	・有効求人のうち、正社員の占める割合は大きく変化していない。
		民間職業紹介機関 (所長)	採用者数の動き	・景気の高揚感が伝えられているが、地元企業で採用者増というところはあまり無い。まだ様子見というところが多いように思われる。
		学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・求人数は昨年や一昨年の同期に比べて増えているものの、前月よりあまり伸びていない。
	やや悪くなっている	人材派遣会社 (営業担当)	採用者数の動き	・新卒社員の入社により求人が少なくなっており、製造業の求人伸び悩んでいる。
職業安定所 (職員)		それ以外	・3月の月間有効求人倍率は0.90倍で、3か月前より0.05ポイント低下している。	
悪くなっている	—	—	—	

10. 九州 (地域別調査機関: (公益財団法人九州経済調査協会))

(—: 回答が存在しない、○: 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	商店街 (代表者)	お客様の様子	・売上にさほど変化はないが、来店する客が以前より増えている。購買に直接つながらないが、何か欲しい、何かを求めようという購買行動の前段階の行動が十分にみられる。
		商店街 (代表者)	来客数の動き	・入学、卒業の時期でもあるので来客数は増えている。メディアのいろいろな情報により不安もあるなか、家族連れ、お年寄りの方が町に向かって何かを求めてきているので、これからもっと町づくりを考えていく必要がある。
		商店街 (代表者)	来客数の動き	・暖かくなり、土・日・祭日の来客数が減少しているが、平日の来客数が伸び、土・日・祭日の来客数減少をカバーできており、客単価も若干増加している。
		商店街 (代表者)	お客様の様子	・気温の上昇とともに春物衣料の動きが順調である。連休直前と旅行シーズンを控え、また母の日のギフト用商品も購買の動機の一つになっている。
		百貨店 (営業担当)	お客様の様子	・高額かつら販売催事や先月に続き開催したクレジット催事も好調である。催事期間中の声掛けで新規会員獲得も好調で、客の購買意欲が感じられる。また、今週開催の北海道物産催事も来店客数増の効果がみられ、連日盛況に開催している。また、街ぐるみの集客策で近隣地区への客足が伸び活気が出てきた。
		百貨店 (営業統括)	単価の動き	・宝飾や時計などの高額品の売上と単価が上昇し始めた。
百貨店 (営業政策担当)	販売量の動き	・天候与件に加え、天神地区専門店のリニューアルの影響等で、自店の入店客数は一進一退だが、施策やプロモーションに対する客の反応が良くなってきており、買上率がやや上昇している。また、天候与件や買上点数が上昇することで客単価も伸びてきており、売上高は前年水準を維持、ないしは上回っている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・売上は、1月が浜屋前年比99%、ゆめサイト同99%、アミュプラザ同99%である。今月の見通しは浜屋前年比101%、ゆめサイト同98%、アミュプラザ同101%ということで3か月前より若干良い。衣料品に関しては今月中旬に気温がかなり低下して苦戦したが、若干今盛り返してきている状況で前年実績を超えており、アミュプラザ前年比99.4%、浜屋同103.4%となっている。食料品はアミュプラザ前年比98.2%、浜屋同103.1%、見回り品はアミュプラザ前年比97%、浜屋同104%となっている。入店客数は、浜屋が3か月前前年比96.3%、今月は同99.5%位でほぼ100%となっている。
		コンビニ（エリア担当・店長）	お客様の様子	・レジでバリスタコーヒーの販売を始めた影響で、客単価は少し下がっているが、その分客数が伸びて売上自体は増えている。まだプラス1品の買物が少ないようだが、少しずつ客数が上向いている。
		衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・客数は伸びていないが、客単価が上がっている。相変わらずフリー客は少なく、顧客の動員に頼っている。景気の良さを見聞きするが、実感できるほど売上は上がっていない。
		衣料品専門店（チーフ）	単価の動き	・歳末商戦を終えても売上が加速して伸びている状況がみられ、アベノミクス効果も少し表れていると思う。ゴールデンウィーク入る前の4月後半に関してはやや低迷気味である。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	競争相手の様子	・相次ぐ近隣の競合店舗のリニューアルにより客数、販売量が低下している。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	販売量の動き	・空港での売上が前年比115%と増えてきた。季節的要因で増えたのか、景気がやや良くなり増えたのか、はっきりしない。2、3か月様子をみる必要がある。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	来客数の動き	・客数については、競争環境が激しくなるなかでも持ち直し傾向にある。より低価格を求めて、複数店舗を買い回る傾向がみられる。客数は増加傾向にあるものの客単価は上がらない。1点単価が下がる一方で、1人当たりの買上点数はなかなか増えない。
		高級レストラン（支配人）	単価の動き	・ディナーで高いコースが出るようになった。
		都市型ホテル（副支配人）	お客様の様子	・一般の団体や個人のビジネス、インバウンドの個人のビジネス、またインバウンドの修学旅行、団体修学旅行といろいろな多方面の客層が増えて入っている。
		旅行代理店（企画）	販売量の動き	・4月に入って2週間で受注が増加傾向にある。販売額、販売人員共に個人旅行においては、4月は前年並みだが、5月分は前年同期と比較し、国内海外共に人数と販売額が下回っている。一方で、6月分は前年同期比を上回っている。特に海外旅行が好調である。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・様々な企業の客を訪問するが、すべてではないが、やや良くなった、あるいはやや良くなりつつあるという客のほうが多い。
		美容室（店長）	お客様の様子	・旅行に行くという客が多くなった。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・季節要因により顧客増が見込まれ、また介護報酬改定から1年経過し客の利用控えも減少傾向にある。
		設計事務所（所長）	販売量の動き	・公共工事に期待でき、また民間の個人住宅が消費税増税前の駆け込みなのか、少しずつ増えている。
		設計事務所（代表）	お客様の様子	・問い合わせが増えた。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・春先から住宅イベントでの集客数が増えてきている。ゴールデンウィーク前半の集客数も前年を上回っている。ただ、現時点では受注数の増加にまでは至っていない。
		住宅販売会社（代表）	それ以外	・状況的にはやや良くなっている。理由としては、新築の住宅の建設でいくと、大工、基礎工事業者の仕事の状況がかなり先まで埋まっている状況が見受けられる。いろいろな理由はあるが、そういう状況を見るとやや良くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・政府の経済対策・アベノミクスで景気がかなり上向いていると言っているが、実際には来客数、販売量等々上向いている状況ではない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・マスコミ等でアベノミクスという言葉を国民に使って景気が良くなるようなことを言っているが、零細企業においては、一般庶民の給料が上がらず、これから電気代が上がるといふときに、景気が良くなるのか少々疑問である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・景気は変わらない。アベノミクス効果で大手企業は上昇傾向とメディアで取り上げられているが、中小企業、主に当店のような小売販売店には全くといっていいほど影響がない。当店はキャンペーンなどを組まない品質重視の定価小売販売であり、消費者は安い金額の方に行くため、来客数は減ってきている。
		一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・宮崎産の果物の進物関係は、去年の相場に比べて2、3割安いことと、また、取引先である野菜を納品しているピザ屋では、今回のゴールデンウィークの発注が、去年の2、3割減の発注量となっているので、変わらないどころか、少し厳しい状況が続いている。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	それ以外	・3か月前と比べて特段の景気の変化はない。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	販売量の動き	・新茶も徐々に入荷しているが、売行きは鈍く販売量も単価も低い。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・3月は気温が高く推移したこともあり、売上が順調に推移したが、4月は気温が低い日が多く春物衣料の動きが悪かった。3月は景気が安定してきたと感じていたが、4月の商況をみると、まだまだ安定して回復していないようだ。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・主力であるメンズ、レディースファッションテナントの売上が回復しない。また、飲食テナントの客数が前年に比べ増加せず、売上也伸びてこない。
		百貨店（企画）	販売量の動き	・購入単価・数量、買上率、商品単価に大きな変化がない。
		百貨店（店舗事業計画部）	販売量の動き	・餞別・返礼等の個人向けギフトや入学・卒業関連、ブライダルジュエリー等では利用があるが、気候が不安定ななか、衣料・雑貨の売上が影響を受けており、多くの客にファッションを消費する余裕が出ているとは言い難い。
		百貨店（業務担当）	お客様の様子	・今年は春の到来が早く、衣料品の春物の動きに期待したが、4月に入り寒暖の差が激しい日が続き、客も買物を控えることが多く、全体としては昨年より悪い。高額品の動きもそれほど良くない。ただ、円安により輸入物の値上がり、価格改定前の駆け込み需要は強い。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・食品はポイント還元や割引、セールの日売上が集中しており、競合店も同じような状況で、客はよりお得な店を買い回りしている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・売上の状況は、天気、気温、曜日等の要因に大きく左右されるため、前月が良かったから今月が悪いとかという状況ではなく、景気の底固さというのは全くない。
		スーパー（店長）	単価の動き	・販売数量は3か月前よりも増えているが、販売単価の伸びが今一つである。
		スーパー（総務担当）	それ以外	・気温の低下もあり、春物・初夏物の動きが伸びてこない。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・近隣地区に同業他社の参入がある等、経営環境の変化以外には大きな変動はない。客単価も低単価品だけでなく、若干ながら高額商品に動きがみられ、改善の兆しはみられるものの、売上を押し上げるまでの変化はない。春物は特に衣料品の動きが鈍く、生活雑貨の動きが良かったが、衣料をカバーするに至っていない。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・花見需要が3月にずれ込み、惣菜や飲料等の販売量が4月初めに落ちこんだ。
		スーパー（業務担当）	販売量の動き	・衣料品に関して、3月の気温上昇期には春物の動向が期待できたが、今月に入ってから春物の販売消化率が極端に低下している。朝晩の温度差が激しいこともあり、例年は今頃から動き始める半袖も不調が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・コンビニエンスストアの客は目的買いの客が大平なので、自分が必要な物だけ買って行く傾向がある。景気が良くなると、他の商品も購入するついで買いの行動が出てくるが、今のところ客単価の上昇がみられないため、景気の大きな変化はないと判断している。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・平年は3月中旬より気温も上昇し、水ものと言われる飲料、アイス、夏弁当が売上の中心となるが、本年は異常気象により売れず前年を下回っており、厳しい状況である。景気回復の兆しがあると言われており、地方ではその兆しが全くみえない。都市だけの話である。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・来客はあるが、依然客の財布のひもは固く、売上に繋がっていない。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・日によって来店する客にばらつきがある。一か月でみると大体同じ来店客のようだ。
		衣料品専門店（総務担当）	競争相手の様子	・商店街の同業他社の話や、上場企業における20日締めの上動向等をみると、3月にかなりの需要を先食いした結果として、4月の販売はあまり芳しい話聞かない。
		衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・1月に比べて4月は定価品が売れる時期であるが、確かに高額な物の動きはある。また高額な催事も成功している。ただ、買いやすい物、安い物の単品買いという傾向も一方にあり、この経済効果がどこまで続くか分からないが、二極化しているような月だった。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・家電についてはずっと悪い状態が続いていて、一向に良くなる気配がない。販売量をみても、来店数をみても、非常に悪い数字が続いている。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・例年動き出す夏物商品が不調で、売上をけん引する商品が見当たらない。
		家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・売上前年比で比較すると状況はあまり変わっていない。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・ハイブリットカーなどのエコカーの販売が引き続き順調である。
		その他専門店 [コーヒー豆] (経営者)	販売量の動き	・2、3か月前と比べると売上の的には全く横ばいの状態である。ただし、コーヒーの販売量は増えている。顧客の数は若干出足が鈍いところがあるが、その割には客の購入単価が上がっているため、景気は変わらない状態である。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	お客様の様子	・燃料油の小売価格は、下げ基調となり大きな変動はない。カーケア商品である洗車においては、高額商品であるコーティング商品を購入する顧客が、微増ではあるが増えつつある。
		その他専門店 [書籍]（地区支配人）	販売量の動き	・年間を通して月商売に差があり、3か月前の1月は4月より高く、販売量として4月は低かった。ここ数か月の前年実績を超えない傾向に変わりなく、マイナス成長の基調に変化がみられない。
		その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (支配人)	販売量の動き	・特に目立って売上が上がっている様子がない。
		高級レストラン（専務）	来客数の動き	・外国人客が少し増え、テレビやマスコミではアベノミクスにより少し良くなると期待しているが、普通のウィークデーは利用客が少なく、金土日偏っており、まだまだ心配である。
		居酒屋（経営者）	来客数の動き	・歓迎会シーズンであるが客数が少ない。歓迎会をしなくなった会社が多いようである。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・今月は宿泊・宴会・レストランとも計画・前年を大きく上回った。人の動きも活発である。
		都市型ホテル（販売担当）	単価の動き	・客の予算などは一向に上がっておらず、財布のひもも固く閉じたままで、安い物に飛びつく傾向にある。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・例年の予約状況と比較しても大きな変化はみられない。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ゴールデンウィークについて、国内は近場を中心に好調である。海外は回復傾向にあった韓国がここにきてミサイル問題などの影響で悪くなり、日並みの悪さもあり低調である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		タクシー運転手	販売量の動き	・長崎においては観光客がかなり上向きの状況である。稲佐山の夜景観光が世界の3大夜景に指定されたこともあり、観光客がかなり増えている。我々にもかなりその影響が出ている。しかし、夜間における歓楽街の動きは鈍い。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今年に入って月末、月初めが特に悪く、中旬辺りで少し盛り返しがみられるが、良いとも悪いとも言えない状態である。
		タクシー運転手	来客数の動き	・会社関係のチケットの扱いは多くなったが、全体的に出控え、買い控えがあつて少し客足が鈍っている。
		通信会社（管理担当）	それ以外	・相変わらず資金繰りが厳しい状態が続いている。
		通信会社（業務担当）	販売量の動き	・4月は例年同様、月初の販売台数は上がっているが、月中から月末については販売が低調で、人気商品の品薄もあり、平日、週末共に来店客数、売上台数が下がってきており、厳しい状況が続いている。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・昨年に比べても今年は非常に客足が少なく、それに伴ってゴルフプレーする県外客が減ってきている状況で苦戦している。また、地域としても地元のプレーヤーに対しては値引きをしたり、プレー価格を下げたりしないとなかなか来てもらえないという状況が続いている。
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・4月上旬は年度初めや異動時期で仕事が多忙なのか来客は低調であったが、その後は春のコンペや個人客が順調に入っている。しかし、中央で経済指標が活発に伸びているほどに地方の消費は伸びておらず、客足の動きは例年並みである。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・販売量がどうしても今一つ上がっていかない。販売量の動きをみると、客の景気回復が遅れているようだ。おしゃれ産業では、毎月の売上そのものが景気回復のバロメーターになっているのが、今一つ末端まで景気回復していない。
		美容室（店長）	来客数の動き	・サラリーマンの異動月であったので、来客に変化があった。
		音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・今月あたりは生徒が父親の転勤等で動く。また、進学により生徒がレッスンを辞める。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・宅建業の住宅関係は、客の様子から株価が上がるなど景気が良くなるというような話はあるが、実効的に景気が良いとか、賃金が上がるという話は現実味が伴っていないので、需要に結びつくような動きが今のところみられていないのが現状である。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・4月は暖かかったり、寒くなったりと天候不順のためになかなか売の商品の焦準が定まらず大変苦労した。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・今月は気候の関係で少し気温が上がらなかったもので、ボリューム層の動きが非常に鈍かった。3か月前に比べてやや悪いのは、アベノミクスの効果が現実になり、それが今後の経済環境改善への期待につながらなかったためとみている。夏のボーナス以降どうなっていくかが非常に注目される。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合店がちょうど1年前にできて、売上の前年比の91.5%位で推移している。生鮮食品の特に青果が相場安のため、前年の8掛けとなっており、青果が一番苦しい状況である。衣料品も夏物衣料があまり芳しくない状況で前年比93%位で推移している。全体的には現状厳しい状況で推移している。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・現状、競合店調査を進めるなかで価格競争が激しくなり、売価を下げざるを得ない。客数はかなり回復してきたが、利益が圧迫された状態が続いている。
		コンビニ（販売促進担当）	単価の動き	・3月は若干ではあるが今までよりは良かったが、4月に関しては1、2月に逆戻りして終わった。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・決算が終わり極端に客の来店が少なくなった。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・4月の動向は、最初のほうは少しずつ客も動いていたが、ゴールデンウィークが近づいた月末になって予約、客の伸びが鈍った。先月の回答で4月はアベノミクスの経済効果で良くなるのではと思っていたが、思ったような好結果は得られなかった。
		通信会社（総務局）	販売量の動き	・新規契約数の伸びが鈍化、反面解約数が増加しており、純増は横ばいである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・季節的に販売量が上向くはずだが、その傾向がない。
	悪くなっている	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	単価の動き	・高いものが売れない。珍しいものをもとって高くても仕入れたが、結局残って安くしないと売れない。
企業 動向 関連 (九州)	良くなっている	○	○	○
	やや良くなっている	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新年度に入り、スーパー向け、居酒屋向けが順調な流れである。ただ、加工メーカー向けは少し弱いようだ。供給が多いというのが一番の原因である。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・小規模な特注家具製作会社にも受注が入り、今月の生産が追い付かない業社が多くなっている。また、配送業者も配達量が2割増しになっているとのことである。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・生産量は5%増の見込みである。
		通信業（経理担当）	それ以外	・平成24年度の決算が確定し、業績が大幅に向上した結果、年度末の一時金が例年額に加増支給された。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・金属製品等の生産が減少する一方、百貨店では売上がやや回復した。また、災害復旧関連工事を含め公共工事が増加してきているほか、韓国、台湾などからの観光客が増加しており、雇用面でも若干改善している。
		金融業（営業職 渉外係）	取引先の様子	・販売先からの受注が上向きになっており、機械などの設備投資にも前向き傾向である。取引先の資金需要が増加している企業が増えている。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・取引先の小売業では、高額商品が売れているようだ。株価上昇に連動した動きと整合的だ。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先に業況を聞くと、上向きであるという回答が多く、苦戦しているという話を聞くことが少なくなってきた。
	変わらない	農林水産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・畜産関係の販売は、牛、豚、鶏、加工品とも今までとあまり変わらないくらいで推移している状況である。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・安定的な受注があり、工場稼働率が高く推移している。
		繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は去年より少ない。新しい物件があるものの、全体的に在庫調整などで生産は抑えられている。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年度に入ってから、いくらかアベノミクスで良くなると期待したが、焼物業界ではそういう声は増えていない。受注関係においてもあまり変わっていない状況である。消費税アップという面にしても、商品が高額でないので影響がない。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が思ったほど増えていない。ユーザーが決算期を迎えて次の計画中ではないかと予想される。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は今までとほとんど変わらず少なく、受注するためには採算を度外視して単価を下げ受注する状況である。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・発注先から仕事量が全体的にダウンしており、これからどうなるのかという難しい局面に入っているのが実情である。従って、悪い状態で変わらない。
		精密機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月は、3か月前と生産量も変わらない状態にある。
	建設業（社員）	競争相手の様子	・若干の補正工事が発注されて例年よりは良いが、同業者のなかには年度末で手持ち工事が完了して、仕事がないとよく聞く。平成24年度の補正予算分が全部発注されてはいないようだ。早期の発注を願う。	
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・円安でコスト高になっている荷主が多い。しばらくは厳しい状況が続く。	
	輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・3月の年度末には若干の盛り上がりはあったが、他の時期はあまり変わらない。	
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・中小零細企業は、全般的に長期間続いたデフレにより材料・資材などの輸入品に依存した経営を続けてきた。最近の急激な円安は徐々に収益を圧迫し始めている。したがって、マクロ的には景気浮揚の雰囲気はあるが、実態は低迷したままの状況である。	
	新聞社（広告担当）	受注価格や販売価格の動き	・年度初めの4月は新聞広告の出稿が伸び悩むが、通販や化粧品広告は順調で前年を超えた。反面、3月まで売上をけん引していた住宅設備の広告出稿が少なく、全体ではやや前年を下回った。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・いろいろ営業活動をやっているが、それが成約に結びつかない。	
		経営コンサルタント(社員)	取引先の様子	・業態変更が行われている。良い傾向だ。	
		経営コンサルタント(代表取締役)	受注量や販売量の動き	・景気が良くなっているというようなことをマスコミでは伝えているが、現実の数字としては3、4月とも大して変わらない。昨年と比べて特に増えていることはない。一つプラスなのは、建築が結構目について増えてきており、不動産や建築関係の受注は増えているようだということである。	
	やや悪くなっている	その他サービス業〔設計事務所〕(代表取締役)	取引先の様子	・市町村が発注する建設関係の調査・計画は、3月に補正予算が組まれた関係で、4月になって発注されている事業が少ない。	
	悪くなっている	—	—	—	
雇用 関連 (九州)	良くなっている	○	○	○	
	やや良くなっている	人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・求人依頼の件数が前年比50%増加している。	
		人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・パーティコンパニオンの派遣を行っているが、昨年よりも4月の稼働率が高くなっている。	
		人材派遣会社(社員)	雇用形態の様子	・実質雇用の現場で、求職者の囲い込みをするなど一般的な雇用増はないものの、株価浮揚による証券事務の増員や贈与税軽減の教育資金の取り込みによる信託銀行の増員は、既にある。	
		人材派遣会社(社員)	それ以外	・派遣に登録するスタッフも増えているなかで、正社員が決まったので、登録解除をしたいという方も増えている。	
		人材派遣会社(営業)	求人数の動き	・求人数が増えてきている。	
		求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・フリーペーパーの設置をしているが、返本数が増えている。求職者が減少傾向にある。	
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	それ以外	・株価が上昇している。	
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	それ以外	・些細なことだが、オフィス街の夕方、あるいは週末の繁華街の人出が増えている。また、飲食店なども例年の同月と比べても、客入りが明らかに多い。	
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人は前年同月比で7か月連続増加、新規求職は4か月連続減少しており、雇用状況は改善している。	
		職業安定所(職員)	採用者数の動き	・3月の動向をみると、就職件数は前年同月比14.0%増となっている。	
		職業安定所(職業相談)	求人数の動き	・このところ卸売・小売業、飲食業、宿泊業を中心に、新規求人数が増加傾向にある。	
	変わらない	人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・新年度がスタートしたものの、大幅な派遣依頼は多くなく、通常通りと変わらない。	
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	求人数の動き	・新聞の求人広告は医療・福祉分野や調理補助のパートなどが堅調に推移している。	
		民間職業紹介機関(社員)	求人数の動き	・派遣従業員数は3か月前から比較すると6%程度落ち込んでいる。年度替わりのタイミングで契約が終了するため、例年の傾向ではある。求人数も3%程度落ち込んでおり、今のところ、例年通りであるが、法規制により短期単発の仕事が減少していることから全体的に落ち着きすぎている。	
		民間職業紹介機関(支店長)	求人数の動き	・求人数が上昇傾向を示す材料は見当たらないが、横ばいで推移してきた。	
		学校〔専門学校〕(就職担当)	雇用形態の様子	・円安、株高で景気動向は上向きだが、雇用に関しては特に地方の場合、まだそこまで改善されていない。	
		学校〔大学〕(就職支援業務)	求人数の動き	・求人依頼で来訪する企業のうちいくつかは前年度より求人増の意向を示しているが、景気の動向に結びつくような顕著な動きにはなっていない。	
		やや悪くなっている	—	—	—

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪く なっている	—	—	—

11. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (沖縄)	良く なっている	○	○	○
	やや良く なっている	一般小売店〔菓子〕	販売量の動き	・前年度より売上高が伸びている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数が前年より増加している。外国人観光客、特に中国人が増えている。県産の商品を目当てに買っている。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・シーズンも関係するが、客の購買意欲が増しているようにも見受けられる。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	来客数の動き	・売上には大きな変化は無いが、商品等の問い合わせや小物の物品の動き、消費が増えてきている。県外からの問い合わせも多くなってきている。
		その他のサービス〔レンタカー〕（営業担当）	来客数の動き	・4月の貸し渡し件数は、前年比で108%となっており、観光客の利用が順調に推移している。特にゴールデンウィークは前年に比べて好調である。
		住宅販売会社（総務・企画分野）	お客様の様子	・今月の住宅展示棟への来場客数は、ゴールデンウィークとも重なっているが、良い状況である。ゴールデンウィークの後半についても期待ができる。また、主なターゲットである共働き世帯を含めて集客も多く、商談内容も悪くはないため、3か月前と比べると景気は良くなっていると感じられる。
		住宅販売会社（代表取締役）	お客様の様子	・住宅や民間アパート、外国人向け賃貸住宅、商業施設に関する設計相談が増えている。さらに実際に建築するかどうかの曖昧な態度ではなく、建築するので急いでいるという方が多い。
	変わらない	百貨店（営業企画）	販売量の動き	・店舗全体としての3か月前と前年同期比の伸び率は変わらず、前年並みの推移となっている。売上高の内容については、元売場では前年比105%と好調ながらも雇事場では前年比90%の苦戦、会員の動員企画の苦戦等、影響が出ている。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・3か月前と比較すると、売上高、来客数共に大きな差は無く、前年並みで推移している。
		スーパー（販売企画担当）	来客数の動き	・競合店が2店舗できてから来客数が減少している状況が続いている。うち1店舗は一巡したため、付近の店舗への影響としては前年並みになっているが、効率は悪い。また他の1店舗は一巡していないので、その付近の店舗への影響がまだあり大変厳しい状況が続いている。最近また他の大型の競合店が近くに新店出している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数前年比が10%減の状態が数か月続いている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・例年より雨も多いうえ、週末ごとの雨もあり、アイスや乳製品の売上が伸びず、全体の売上に影響している。日焼け止めや制汗剤類も悪天候で低迷している。菓子類はオリジナル商品の販売が好調で前年を上回っている。
観光型ホテル（マーケティング担当）		販売量の動き	・稼働率の前年同月比プラス幅が3か月前とほぼ同様である。当初の予約状況においては、下回りそうな傾向ではあったが、当月に入ってから予約受注も伸び、好調に推移している。	
やや悪く なっている	通信会社（サービス担当）	単価の動き	・目新しい商品が無く横ばいである。キャッシュバック施策により泥仕合になってきそうである。	
	ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・来客数は減り、単価も少し下がって悪くなったように見受けられるが、例年このような流れであるので、景気は変わらないとみている。	
	その他専門店〔書籍〕（店長）	販売量の動き	・3か月前から販売量、来客数共に減少傾向にある。また前年比においても、その開き、乖離幅は大きくなってきている。	
	通信会社（店長）	販売量の動き	・前月まで前年を上回るペースで推移してきたが、今月は前年比で80%と落ち込んでいる。競合他社への乗換えが原因で、消費者がシビアに商品を選んでいる様子がうかがえる。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪くなっている	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・今月に入って急激に平日の地元客が減っている。連休でお金を使うので、連休前と連休後の給料日までは例年落ちるが、それでも90%以下で推移している。観光客は増えているが、消費単価が上がらない。
企業動向 関連 (沖縄)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	輸送業（本社事業本部）	受注量や販売量の動き	・取引先の状態が良くなっており、特に建築関連では消費税値上げに伴う駆け込み需要が増加傾向にあり、設備関連の増加も見受けられる。
	変わらない	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共工事はやや減少、民間工事はやや増加、出荷全体ではほぼ横ばいの動きである。
	やや悪くなっている	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注件数及び受注金額が下降気味である。
	悪くなっている	食料品製造業（総務）	取引先の様子	・円安や原料価格の上昇の影響で仕入価格が上昇しているが、価格転嫁が難しく利益率が悪化しているとの話が聞こえてくる。
雇用 関連 (沖縄)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・派遣依頼が今年に入って増えてきたが、特に前月からの増加が大きい。職種も幅広く新規の依頼もある。
		人材派遣会社（総務担当）	求人数の動き	・新年度に入っても、受注案件は好調に推移している。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	採用者数の動き	・日本の政権が元気を取り戻している感があり、その影響が企業にも出ているとみている。今月の内定者数は前年をはるかに上回っている。
	変わらない	○	○	○
	やや悪くなっている	—	—	—
	悪くなっている	—	—	—